

TURUNOUCHINAKAZURU
鶴野内中水流遺跡

特定交通安全施設整備事業に伴う発掘調査報告書

1999年

宮崎県埋蔵文化財センター

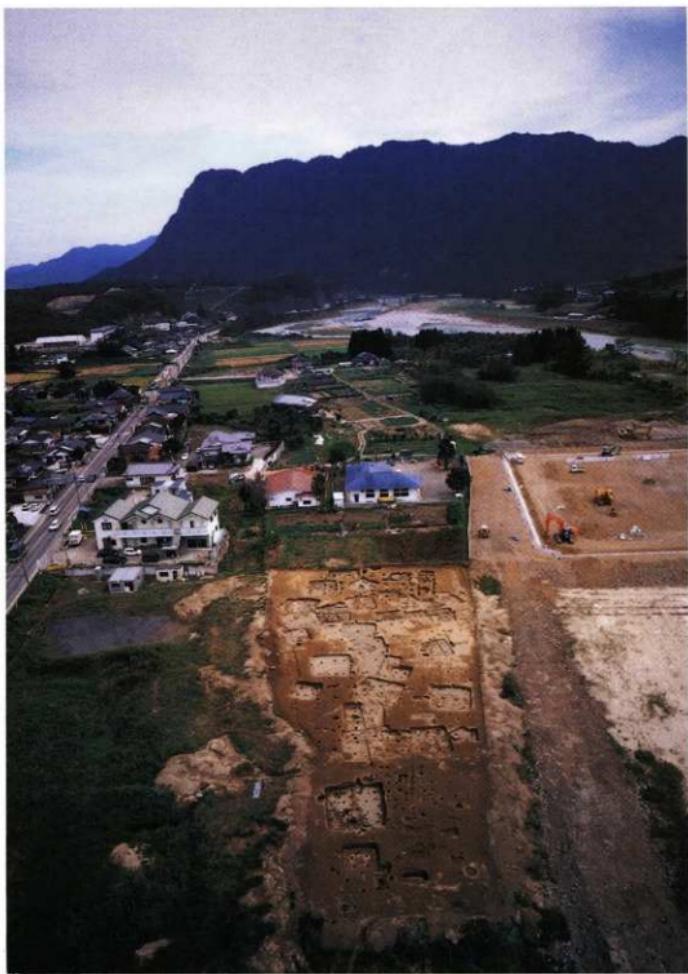
TURUNOUCHINAKAZURU

鶴野内中水流遺跡

特定交通安全施設整備事業に伴う発掘調査報告書

1999年

宮崎県埋蔵文化財センター



序

埋蔵文化財の保護・活用に対しまして、日頃より深い御理解をいただき厚く御礼申し上げます。

宮崎県教育委員会では、特定交通安全施設整備事業に伴う鶴野内中水流遺跡の発掘調査を実施しました。本書はその発掘調査報告書です。

今回の調査では、弥生時代中期から古墳時代後期及び近世の集落跡が確認され、多くの土器や陶磁器などが出土しました。これらの中には瀬戸内地方との交流をうかがわせる土器も含まれています。先人の歩みを振り返り、郷土の歴史を解明する貴重な資料を得られたことは大きな成果といえるでしょう。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言をいただいた先生方、並びに地元の方々に心からの謝意を表します。

平成11年3月

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 田 中 守

例　言

- 1 本書は、特定交通安全施設整備事業に伴う発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成9年6月2日から平成9年10月3日までおこなった。
- 3 現地での実測図作成および写真撮影は主として高橋誠、東憲章、甲斐貴充が一部整理補助員の協力を得ておこない、空中写真撮影は株式会社スカイサーベイに委託した。
- 4 遺物・図面の整理は宮崎県埋蔵文化財センターでおこない、遺物の実測・拓本・計測などについては、整理補助員の協力を得て高橋がおこなった。
- 5 遺物の写真是高橋が撮影した。
- 6 本書で使用した位置図は国土地理院発行の1/50,000を基に作成した。
- 7 土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局ほか監修の「新版標準土色帳」に換った。
- 8 本書で使用した方位は主に磁北で、レベルは海拔絶対高である。
- 9 本書で用いた遺構記号はS A：竪穴住居跡、S B：掘立柱建物跡、S C：土坑、S J：竈跡である。
- 10 本遺跡で出土した獸骨については、鹿児島大学農学部家畜解剖学教室に分析を依頼し、西中川駿氏、塗木千穂子氏から玉稿を賜った。
- 11 本書の執筆は第1章第1節を飯田博之がおこない、そのほかを高橋がおこなった。編集は高橋がおこなった。
- 12 鵜野内中水流遺跡に関する遺物・実測図などは宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本文 目 次

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 遺跡の位置と環境	2

第2章 調査の成果

第1節 調査の概要	4
第2節 層序	7
第3節 弥生時代・古墳時代の遺構と遺物	8
第4節 近世・近代の遺構と遺物	70

第3章 まとめ	110
---------------	-----

《付論》

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	3	第18図 S A11・12	26
第2図 鶴野内中水流遺跡周辺地形図	4	第19図 S A13・14	27
第3図 鶴野内中水流遺跡遺構配置図	5~6	第20図 S A11・13・14出土遺物実測図	28
第4図 鶴野内中水流遺跡土層断面図	7	第21図 S A15・16	30
第5図 S A 1・2	9	第22図 S A15出土遺物実測図	31
第6図 S A 2出土遺物実測図	10	第23図 S A15出土遺物実測図	32
第7図 S A 3・4	11	第24図 S A16出土遺物実測図	33
第8図 S A 3・4出土遺物実測図	12	第25図 S A17・18	34
第9図 S A 5・6	14	第26図 S A19	35
第10図 S A10出土遺物実測図	15	第27図 S A20	36
第11図 S A 7・8	17	第28図 S A17・20出土遺物実測図	37
第12図 S A 6・7出土遺物実測図	18	第29図 S A21・22	39
第13図 S A 8出土遺物実測図	19	第30図 S A23	40
第14図 S A 8出土遺物実測図	20	第31図 S A24	41
第15図 S A 8出土遺物実測図	21	第32図 S A23・24出土遺物実測図	42
第16図 S A 9・10	23	第33図 S A25	43
第17図 S A 9・10出土遺物実測図	24	第34図 S A26	44

第35図	S A27	45	第56図	包含層出土遺物実測図	69
第36図	S A25・26・27出土遺物実測図	46	第57図	S B1・2	73
第37図	S A28	47	第58図	S B3・4	74
第38図	S A28出土遺物実測図	48	第59図	S B5・6	75
第39図	S A28出土遺物実測図	49	第60図	S B7・8	76
第40図	S A29・30	51	第61図	S B9・10	77
第41図	S A31	52	第62図	S B11	78
第42図	S A30・31出土遺物実測図	53	第63図	S B12・13	79
第43図	S A32	54	第64図	S J1・2	81
第44図	S A33	55	第65図	S J3・4	82
第45図	S A34	56	第66図	石積土坑	83
第46図	S A32・34出土遺物実測図	57	第67図	S J1・2	
第47図	包含層出土遺物実測図	59		石積土坑出土遺物実測図	84
第48図	包含層出土遺物実測図	60	第68図	S C1・2・3・4	86
第49図	包含層出土遺物実測図	61	第69図	S C5・6・7	
第50図	包含層出土遺物実測図	63		S C5出土遺物実測図	87
第51図	包含層出土遺物実測図	64	第70図	包含層出土遺物実測図	89
第52図	包含層出土遺物実測図	65	第71図	包含層出土遺物実測図	90
第53図	包含層出土遺物実測図	66	第72図	包含層出土遺物実測図	91
第54図	包含層出土遺物実測図	67	第73図	包含層出土遺物実測図	92
第55図	包含層出土遺物実測図	68	第74図	包含層出土遺物実測図	93

表 目 次

第1表	出土土器観察表(1)	94	第9表	出土土器観察表(9)	102
第2表	出土土器観察表(2)	95	第10表	出土土器観察表(10)	103
第3表	出土土器観察表(3)	96	第11表	出土土器観察表(11)	104
第4表	出土土器観察表(4)	97	第12表	出土土器観察表(12)	105
第5表	出土土器観察表(5)	98	第13表	出土土器観察表(13)	106
第6表	出土土器観察表(6)	99	第14表	出土陶磁器観察表	107
第7表	出土土器観察表(7)	100	第15表	出土陶磁器・土器観察表	108
第8表	出土土器観察表(8)	101	第16表	出土石器計測表	109

図版目次

図版1 遺跡全景及び検出遺構	115	図版17 S A15・16出土遺物	131
図版2 検出遺構	116	図版18 S A16・17・20・23出土遺物	132
図版3 検出遺構	117	図版19 S A23・24出土遺物	133
図版4 検出遺構	118	図版20 S A25・26出土遺物	134
図版5 S A2出土遺物	119	図版21 S A27・28出土遺物	135
図版6 S A3・4出土遺物	120	図版22 S A28出土遺物	136
図版7 S A5出土遺物	121	図版23 S A30・31・32出土遺物	137
図版8 S A6・7出土遺物	122	図版24 S A32・34・包含層出土遺物	138
図版9 S A8出土遺物	123	図版25 包含層出土遺物	139
図版10 S A8出土遺物	124	図版26 包含層出土遺物	140
図版11 S A8出土遺物	125	図版27 包含層出土遺物	141
図版12 S A9・10出土遺物	126	図版28 包含層出土遺物	142
図版13 S A10・11出土遺物	127	図版29 包含層、S J 1・2 石積土坑出土遺物	143
図版14 S A13・14出土遺物	128	図版30 包含層出土遺物	144
図版15 S A15出土遺物	129		
図版16 S A15出土遺物	130		

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

本事業は東郷町の国道327号線と国道446号線の交差する場所に、総称「道の駅」の建設を行うものである。内容は駐車場整備を県日向土木事務所が、隣接して物産加工を中心とした施設建設を東郷町が計画したものである。

平成8年8月に東郷町から県文化課に照会があり、協議を開始する前に文化課職員が現地に赴き、町の農政部局と教育委員会職員が同行して分布調査を実施した結果、土器片を採取し文化財含藏地の可能性があることがわかった。その後11月に文化課で試掘調査を行い、本調査が必要であると判断された。

協議をすすめていく中で、文化課は東郷町に対し、町事業分の発掘調査は町で行うように要請し、東郷町では関係各課が文化財調査について専門職員の不在等、具体的な協議を行うことになる。

一方、平成9年1月に日向土木事務所と協議を行い、平成8年度分の土砂採取部分については土木事務所と東郷町土地開発公社双方が行うということであったが、包蔵地が消滅していることもあり、慎重工事の扱いとした。しかし、平成9年度事業予定地の2,109m²（土木事務所1,755m²、町土地開発公社354m²）については、発掘調査が必要であることを伝え、協議を継続する。

平成9年4月28日に文化課において、日向土木事務所と発掘調査についての協議を行い、6月2日に発掘調査に着手した。この時点では東郷町事業分については調査主体は未定であったが、東郷町と県文化課で協議を続けた結果、文化財の専門職員採用は9年度は無理ということで、町が費用負担を行い、県の方で調査を実施することになった。調査は平成9年10月3日をもって終了した。

第2節 調査の組織

鶴野内中水流遺跡の調査組織は次のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

教育長 岩切重厚

文化課長 仲田俊彦

埋蔵文化財係長 北郷泰道

主任主事（調整担当） 飯田博之

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 藤本健一

副所長兼調査第二係長 岩永哲夫

庶務係長 三石泰博

主事（調査担当） 高橋 誠

特別調査員 鈴田由紀夫（佐賀県立九州陶磁文化館） 西中川駿（鹿児島大学）

調査協力 梅木謙一（松山市生涯学習財團埋蔵文化財センター）

片岡宏一（小都市教育委員会） 村上恭通（愛媛大学）

第3節 遺跡の位置と環境

鶴野内中水流遺跡の所在する東臼杵郡東郷町は、宮崎県の北部、日向市の西に隣接し、南に標高1,405.2mの尾鈴山を主峰とする尾鈴連峰がそびえ、西から北に向って加子山、珍神山など標高800mを超える急峻な山々が周囲を囲繞する。その山系の中央を九州山地を源とする耳川が東に蛇行し、尾鈴山西北から北流する坪谷川や珍神山から貫流する椎谷川など中小の支流が耳川に注ぎ込む。これらの河川によって河岸段丘や小規模な沖積地が形成され、現在水田耕作や畑作などが行なわれている。既知の遺跡も河岸段丘上や沖積地を中心にその多くが分布している。

鶴野内中水流遺跡は東臼杵郡東郷町大字山陰字中水流に所在する。耳川の沖積作用により左岸に形成された標高約31mの自然堤防上の遺跡で、後背には標高358mの立山から伸びた丘陵が迫っている。また、対岸の東側は標高432mの冠岳が海への陸路を遮っている。

東郷町内の遺跡数は40余りを数えるが、そのほとんどが耕作地での表探資料であるため遺跡の性格や遺物の層位的な位置付けなどが明らかではなく、歴史的事象は断片的にしか知ることができない。そのなかで発掘調査が行なわれたのは樋田遺跡、赤松遺跡、下水流遺跡で、いずれも坪谷川に面した丘陵上に立地する。以下、発掘調査結果や表探資料などを基に各時代を概観する。

旧石器時代の遺物は、東郷町の東端に突出する寺迫地区で縦長剥片を利用したナイフ形石器と珪原型の細石核が表探されている。縄文時代では樋田遺跡から後期の貝殻条痕文土器や鐘崎式、西平式などの磨消繩文土器、晚期の粗製深鉢土器や刻目突帶文土器などが打製石錫や磨石、石錘などと共に出土している。遺構は隅丸方形と楕円形の竪穴住居跡が2軒確認されている。赤松遺跡からは縄文早期の押型文土器や後期～晚期の磨消繩文土器、粗製深鉢土器、精製磨研土器などが出土している。下水流遺跡では粗製深鉢土器、精製磨研土器、刻目突帶文土器などが出土している。そのほか各所で早期から晚期の土器や石錫、石斧が表探されている。弥生時代では樋田遺跡から中期末～後期終末の土器が出土している。須玖式土器と瀬戸内系の凹線文土器も確認されており注目される。遺構は方形あるいは隅丸方形を中心とした竪穴住居跡16軒が確認されている。このなかには花弁状住居も數軒含まれる。下水流遺跡では前期末～中紀初頭の亀ノ甲タイプの壺と下条式の壺が共存している。そのほか耳川、坪谷川流域の河岸段丘面には多くの弥生土器が散布しており、横描波状文を施す二重口縁壺や刻目突帶をもつ「く」字口縁壺は珍しくない。石器では石包丁が下三ヶ八ツ山、福瀬区日田尾、瀬戸木地区、寺迫地区で確認されている。古墳時代では3基の円墳が知られている。中・近世では赤松遺跡から掘立柱建物跡が5棟確認されているほか、小野田地区に伊東氏によって築城された山陰城がある。また各地区的丘陵には五輪塔群や板碑が残されている。

〈参考文献〉

- 「赤松遺跡・下水流遺跡」『東郷町文化財調査報告書』第1集 東郷町教育委員会 1987
- 「樋田遺跡」 東郷町教育委員会 1991
- 『東郷町誌』 東郷町 1979



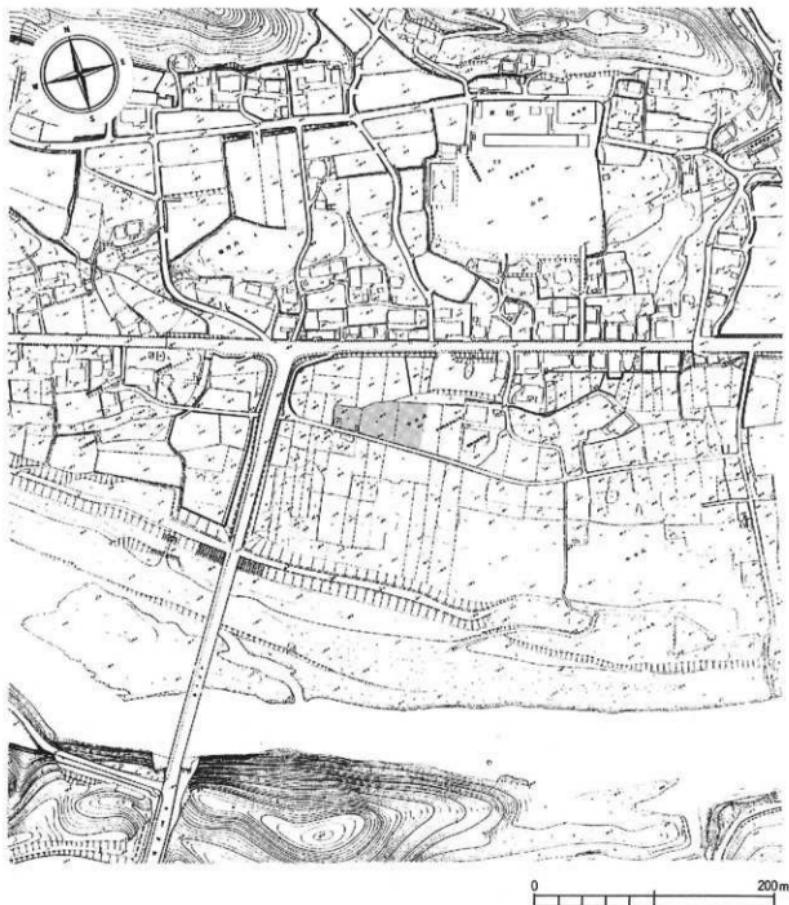
1 鍋野内中水流遺跡 2 桶田遺跡 3 赤松遺跡 4 下水流遺跡

第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

第2章 調査の成果

第1節 調査の概要

「道の駅」建設予定敷地内は、南から東側にかけて畠地が広がり、北から西側にかけては畠より1m程低位に水田が耕作されていた。調査は平成9年6月3日からまず畠部分に重機を入れ表土の除去を開始した。表土の下からは水田基盤層が現れ、土器片が数点出土した。このため重機での表土剥ぎは水田基盤層の直上で止め、後は人力により掘下げを行なうこととした。また、水田部分に幅1m長さ2~5mのトレンチを7本設定し、遺構、遺物の存在の有無を確認した。その結果水田の床土の下には厚く



第2図 鶴野内中水流遺跡周辺地形図 (1/4,000)



第3図 造構分布図 (1/200)

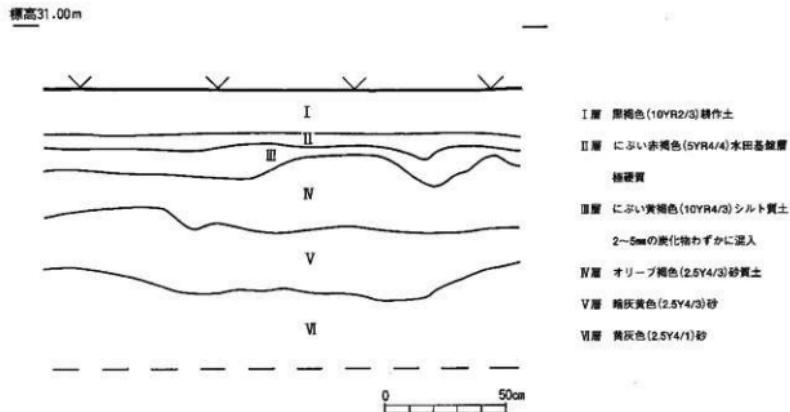
砂の層が堆積しており、何一つ遺物、遺構が確認できなかった。このため、調査区の北側を廃土置場とし西側を駐車場として整地することにした。

発掘調査にあたっては、まず国土座標に合わせて10m四方のグリッドを設定し、グリッドに合わせて調査区の東側から水田基盤層を堀り下げ、直下の黄褐色シルト層上面で遺構検出を行なった。調査も終盤にさしかかった9月16日猛烈な勢力の台風が来襲し、洪水による水害は東郷町に甚だしい損害を与えた。耳川沿いに位置する本遺跡も当然冠水し、検出した遺構の壁面が崩れたり現場事務所の壁が壊れ机や備品などが流失したりするなど、多大な被害を被った。現場の復旧にはかなりの時間を要したため調査期間を延長し、平成9年10月3日に全ての現地調査を終了した。

検出した遺構は、竪穴住居跡34軒、掘立柱建物跡13棟、竈跡4基、石積土坑1基、土坑7基、ピット多数、廃棄礫群である。

第2節 層序

鶴野内中水流遺跡の基本層序の観察は、調査区の東端にトレーニングを設定して行なった。各層とも堆積は良好であった。第I層は表土で20cm程堆積している。第II層は鉄分を多量に含む非常に硬質の水田基盤層で、5~10cm程の厚みをもつ。第III層はにぶい黄褐色を呈するシルト質の土層で、若干の締まりがある。2~5mm程度の炭化物をわずかに含む。5~15cm堆積している。第IV層は若干締まりのあるオリーブ褐色の砂質土層で、5~10cm程堆積している。第V層は暗灰黄色を呈する軟質の砂の層で、25~30cm程の厚みをもつ。第VI層は黄灰色を呈する極めて軟質の砂の層で、堆積は30cmを超える。



第4図 鶴野内中水流遺跡土層断面図 (1/20)

第3節 弥生時代・古墳時代の遺構と遺物

堅穴住居跡34軒が調査区の全域にわたり広く分布している。このうち7割近くに切り合い関係が確認された。住居内出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器のはか石器では砥石、磨石、蔽石、台石、石皿、(有肩)打製石斧が確認された。遺物包含層からは、そのほか石錘、円形石器、磨製石斧が出土している。

1号住居址（第5図）

調査区の南東端に位置し、西側に13号住居址が隣接する。規模は中軸線上で長軸2.72m、短軸2.52m、床面積5.6m²の極めて小型の住居址である。平面プランは北西辺がやや長いが、全体的に整った隅九方形を呈する。長軸方位はN43°Eを指す。壁高は0.33mを残し、床面は中央部にかけてわずかに凹む。床面の深さは最大で0.41mを測る。柱穴は床面に4基、北東側と北西側の壁に沿ってそれぞれ1基を検出した。

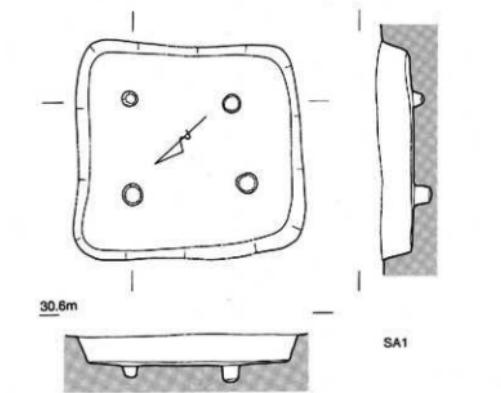
遺物は出土していない。

2号住居址（第5図）

調査区の東寄りに位置し、西隅部が18号住居址を切っている。規模は長軸3.90~4.00m、短軸3.70~3.90m、床面積12.9m²とやや小型の住居址である。平面プランは隅九方形を呈するが、北隅部が若干突き出している。長軸方位はN52°Wを指す。現存壁高は0.26~0.33mを測り、床面は平坦であるが、西隅部方向に緩やかに傾斜する。床面には8基の柱穴を検出したが、配置状況から主柱穴はP2、P4、P5、P7の4基が想定される。床面からはその他、中央部よりやや南寄りで埋甕を検出した。甕は底部が床面から30cm程度埋められ設置されていたが、掘込みは確認できなかった。また、埋甕の南側を中心に周囲の床面が半径約15cmの範囲で受熱により赤化しており、1mm程度の炭化物がわずかではあるが混入していた。

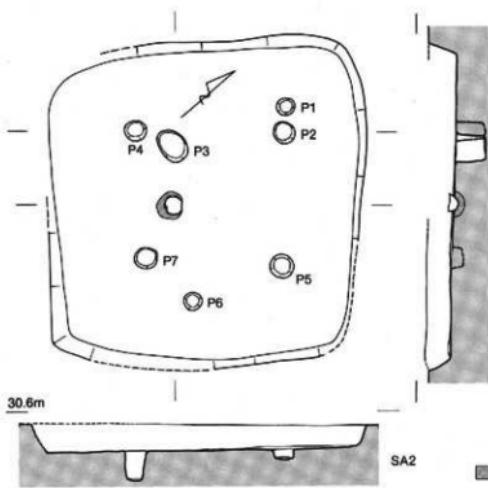
出土遺物（第6図1~15）

遺物の多くは床面から浮いた状態で出土しているが、前述の甕（4）のほか鉢（8）は南西壁寄りの床面直上の検出である。器種構成は、甕（1~6）、壺（7）、鉢、瓶（9）、須恵器壺（10~13）、砥石（14）、蔽石（15）と変化に富んでいる。甕には口縁部が緩やかに外反するもの（1）と、強く外反するもの（2）があり、内外面ともにナデを施す。3は胴下半部で、外面を斜め方向の平行タタキの後ナデしている。4は全体的に縦、斜め方向に荒いナデを施し、一部荒いミガキを施している。底部には指頭痕を明瞭に残す。5・6は器壁の厚い甕の底部で、5は端部が丸みのある平底、6は上げ底状を呈する。内外面ともにナデを施す。7は壺の肩部である。外面には沈線の下に羽状に連続刺突文を廻らしている。8は完形の鉢である。粘土塊を貼り付け肥厚させた平底の底部から口縁部が逆「ハ」字状に直線的に開く。調整は口縁部が内外面ともに横方向のナデを施し底部にかけては荒いナデを施し接合痕を明瞭に残す。9は瓶の底部である。外面は荒いナデを施す。10~12は壺蓋である。10・11はともに天井部と口縁部の境が不明瞭で、天井部上半分に回転ヘラケズリがみられる。口縁端部は丸く仕上げられている。12は天井部と口縁部の間に一条の沈線が廻り、口縁端部に内傾する段をもつ。口径は10が13.3cm、11が13.8cm、12が14.7cmを測る。13は壺身である。たちあがりが短く内傾し、端部は丸く仕上げられて



SA1

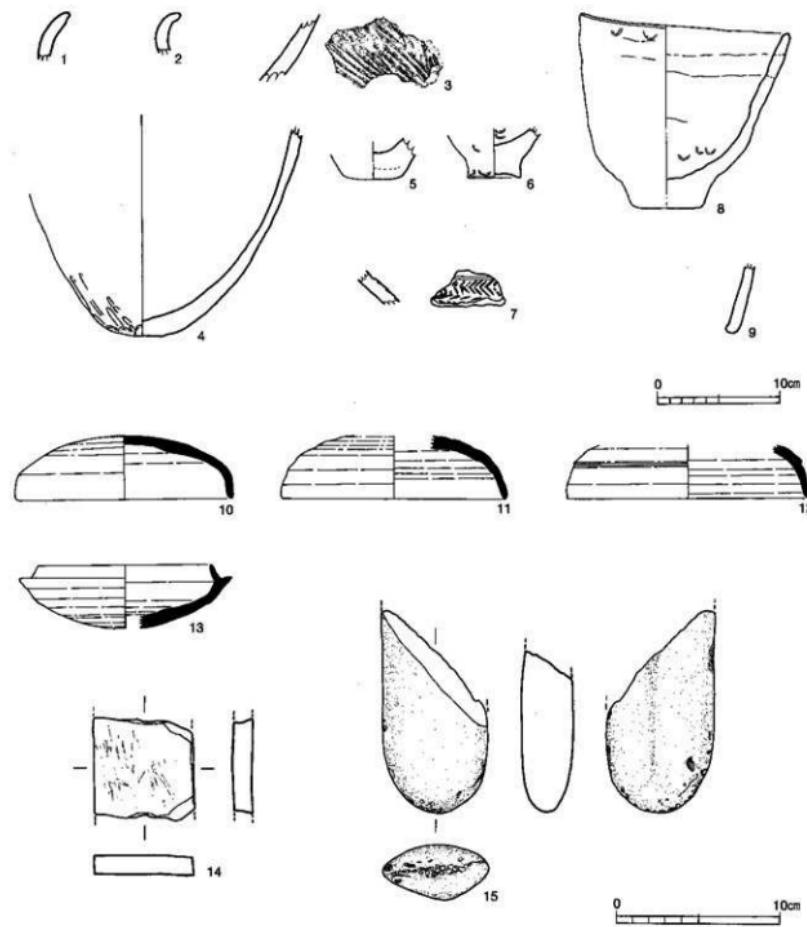
■ 焼土



SA2

0 2m

第5図 SA1・2

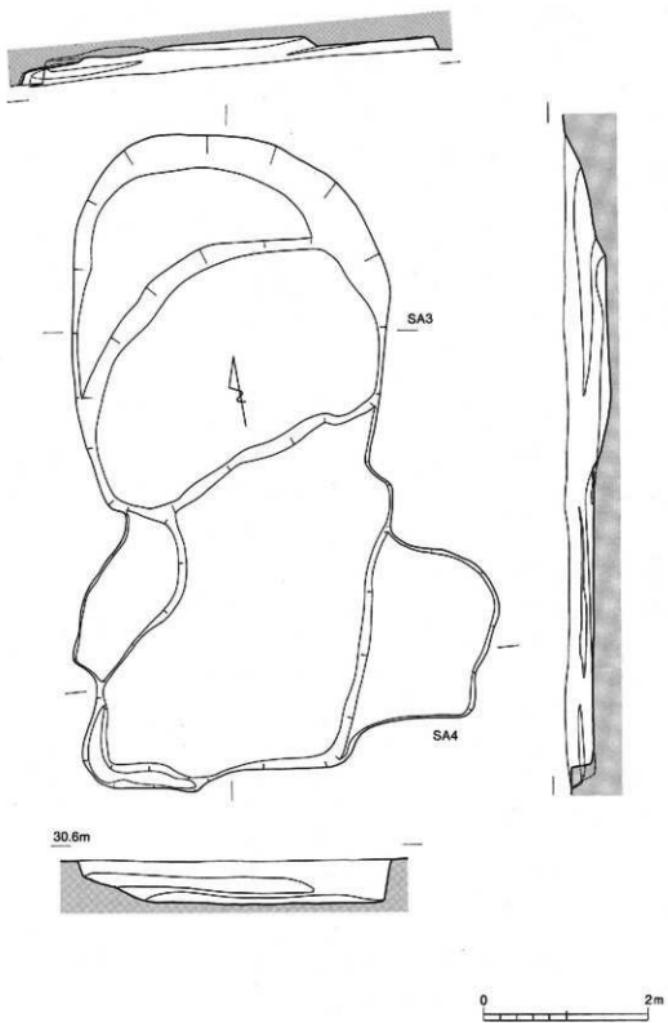


第6図 SA2 出土遺物実測図 (1~9…1/4、10~15…1/3)

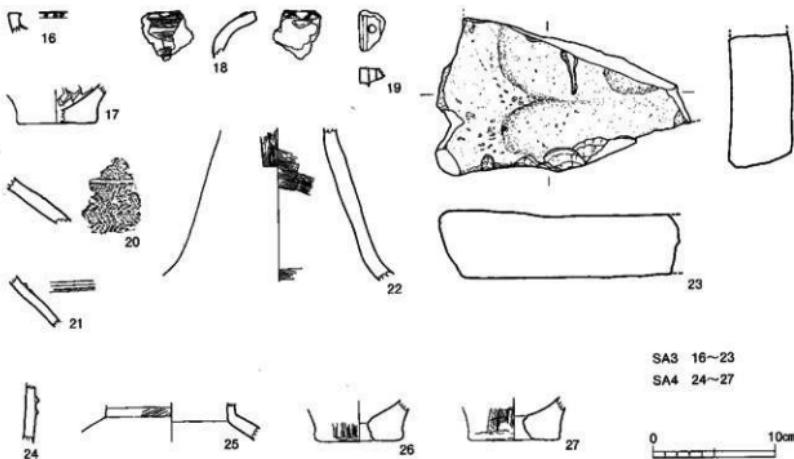
いる。底部はヘラ削りを施す。口径10.5cm、受け部径13.0cm、たちあがり高0.9cmである。14は砥石である。表全面に擦痕を残す。15は砂岩製の蔽石である。先端部に蔽打痕が顕著に残る。

3号住居址（第7図）

調査区の東側南寄りに位置し、北西隅部が20号住居址及び21号住居址を切り、北東隅部が18号住居址を切っている。また、南壁面が4号住居址を切っている。規模は長軸4.98m、短軸3.80m、床面積13.2m²



第7図 SA3・4



第8図 SA3・4出土遺物実測図 (1/4)

である。平面プランは南北に長い椭円形を呈する。長軸方位はN12°Eである。床面の検出面からの深さは最深部で0.48mを測る。床面には北西隅に床面積2.9m²と大きな三日月型のテラスが造り出され、南東隅にも床面積1.9m²の半円形を呈するテラスが設けられている。北西隅テラスの現存最深部の深さは0.37m、南東隅テラスは0.32mを測る。柱穴は確認できなかった。

出土遺物（第8図16~23）

16は壺の口縁部である。平坦な口唇部の端部外面がつまみだされ細かな刻み目を施す。口縁直下に突帯が残る。内外面ナデ調整である。17は壺の底部で平底を呈する。全面ナデ調整が施されている。外面には煤が付着している。18は口縁が外に大きく開く壺の口縁部である。口唇部に斜格子文あるいは鋸歯文が縄で押圧されている。内面に円形浮文を貼り付ける。調整は内面に横方向のミガキが施されている。19は穿孔された外耳をもつ壺の胴部と思われる。全面ナデによる調整である。20・21は壺の肩部である。20は沈線の下に鋸歯状工具による羽条文を施す。内面はナデによる調整である。21は肩上部には突帯を上下に2条廻らし、下段の突帯には細かな刻目を施す。外面は丁寧に磨かれており、内面はナデ調整である。22は高壠の脚部である。脚柱部から裾部にかけて緩やかに屈曲し外に開くものと思われる。外面は縱方向の刷毛目、内面は横方向の刷毛目を施す。23は砂岩製の石皿である。中央を凹めており、表面には潰痕と擦痕が残る。

4号住居址（第7図）

3号住居址に北側が切られている。平面プランは長軸推定3.80m、短軸3.52m、推定床面積15.0m²の隅丸方形が想定され、東壁面の外部には長辺約1.5~2.4m、短辺約1.3~1.6m、床面積約2.8m²の不正長方形を呈するテラスが造り出されている。また、住居址の西壁際には床面積1.4m²、南西隅部には床

面積 0.3m^2 のテラスがそれぞれ張り出している。検出面からの深さは中央部で 0.34m 、東側テラスの最深部の深さは 0.17m 、西側テラスは 0.22m 、南西隅のテラスは 0.15m を測る。柱穴は確認できなかった。長軸方位は $N20^\circ E$ を指す。

出土遺物（第8図24～27）

24は壺の胴部である。断面三角形の突帯を上下2段に貼り付ける。器面調整は内外面ともにナデである。25は壺の頸部である。肩部から頸部にかけて屈曲し頸部が直口するもので、その境には突帯を貼り付け凹線で斜め方向に刻目を施している。器面調整は内外面ともにナデである。26・27は瓶の底部である。底部が円形に穿たれている。外面は刷毛目調整を施した後ナデ消している。内面と底面にはナデを施す。

5号住居址（第9図）

調査区の東側北寄りに位置し、北西部壁面の一部及び北東部壁面が6号住居址を切り、北西部壁面が32号住居址を切っている。規模は長軸 4.70m 、短軸 4.60m 、床面積 18.8m^2 の中型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈する。主軸方位は $N40^\circ E$ を指す。床面には主軸方位を同じくする一辺約 2.20m 、床面積 4.4m^2 の方形の堀込みをやや北西壁寄りに検出した。現存壁高は南東部 0.26m 、南西部 0.28m 、北西部 0.26m を測る。また、堀込み部の検出面からの深さは最深 0.42m を測る。床面からは柱穴を11基検出した。このうち、主柱穴は配置状況からP1、P3、P6、P7の4本柱が想定されるが、堀込み部のP8、P9、P11を含めた7本柱の可能性も否定できない。

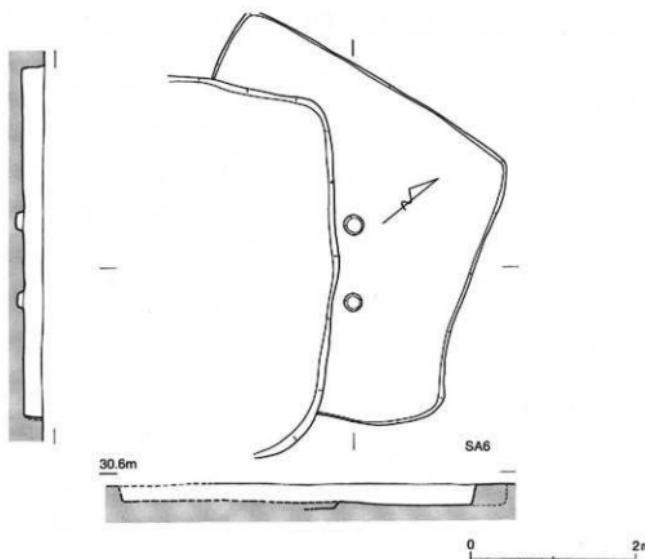
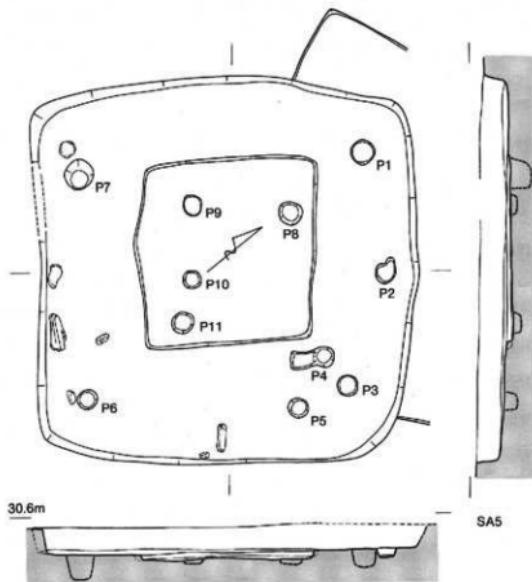
出土遺物（第10図28～38）

壺（28～30）、壺（31・32）、鉢（33）、須恵器坏蓋（34・35）、石器（36～38）が出土している。このうち壺（28）と須恵器が床面直上から出土している。

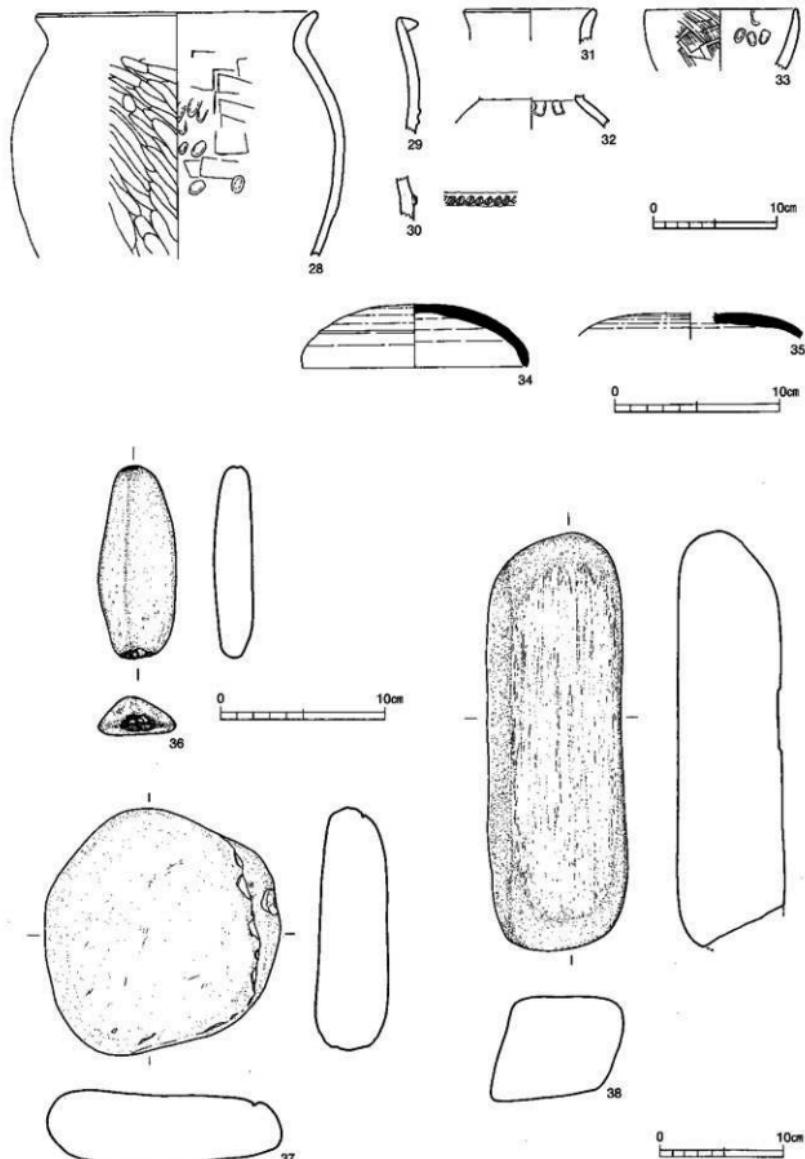
28は壺の口縁～胴部である。最大径を胴部中位にもち胴部が丸く膨らむ。口縁部と胴部の境には稜をもたず口縁部は短く外反する。外面は口縁部がヨコナデで胴部は斜めにケズリ状のナデを施す。内面には工具による横方向と斜め方向のナデを施す。29は壺の口縁部である。口縁部には断面三角形の突帯を貼り付けており、接合面は明瞭に認められる。胴部はわずかに膨らみ胴部最大径の下に2条の三角突帯を貼り付ける。器面調整は内外面ともにナデである。30は壺の胴部で貼付刻目突帯をもつ。刻目には布目痕を残す。内外面ともにナデが施されている。31は壺の口縁部で口唇部にかけてわずかに外反する。内外面ともにヨコナデを施す。32は壺の口縁部で頸部が屈曲し頸部との境に稜をもつ。器面調整は外面ミガキ、内面ナデである。33は鉢の口縁部でわずかに内湾しながら開く。口唇部は舌状を呈する。外面は工具によるナデ、内面にはナデが施されている。34の須恵器坏蓋は天井部と口縁部の境に稜線をもたずなだらかにカーブし、口縁端部は丸い。天井部は35とともにヘラケズリにより整形されている。口径 13.6cm を測る。36は砂岩製の敲石である。両端に敲打痕を残す。37は砂岩製の石皿である。中央がわずかに凹む。擦痕が一部認められる。38は砂岩製の砥石である。片面のみに砥面が残されている。

6号住居址（第9図）

5号住居址に中央部から南側にかけて約半分を切られている。規模は北側壁面の長さが 3.70m 、東側壁面で 3.20m を測る。平面プランは住居址の約半分が失われているため判然としないが現存の形状から



第9図 SA5・6



第10図 SA5 出土遺物実測図 (28~33・37・38…1/4、34~36…1/3)

推測すると方形に近いプランが考えられる。なお、東隅部は若干張り出す。主軸方位はN70° Eを指す。検出面からの壁高は0.25~0.27mを測る。床面からは2基の柱穴を確認した。

出土遺物（第12図39~43）

39・40は壺の口縁部である。口縁直下に1条の刻目突帯をもち、凹ませた口唇部の外端部にも刻みを施す。器面調整は39が突帯の下に刷毛目を施すほかはナデである。41は壺の底部で上げ底を呈する。42は高坏の口縁部である。受け部から口縁部が屈折し、口縁が外反しながら開く。外面は刷毛目調整ののちナデを施しており、内面は刷毛目調整である。43は小型土器の胴部～底部で全面にナデを施しており指頭痕が顕著に残る。

7号住居址（第11図）

調査区中央部よりやや東側の北端に位置する。東壁及び南壁の一部が32号住居址を切っている。規模は長軸4.30m、短軸3.64m、床面積14.9m²と小型の住居址である。平面プランは隅丸長方形を呈する。長軸方位はN81° Wを指す。現存壁高は0.28~0.34mを測り、床面は中央部から北壁にかけて緩やかに凹む。検出面からの深さは最深部で0.43mを測る。床面には4基の柱穴を検出した。また、中央部やや西寄り及び西壁寄りで埋臺を1個ずつ検出した。前者は底部が床面から10cm程度埋められ設置されていた。また、埋臺の周囲の床面は半径約20cmの範囲で受熱によりわずかに赤化しており、1mm程度の炭化物がまばらに混入していた。後者は底部が床面から3cm程度埋められ設置されていた。

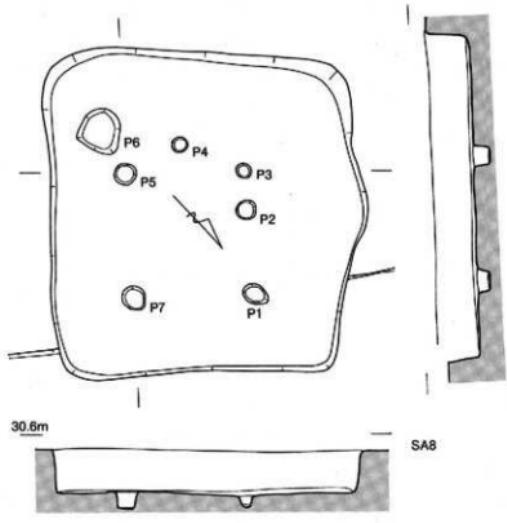
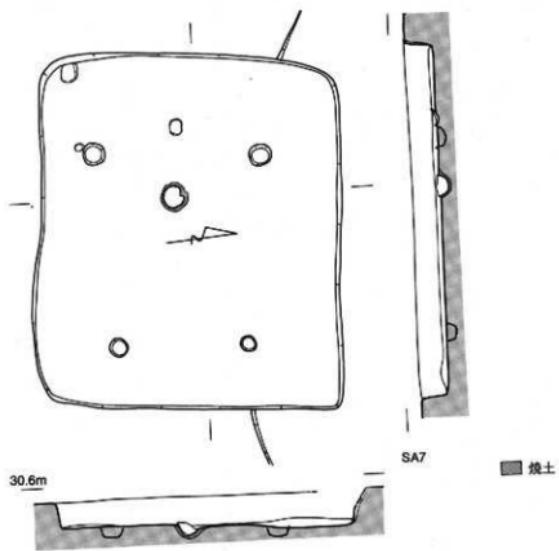
出土遺物（第12図44~53）

遺物は埋壺（44・45）のほか壺（46）、高坏（47・48）、須恵器坏（49~52）、石皿（53）が出土している。出土状況は、埋壺、坏、石皿が床面から出土している。

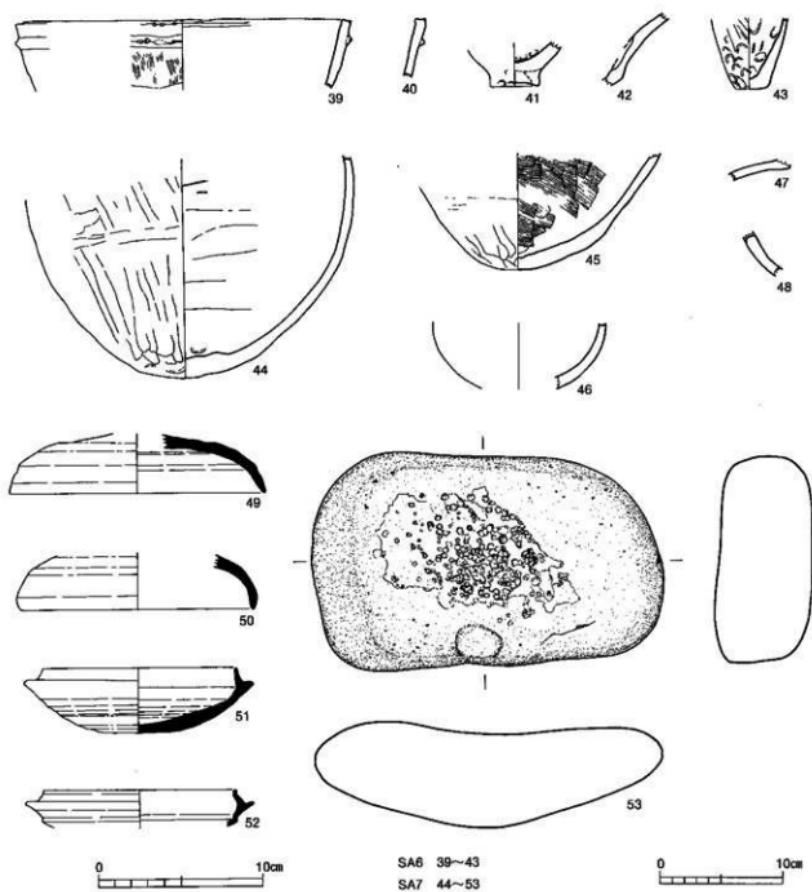
44・45は埋壺の胴部～底部である。丸底を呈する。器面調整は外面はともにケズリ状のナデを施すが、内面は44がヨコナデ、45が刷毛目調整である。46は丸底を呈する壺の底部である。内外面ともに丁寧なナデを施している。47は高坏の受け部で、口縁部との境で屈曲して口縁が外反しながら開く器形になるものと思われる。調整は外面刷毛目、内面ナデである。48は高坏の脚部である。脚柱部に円形透かしを穿ち据部との境に稜線をもつ。調整は内外面ともナデである。49、50は坏蓋である。ともに天井部と口縁部の境が不明瞭で、特に50は天井部から口縁部にかけてなだらかにカーブする。口縁端部は49が内傾する段をもつて対し50は丸く仕上げられている。天井部に回転ヘラケズリがみられる点は同じである。推定口径は49が15.6cm、50が13.9cmを測る。51、52は坏身である。51はたちあがりが短く内傾し、端部は丸く仕上げられている。底部はヘラ削りを施す。口径11.7cm、受け部径14.0cm、たちあがり高0.9cm、器高3.9cmを測る。51はたちあがりが短く内傾し、端部が上方に屈折する。端部の仕上げは丸い。受け部の下部で屈折し底部へつながる。推定口径11.4cm、受け部径14.0cm、たちあがり高0.8cmを測る。53は砂岩製の石皿で中心部が凹む。中心部には敲打痕を残す。

8号住居址（第11図）

調査区中央部の北端に位置する。規模は長軸3.90m、短軸3.68m、床面積13.7m²と小型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈する。長軸方位はN45° Wを指す。現存壁高は約0.50mを測り、床面はほぼ水平を保つ。床面には7基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP1、P3、P5、P7の



第11図 SA7・8



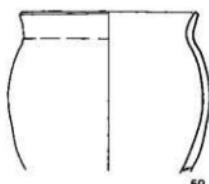
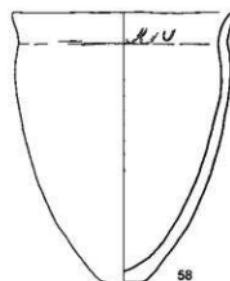
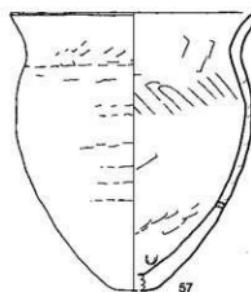
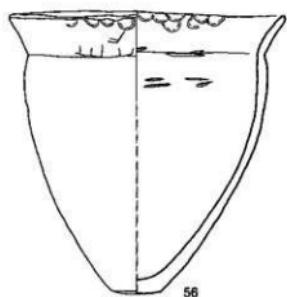
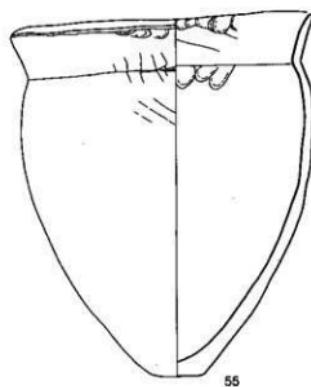
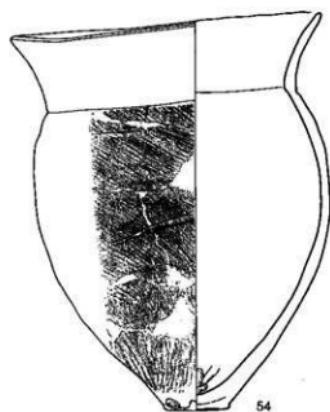
第12図 SA6・7 出土遺物実測図 (39~48・53…1/4、49~52…1/3)

4本柱が想定される。

出土遺物 (第13図54~第15図89)

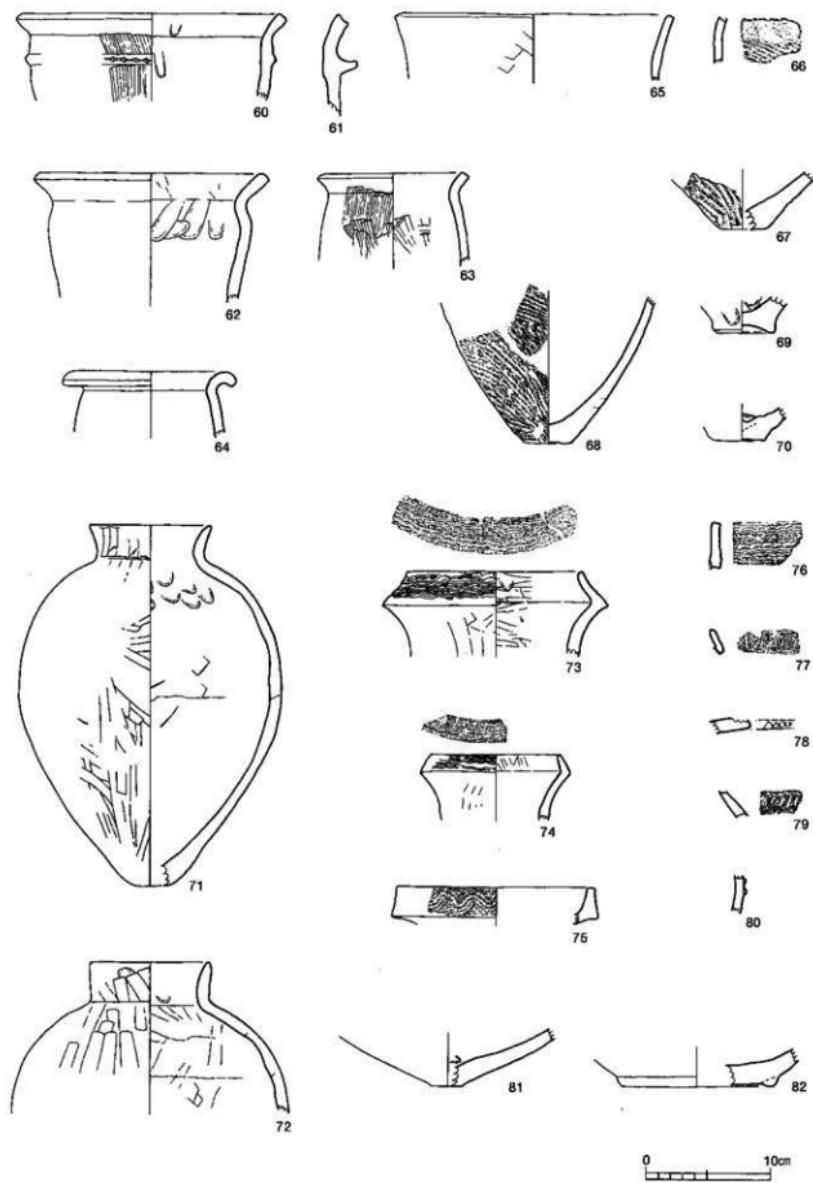
遺物は壺 (54~70)、壺 (71~82)、鉢 (83~88)、高坏 (89) が多量に出土しているが、ほとんどは床面から浮いた状態で検出された。

54~58は完形もしくはほぼ完形の壺である。54は口縁が「く」字形に大きく外反し、内外面に明瞭な稜線をもつ。胴部は中位よりやや上に最大径をもち大きく膨らむが口縁の径には及ばない。底部はわずかに上げ底気味の平底を呈する。器面調整は胴部外面に平行タタキを斜方向に施し、口縁部は横向方に

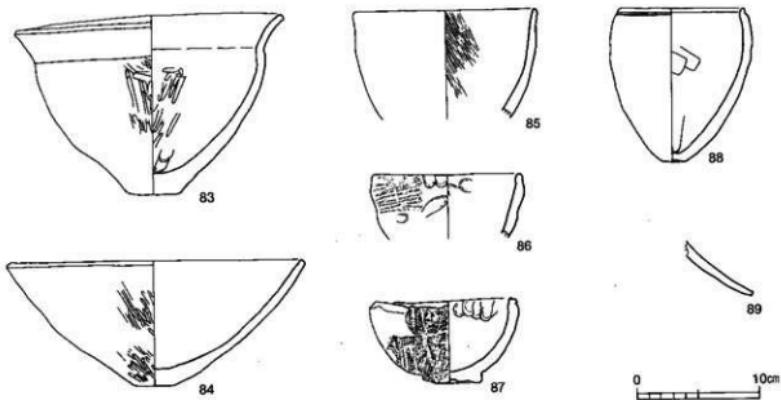


0 10cm

第13図 SA8出土遺物実測図 (1/4)



第14図 SA8出土遺物実測図 (1/4)



第15図 SA8出土遺物実測図 (1/4)

撫でている。内面にはナデを施す。55は口縁が「く」字形に外反し、内外面に稜線をもつ。胴部最大径は上位にある。なお、口縁と胴部の径はほぼ等しいが若干口縁が上回る。底部は平底を呈する。器面調整は内外面ともにナデである。56は口縁が「く」字形に外反し、内外面に稜線をもつ。胴部最大径は口縁直下にあり張りをもたず底部につながる。底部は平底を呈する。径の最大は口縁にある。器面調整は内外面ともにナデである。57は口縁がなだらかに外反し内外面に稜線を形成せずに胴部へつながる。胴部最大径は上位にある。底部は丸底気味の平底を呈する。器面調整は内外面ともにナデを主体とするが、胴下半部は刷毛目を施したのち撫で消している。口縁と胴部の間のくびれ部には工具痕を明瞭に残す。胴部の接合痕も明瞭である。58は口縁が「く」字形に短く外反するが稜線は明瞭ではない。胴部は張らずに平底の底部につながる。最大径は口縁にある。器面は内外面ともに丁寧なナデで仕上げられている。59は壺の口縁部～胴部で、口縁が「く」字形に短く外反するが内面の稜線は明瞭ではない。胴部上位に最大径をもち張る。器面調整は内外面ともにナデである。60～64は壺の口縁部である。61は口縁が「く」字形に外反し、口縁下に1条の刻目突帯を貼り付ける。胴部は張らずに底部につながる。外面は口縁部に丁寧なナデ、胴部に刷毛目を施す。内面は撫でている。61は口縁が緩やかに外反し、胴部との境に横に大きく伸びる突帯を貼り付ける。口唇部は撫で凹ませている。内外面ともに口縁部を丁寧に撫で、胴部に刷毛目を施している。62は口縁が「く」字形に屈折し開く。胴部最大径は上位にあり鋭く膨らむ。径の最大は口縁にある。全面ナデ調整。63は口縁が「く」字形に外反するが稜線は不明瞭で胴部へとなだらかにつながる。胴部最大径は中位にあると思われるが張りは弱い。器面調整は口縁部が内外面ともにナデを施し、胴部は外面が刷毛目、内面が刷毛目の上からナデを施している。64は口縁が巻き込むように大きく外湾し、端部は下方に垂れる。全面ナデ調整。65はわずかに外反する口縁部で、全面にナデを施す。外面には煤の付着が著しい。66は口縁部から胴部へのくびれ部で胴部には斜方向の平行タタキを施す。内面ナデ調整。67～70は壺の底部である。67・68は平底を呈し、外面には斜方向の平行タタキを施す。内面はともにナデ調整。69は上げ底を呈する。全面ナデ調整。70は上げ底気味の平底

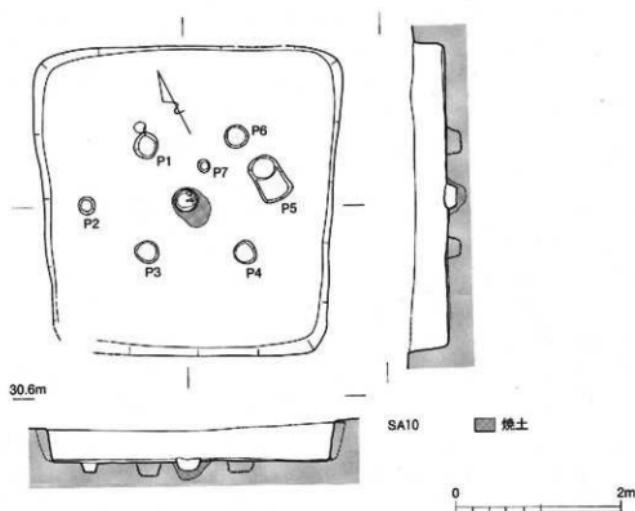
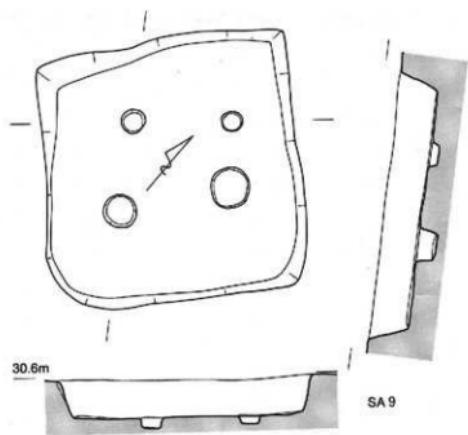
である。全面ナデ調整。71は完形に近い單口縁壺である。口頸部は短く外反する。最大径は胴部中位よりやや上位にある。底部は丸底気味の平底を呈する。器面調整は外面に丁寧なナデ、内面にナデを施す。72は單口縁壺の口縁部一胴部である。口頸部は短く、直口する。最大径を胴部中位にもち丸みをもつものと思われる。外面には丁寧なナデ、内面にはナデを施す。73～78は複合口縁壺の口縁部である。73は拡張部が内傾し外面に櫛描波状文を施す。器面調整は外面に丁寧なナデ、内面にナデを施す。74は拡張部が若干内傾ぎみに立ち上がり外面に櫛描波状文を施す。器面調整は外面に丁寧なナデを施す。75は拡張部が短く直口し、外面に櫛描波状文を大きく描く。76は直口する幅広の拡張部に上下2段に櫛描波状文を施す。77は内傾する拡張部外面に櫛描波状文を施す。78は頸部上端の複合口縁接合部で、外面端部には沈線で斜格子文が施されている。調整は内外面ともにナデである。79は壺の肩部で、笠状工具による刺突文が施されている。内外面ともにナデによる調整。80は壺の胴部で、上下2段の貼付突帯が廻らされる。81は乳房状を呈する壺の底部で胴部にかけて大きく開く。内外面ともにナデによる調整。82は壺の底部である。丸底の底部にドーナツ状の粘土紐を貼り付けている。内外面ともにナデ調整。83～88は鉢である。83は口縁が「く」字形に外反し内外面に稜線をもつ。胴部の膨らみは小さい。底部は平底を呈する。調整は内外面ともに口縁部および胴部下半にナデ、胴部上半にミガキを施す。84は径の小さい平底の底部から口縁部がわずかに内湾しながら大きく開く。外面ミガキ、内面ナデ調整。85は胴部がゆるやかに内湾し口縁は直口する。内外面ナデ調整。86はゆるやかに内湾しながら口縁が立ち上がる。内外面ともに指頭痕を明瞭に残し、外面には横方向に平行タタキを施す。内面は撫でている。87は胴部が半球形状を呈する。底部は粘土塊を貼りつけ円盤状を呈する。外面には縦方向に平行タタキを施す。内面ナデ調整。88はゆるやかに内湾しながら口縁部が立ち上がる。外面の口縁上端部には横方向に刷毛目を廻らせる。外面胴部は丁寧にナデを施し、内面は撫でている。89は高坏の裾部である。外面ミガキ、内面刷毛目調整。

9号住居址（第16図）

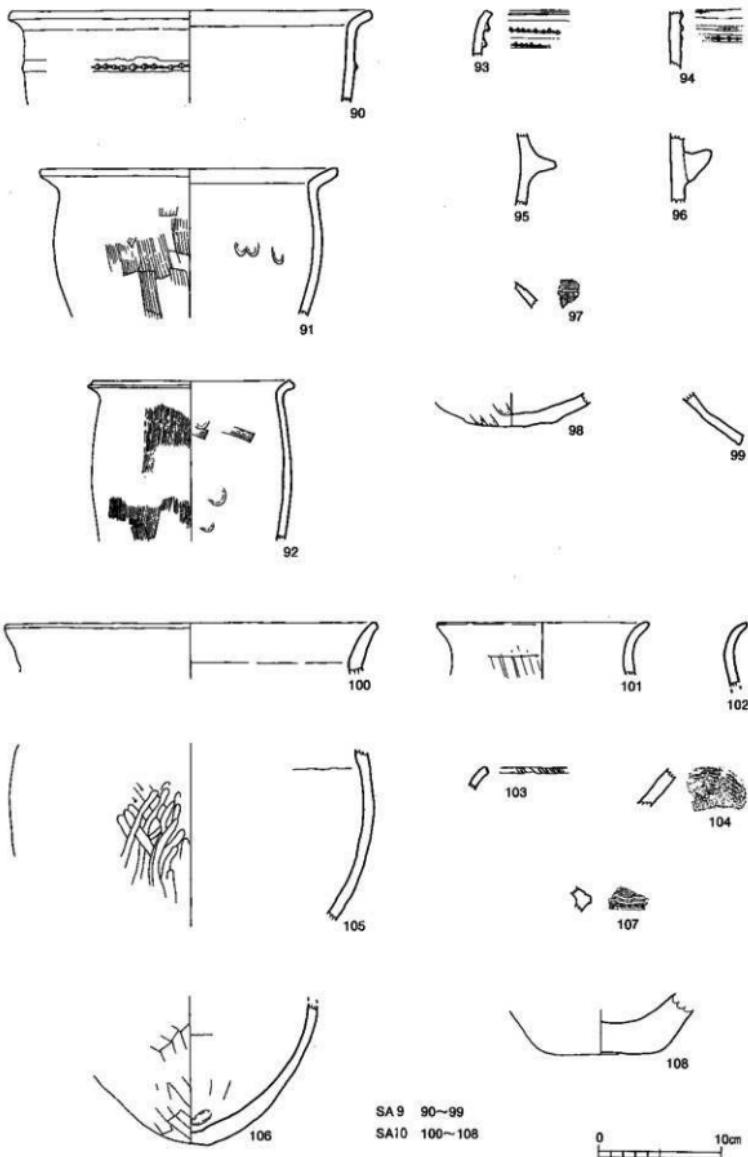
調査区のはば中央部に位置し、34号住居址により北東部約半分が切られている。規模は長軸3.20m、短軸3.04m、床面積10.7m²と極めて小型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈する。長軸方位はN46°Wを指す。現存壁高は約0.46mを測り、床面はほぼ水平を保つ。床面には4基の柱穴を確認した。

出土遺物（第17図90～99）

90～93は壺の口縁～胴部である。90・91は口縁部が逆「L」字形を呈するが、端部が若干持ち上がる。90は口縁部の下位に刻目突帯を貼り付ける。内外面ナデ調整。91は胴部上位がわずかに膨らむ。外面に刷毛目、内面にナデを施す。92は口縁部が「く」字形に屈折し、口縁端部が上方にわずかに突出する。口縁端面に1条の凹みを形成する。胴部に張りはもない。調整は外面に刷毛目を施し、内面は刷毛目を施したのち撫で消している。93は口縁がわずかに外反し、外面端部を外にわずかにつまみ出している。口縁直下には2条の刻目突帯を廻らしている。94は壺の胴部で外面には3条の刻目突帯をもつ。95・96は大きく張り出す突帯をもつ壺の口縁～胴部である。97は壺の肩部で2条の沈線を廻らす。外面には丁寧にナデを施している。98は平底状を呈する壺の底部である。99は高坏の脚部で、裾部は脚柱部から屈曲して広がる。裾部上端は上方に下端は下方にわずかに突出する。脚柱部には円形透し孔を穿



第16図 SA9・10



第17図 SA9・10出土遺物実測図 (1/4)

つ。外面は縦方向にミガキ、内面はナデを施す。

10号住居址（第16図）

調査区の西端に位置する。規模は長軸3.76m、短軸3.50m、床面積11.8m²と小型の住居址である。平面プランは南壁が北壁よりも若干短いが、全体的には隅九方形を呈する。長軸方位はN26° Eを指す。現存壁高は0.36~0.48mを測り、西壁にかけて低くなっている。床面はほぼ水平を保つ。床面には7基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP1、P3、P4、P6の4本柱が想定される。床面からはその他、中央部で埋甕を検出した。甕は底部が欠損しており、胴部が床面から10cm程度埋められ設置されていた。また、埋甕の周囲の床面が半径約25cmの範囲で受熱により赤化しており、1mm程度の炭化物がわずかではあるが混入していた。

出土遺物（第17図100~108）

遺物は甕（100~106）および壺（107、108）が出土した。105の埋甕以外に甕2点（101、106）がほぼ床面上直上で出土したほかは床面から10~20cm浮いた状態で出土している。

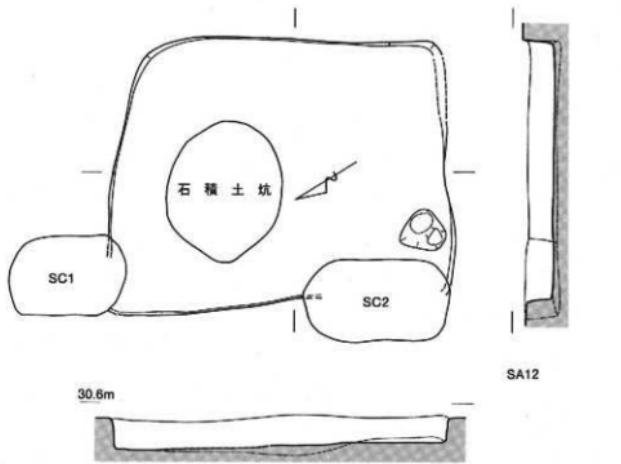
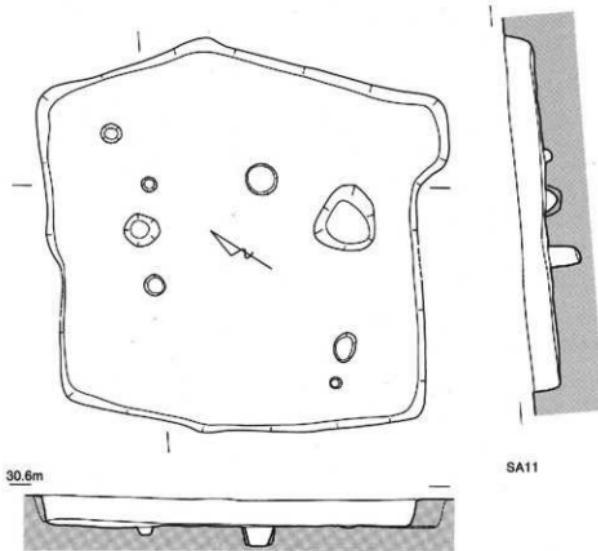
100~103は甕の口縁部である。100はなだらかに外反する。内外面ともにヨコナデを施す。101~102はともに胴部との境が不明瞭で口縁はゆるやかに外湾する。器面調整はともにナデである。103は口唇部に斜方向に凹線状の刻みを施す。外面に煤が付着する。104は甕の胴下半部で外面には斜方向にタタキを施す。105は中位が張る甕の胴部で、外面にはケズリ状のナデ、内面にはナデを施す。胴部上半には接合痕を明瞭に残す。106は丸底の甕の底部で、器面調整は外面にケズリ状のナデ、内面にはナデを施す。107は複合口縁壺の口縁部で接合部外面は「コ」字状に仕上げられている。口縁拡張部の外面には櫛描波状文を施す。108は平底の壺の口縁部である。全面ナデ調整である。

11号住居址（第18図）

調査区の東端に位置する。規模は中軸線上で長軸4.68m、短軸4.50m、床面積18.0m²の中型の住居址である。平面プランは北東壁の中央部が直線的に膨らむ五角形を呈し、南東隅が小さく突出する。主軸方位はN57° Eを指す。現存壁高は約0.30mを測り、床面はほぼ水平を保つが、北隅部が若干浅くなる。床面には7基の柱穴を確認したが、配置状況、柱穴の規模から主柱穴を明確にすることはできなかった。

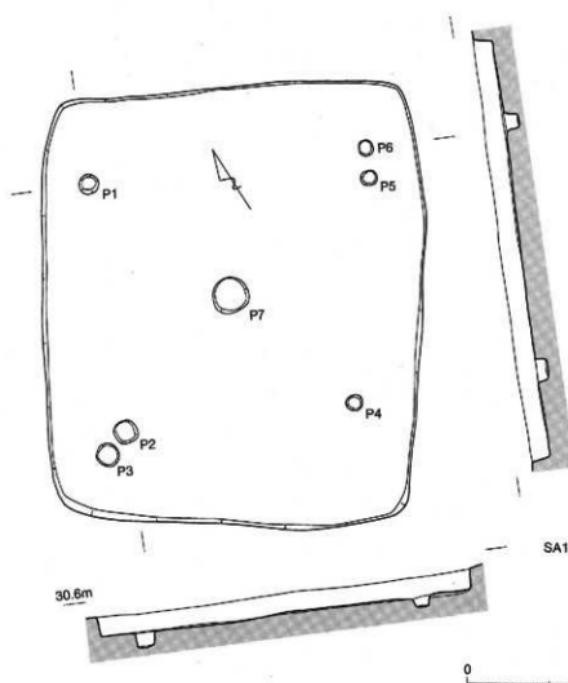
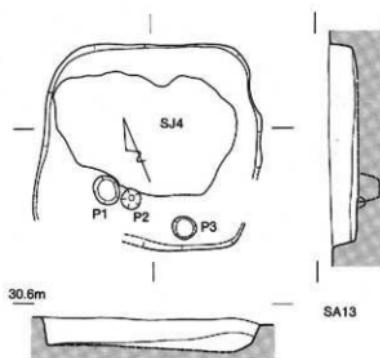
出土遺物（第20図109~119）

109はやや内傾する甕の口縁部で口縁端部外面およびその直下に刻目突帯を貼り付ける。刻目突帯の下に刷毛目を施し撫で消している。110は口縁が「く」字状に屈曲する甕の口縁部で、端部は上方にわずかに突出する。口縁端面はわずかに凹む。器面調整は内面下部に刷毛目を施すほかはヨコナデである。111は刻目突帯をもつ甕の胴部で、刻目には布目痕を残す。全面刷毛目調整である。112は口縁が大きく開く壺の口縁部で口縁端部上下をつまみ出しわざかに突出させている。端面上位に凹線を施すが、下位は欠損しており施文が明らかでない。端面直下にはナデにより凹線を形成している。内面上半部はヨコナデ、下半部はミガキを施している。113は壺の肩部で3条の刻目突帯を廻らす。114は平底を呈する壺の底部で、外面は上部に刷毛目、下部にナデが施されている。115は器台の受け部~胴部で、胴部下位に四方円形透かし孔を穿つ。調整は外面に縦方向の刷毛目、内面にナデを施している。116は口縁

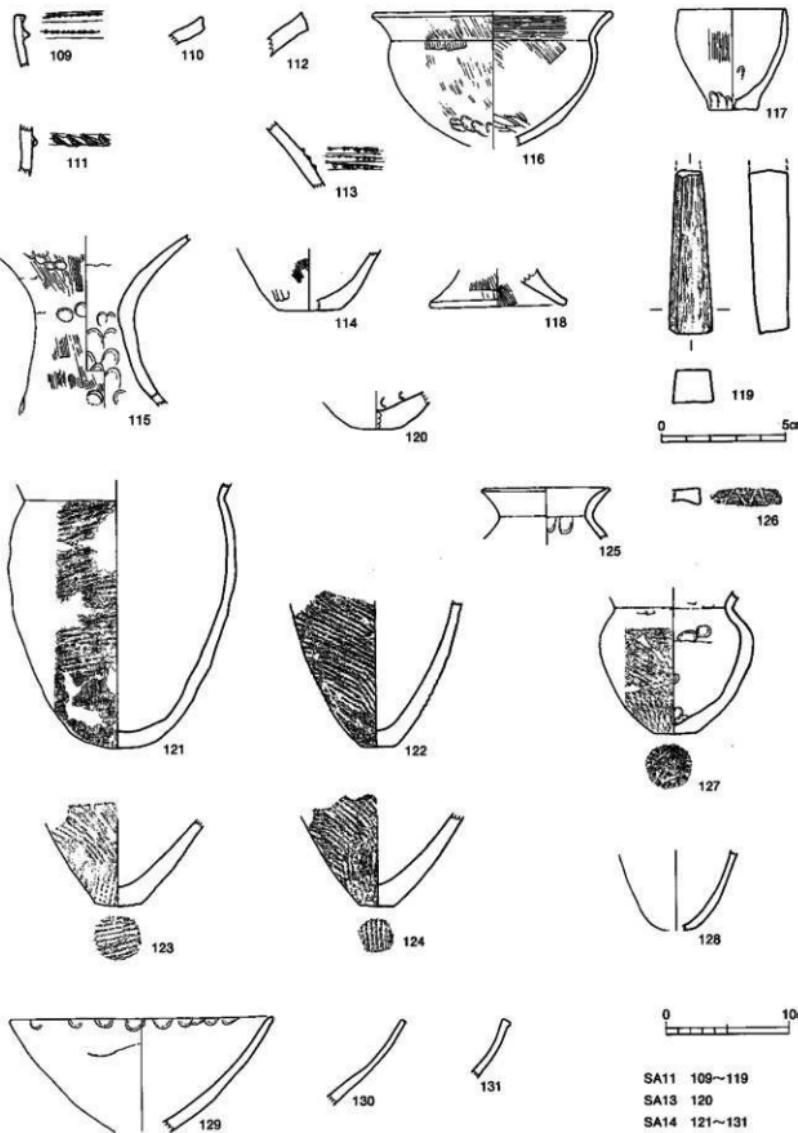


0 2m

第18図 SA11・12



第19図 SA13・14



第20図 SA11・13・14出土遺物実測図 (1/4)

が「く」字形に外反し胴部が半球形状を呈する鉢である。内外面ともに刷毛目調整を主体とするが、底部内面にはミガキを施す。117は鉢型の小型土器である。内面は刷毛目調整のちナデを施している。118は台付鉢の脚台部と思われる。内外面ともに刷毛目調整のち撫でている。119は砂岩製の砥石である。砥面を4面もつ。

12号住居址（第18図）

調査区の東端に位置する。北隅が1号土坑、西隅が2号土坑により切られ、中央部は石積土坑によって切られている。規模は長軸4.10m、短軸3.24m、床面積12.3m²と小型の住居址である。平面プランは隅丸長方形を呈するものと思われる。長軸方位はN31° Eを指す。現存壁高は0.30~0.38mを測り、床面は南寄りが高くなる。床面には1基の柱穴を南側の壁際で確認した。

遺物は出土していない。

13号住居址（第19図）

調査区の南東端に位置し、床面の大部分が4号竪跡により失われている。また、南隅部が3号土坑により切られている。規模は中軸線上で長軸2.64m、短軸2.46m、床面積5.4m²の極めて小型の住居址である。平面プランは隅丸方形が想定される。長軸方位はN68° Wを指す。壁高は0.26~0.33mを残す。柱穴は床面に3基いずれも南寄りで検出した。

出土遺物（第20図120）

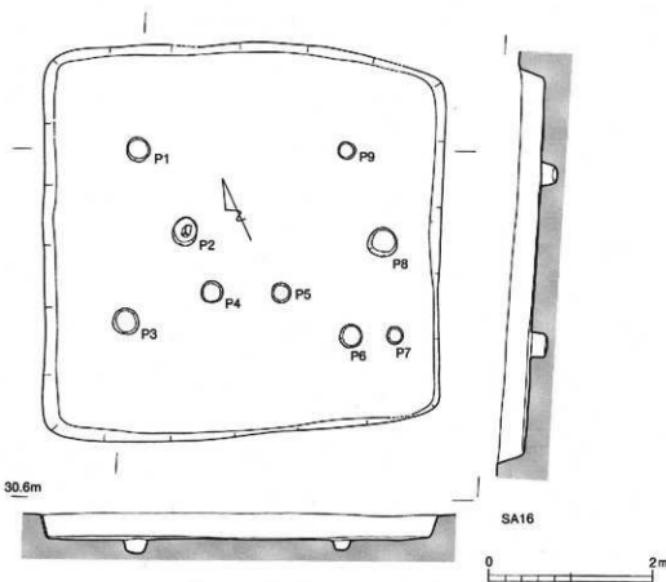
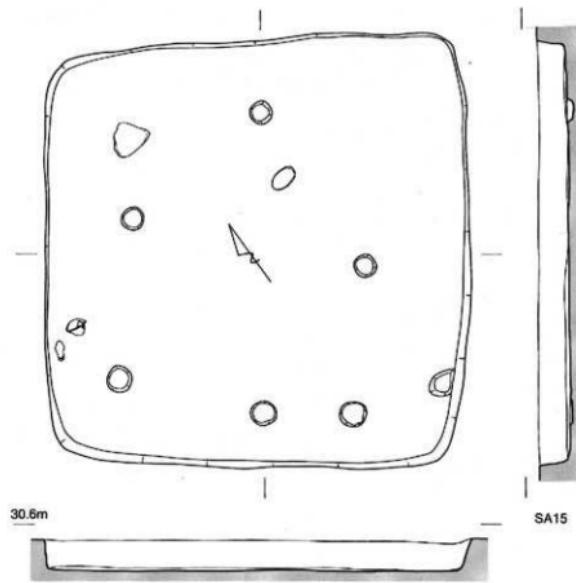
遺物は1点のみ出土した。丸底状を呈する平底の壺の底部である。外面に丁寧なナデを施す。

14号住居址（第19図）

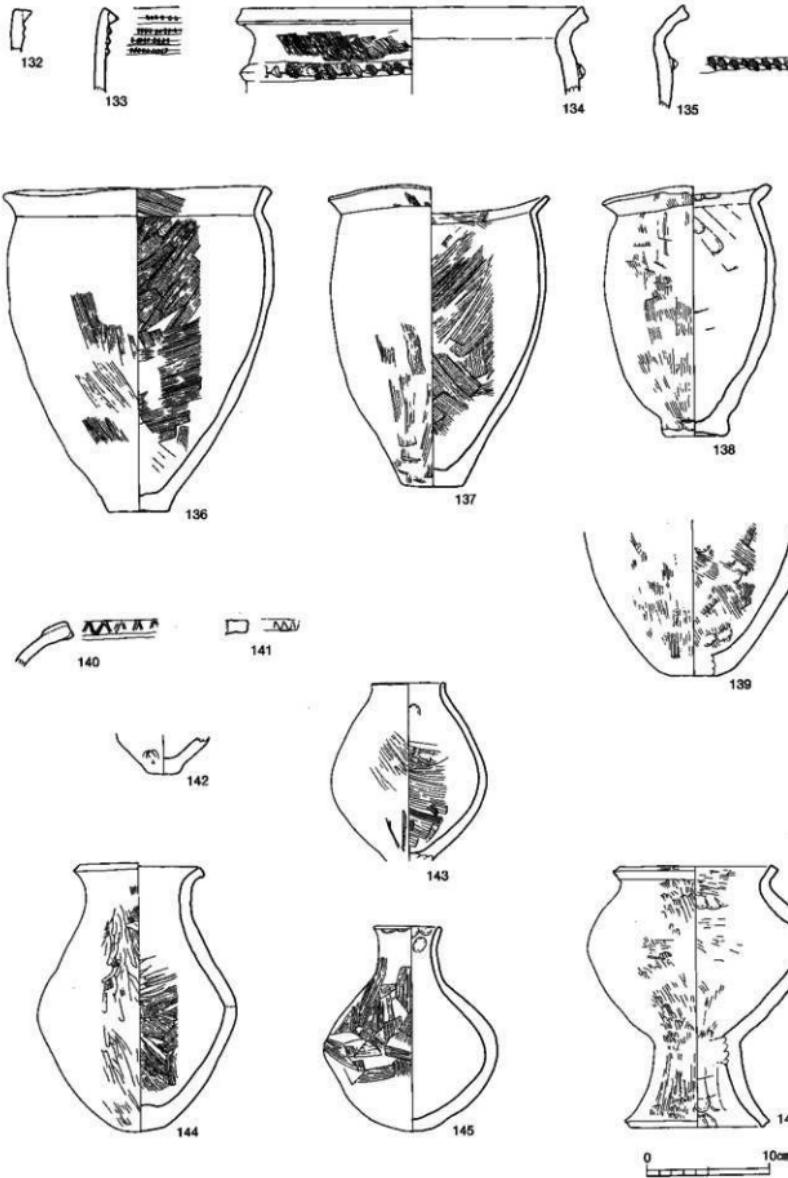
調査区のはば中央部に位置し、23号住居址と接している。規模は長軸5.30m、短軸4.60m、床面積22.9m²と中型の住居址である。平面プランは隅丸長方形を呈する。長軸方位はN29° Eを指す。現存壁高は約0.25mを測り、床面はほぼ水平を保つ。床面には7基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP1、P2、P4、P5の4本柱が想定される。なお、中央ピットの周囲は受熱により赤化していた。

出土遺物（第20図121~131）

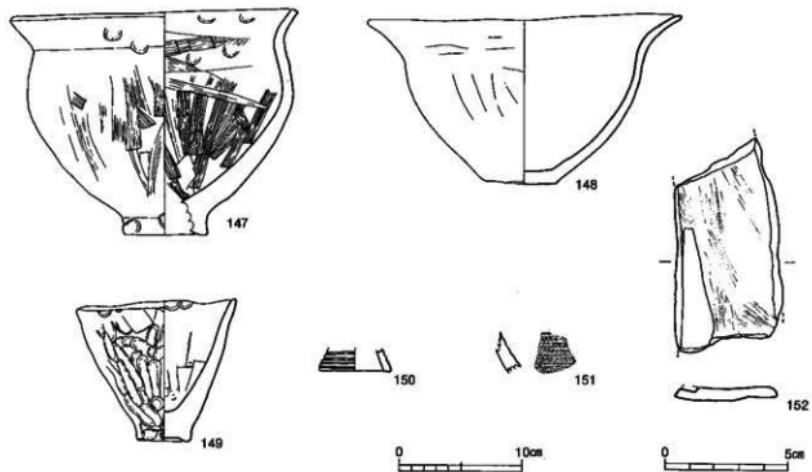
121~124は壺の胴部~底部で、すべて外面に平行タタキを施す。121は屈曲の明瞭な口縁部をもち、胴部最大径は胴部の中位よりやや上にある。底部は丸底を呈する。122~124は径の小さい平底を呈し、123、124は底面にも平行タタキを施す。125は短頸壺の口縁部で、口縁はなだらかに外反する。126は壺の口縁端部で、口縁部はラッパ上に大きく開くものと思われる。口縁端面に沈線で鋸歯文が施されている。127は半球形状を呈する壺の胴部~底部である。胴部最大径は上位にありわずかに肩が張る。底部は平底を呈する。胴部下半から底面まで平行タタキが施され、胴部上半は丁寧に撫でられている。128は壺型の小型土器である。底部は丸底を呈する。129、130は体部がわずかに内湾しながら大きく開く鉢である。口唇部の形態は129が舌状を呈し、130は平坦面を形成する。131は内湾しながら外に開く高壠の口縁部である。口唇部は平坦面を形成する。全面ミガキを施す。



第21図 SA15・16



第22図 SA15出土遺物実測図 (1/4)



第23図 SA15出土遺物実測図 (147~151…1/4、152…1/2)

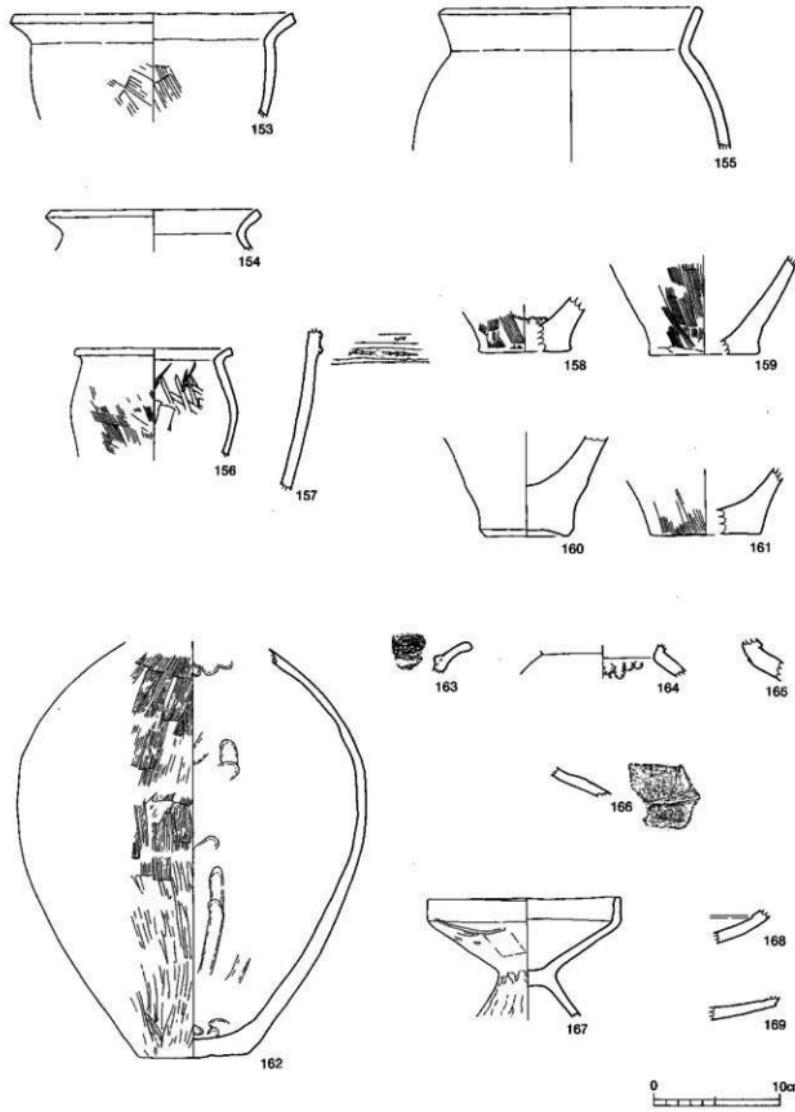
15号住居址 (第21図)

調査区の中央部南端に位置する。規模は長軸5.18m、短軸5.13m、床面積24.5m²と中型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈する。長軸方位はN36° Eを指す。現存壁高は約0.34mを測り、床面はほぼ水平を保つ。床面には7基の柱穴を確認したが、配置状況、規模から主柱穴を明確にすることは困難である。

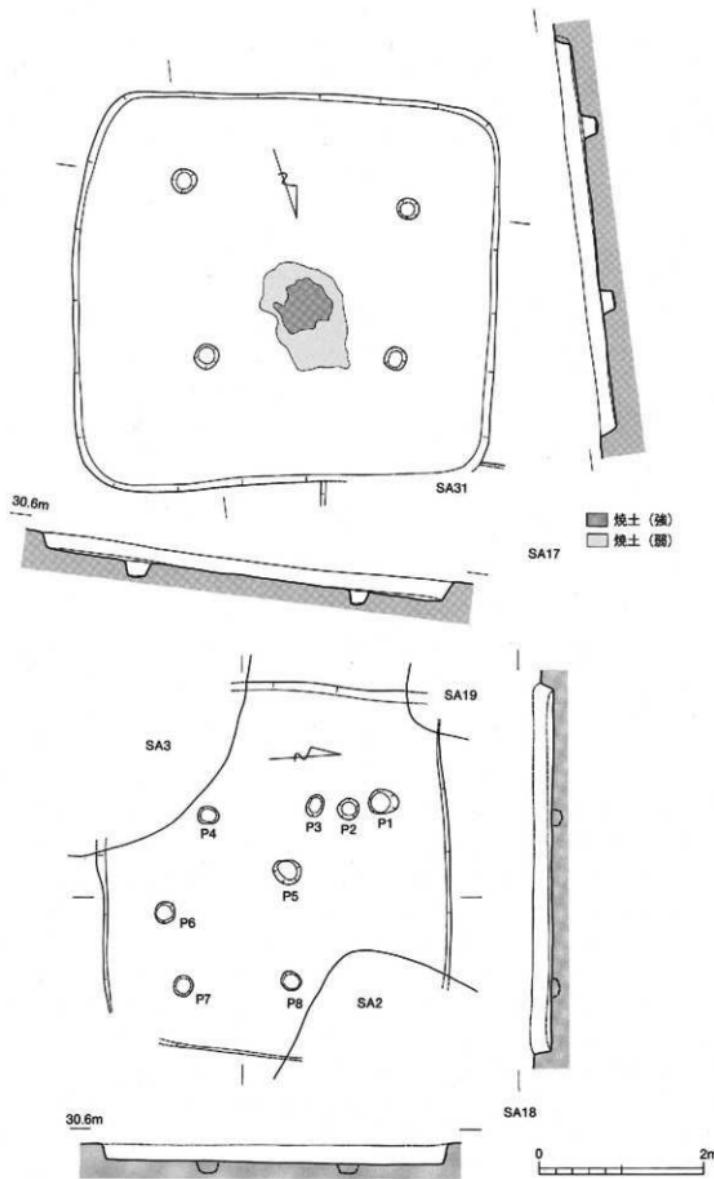
出土遺物 (第22図132~第23図152)

壺 (132~139)、壺 (140~145)、鉢 (146~149)、高坏 (150)、器台 (151)、砥石 (152) が出土している。このうち壺 (132~135、138)、壺 (140~145)、鉢 (147、149) が床面のほぼ直上から出土している。

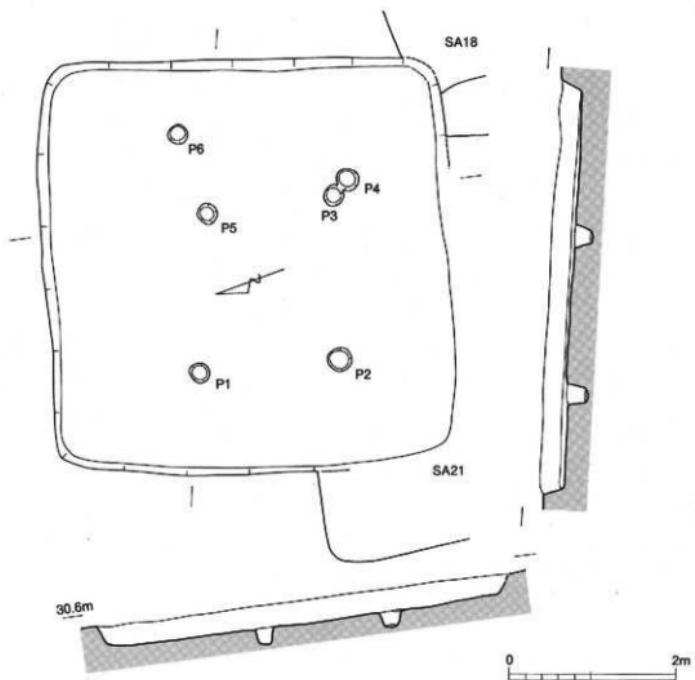
132は直口する口縁部で、口唇部には三角突帯を貼り付け口縁直下に2条の突帯を廻らす。133は口縁部が直口し、口唇部には刻目突帯を貼り付け直下に3条の刻目突帯を廻らす。134・135は口縁部が「く」字形に外反し、口縁部直下に1条の貼付刻目突帯を廻らす。刻目には布目痕を残す。外面の屈曲部から下に刷毛目を施す。136~138は口縁部が「く」字形に短く外反し、口径と胴部最大径はほぼ等しい。136・137は平底を呈し、138は上げ底で端部が張り出す。胴部形態はそれぞれ異なり、136が胴部最大径をくびれ部直下にもつに対し137は胴部中位やや上に、138はほぼ中位にもつ。器面調整は136・137が内外面ともに刷毛目を施しているが、138は外面が刷毛目を施したのち撫で、内面はナデを施している。139は丸底気味の平底を呈する壺の底部で、内外面ともに刷毛目を施す。140・141は口縁部が大きく外に開く壺の口縁部である。140は口縁端部上下に粘土を貼り付け肥厚させており、端面に鋸齒文を施している。141も口縁端面に鋸齒文を施している。142は平底の壺の底部である。143は短頸壺で、口頸部は短く直口する。胴部中位よりやや下に最大径をもち胴部上半がやや内湾しながら「ハ」字状に



第24図 SA16出土遺物実測図 (1/4)

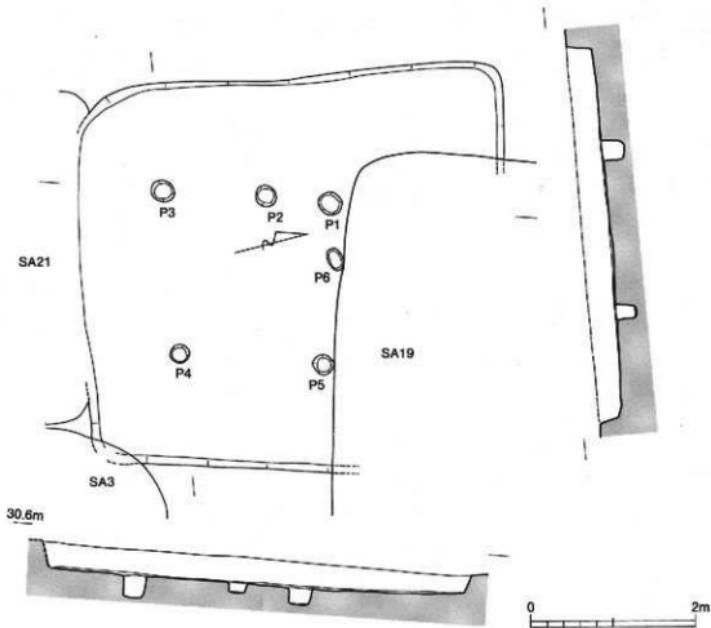


第25図 SA17・18



第26図 SA19

膨らむ。調整は外面上半が刷毛目を拂で消し、下半には丁寧なミガキを施す。内面上半は拂で、下半には刷毛目を施す。144・145は長頸壺である。144は口縁部が短く外反し、頸部～胴部上半には境がなく「ハ」字状に内傾し、胴部中位で屈曲して丸底の底部につながる。器面調整は内外面とも口縁部にヨコナデを施し、胴部外面にはミガキ、内面には刷毛目を施す。145は細頸壺である。頸部は直口し口縁がわずかに外反する。胴部は扁平な球形を呈する。外面には刷毛目を施す。146は台付鉢である。口縁部は「く」字状に短く外反し、胴部中位よりやや上に最大径をもち肩が張る。脚部は短く、なだらかに外反する。外面口縁部のヨコナデ、内面脚部のナデのほかは全面ミガキを施している。147は口縁部が「く」字状に外反し、胴部中位やや上でわずかに膨らむ。底部は上げ底を呈し端部がわずかに張り出す。内外面ともに刷毛目調整。148は口縁部が「く」字状になだらかに外反し大きく開く。底部は平底を呈する。調整は内外面ともに口縁部にヨコナデ、胴部に刷毛目のちナデを施している。149は小型の鉢型土器で底部は上げ底を呈する。外面には指ナデの痕を明瞭に残す。150は高壺の脚部である。外面には4条の凹線を廻らせている。151は器台の脚柱部と思われる。外面には縦方向の刷毛目を施したのち多条の沈線を廻らせている。152は貞岩製の砥石で、片面に砥面をもつ。



第27図 SA20

16号住居址（第21図）

調査区の西寄りに位置し、北壁が24号住居址により切られている。規模は長軸4.82m、短軸4.80m、床面積20.4m²と中型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈する。長軸方位はN64°Wを指す。現存壁高は0.26～0.30mを測り、床面はほぼ水平を保つ。床面には9基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP1、P3、P6、P9の4本柱が想定される。

出土遺物（第24図153～169）

153～156は口縁部が「く」字状に外反する壺である。153は胴部最大径が口縁部直下にあり肩は張らない。内外面ともに胴部は刷毛目を撫で消している。155は胴部最大径が口径を上回る。156は胴部中位に最大径をもち口径をわずかに凌ぐ。外面胴部には刷毛目を施す。157は壺の胴部で、外面に2条以上の刻目突帯を貼り付ける。器面調整は外面に刷毛目、内面に丁寧なナデを施す。158～161は壺の底部である。158・159は平底を呈し端部が張り出す。外面には刷毛目を施す。160は上げ底を呈する。161は平底を呈し端部は張り出さない。外面には刷毛目を施す。162は胴部上位に最大径をもち肩が張る壺で、底部は平底を呈する。外面上半は刷毛目を撫で消し、下半にはミガキを施している。163は外湾する壺の口縁部で、内面下位に三角突帯を貼り付け、突帯部の上面に2段の連続刺突文を施す。内面にはミガキを施す。164・165は壺の頸部付近で、165はくびれ部に突帯を貼り付けている。166は壺の肩部で外面



第28図 SA17・20出土遺物実測図(1/4)

に沈線を廻らす。167は受け部の深い高坏である。口縁部は短く直口し受け部は外傾する。脚部は直線的に開くものと思われる。口縁部は内外面ともにヨコナデ、受部外面には丁寧なナデ、脚部外面にはミガキを施す。168・169は高坏の受け部である。ともに外面にはミガキを施し、168は内面にもミガキを施している。

17号住居址（第25図）

調査区の東寄りに位置し、北隅が31号住居址を切っている。規模は長軸5.16m、短軸4.72m、床面積22.2m²の中型の住居址である。平面プランは東壁が若干長く弧を描くように膨らむ隅丸方形（台形）を呈する。長軸方位はN72°Wを指す。現存壁高は0.20～0.24mを測り、床面はほぼ水平を保つ。床面には4基の主柱穴が方形に配置する。また、床面の中央部が長軸約1.5m、短軸約0.9mの楕円形状に受

熱により赤化しており、中心部直径約0.6mの範囲が特に著しく赤化している。

出土遺物（第28図170～184）

遺物は甕（170～175）、壺（176～182）、鉢（183）、小型土器（184）が出土している。そのうち甕（173）が床面直上で出土している。

170は口縁がやや内湾気味に直口する甕の口縁部で、口唇部およびその直下に刻目突帯を廻らす。突帯下には「ハ」字形に2条の平行沈線を線刻している。171は直口する口縁端部に三角突帯を廻らせ、直下にも突帯を貼り付けている。172は口縁部が「く」字形に外反し、長胴気味の胴部は最大径を中位にもつ。口径と胴部最大径はほぼ等しい。173は口縁部が直口し、胴部は中位よりやや上に最大径をもち肩がやや張る。底部はほぼ丸底状の平底を呈する。外面には平行タタキを施している。174は甕の胴部で、刻目突帯の下に縦、斜方向に沈線を施している。175は平底の底部で端部が張り出す。176・177は口縁が大きく開く壺の口縁部である。176は口縁端面に沈線で羽状文を施し、177は口縁端面を凹ませ内面には円形浮文を貼り付けている。178は壺の口縁部で、内外面ともにミガキを施す。180は壺の頸部でくびれ部に2本の三角貼付突帯を廻らしている。外面ミガキ調整。181・182は壺の肩部で、ともに沈線を廻らす。183は体部が大きく外傾する鉢で、内外面ともにミガキを施している。184は鉢型の小型土器で内外面ともに指頭痕を明瞭に残す。

18号住居址（第25図）

調査区南東部に位置し、北東隅が2号住居址、南東隅が4号掘立柱建物に伴う柱穴、南西隅が3号住居址にそれぞれ切られている。また、北西隅が19号住居址と接しているが切り合い関係は確認できなかつた。規模は中軸線上で長軸4.60m、短軸4.20m、推定床面積18.0m²と小型の住居址である。平面プランは（隅丸）方形を呈するものと思われる。長軸方位はN86°Wを指す。現存壁高は約0.16～0.22mを測り、床面は北西側にかけて緩やかに傾斜する。床面には8基の柱穴を確認したが、他の住居址により床面の一部が失われているため、主柱穴の配置を明確にすることはできなかつた。

遺物は出土していない。

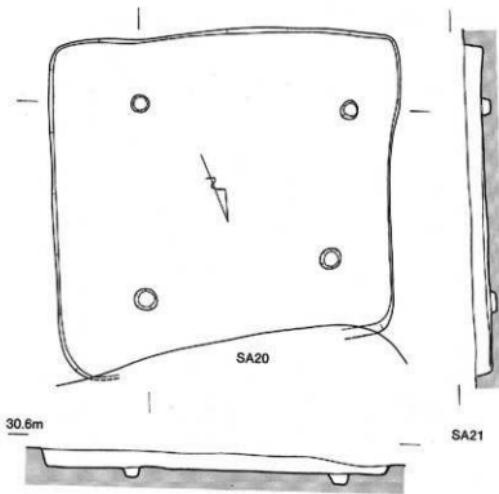
19号住居址（第26図）

調査区の中央よりやや東側に位置し、南側から南西部にかけての壁面が20号住居址を切り、南東隅が18号住居址と接している。規模は長軸5.06m、短軸5.00m、床面積22.4m²と中型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈する。長軸方位はN20°Eを指す。現存壁高は0.24mを測り、床面はほぼ水平を保つ。床面には6基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP1、P2、P3、P5の4本柱が想定される。

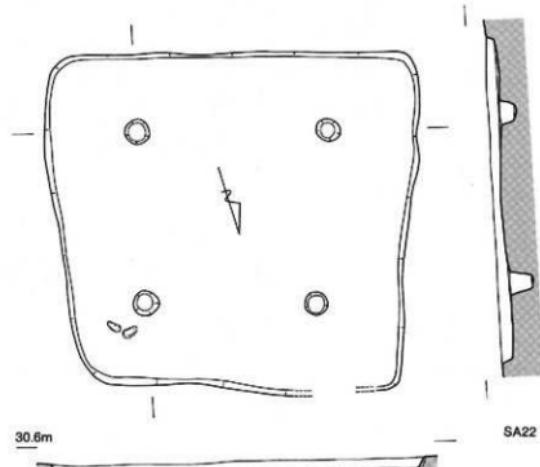
遺構に伴う遺物は出土していない。

20号住居址（第27図）

調査区の中央よりやや東側に位置し、北側から北東部にかけての壁面が19号住居址、南東隅が3号住居址によりそれぞれ切られている。また、南壁が21号住居址を切っている。規模は長軸5.20m、短軸4.76m、推定床面積23.0m²と中型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈するものと思われる。長



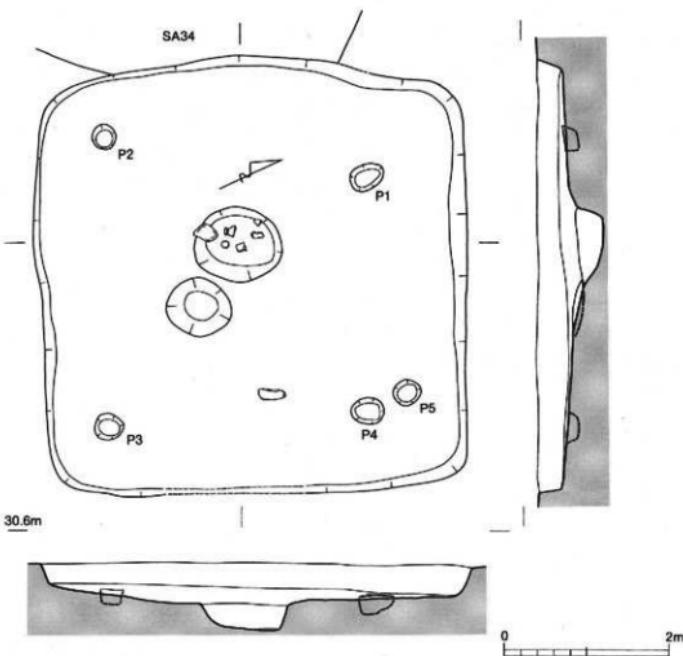
SA21



SA22

0 2m

第29図 SA21・22



第30図 SA34

軸方位はN13° Eを指す。現存壁高は0.24~0.30mを測り、床面はほぼ水平を保つ。床面には6基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP1、P3、P4、P5の4本柱が想定される。

出土遺物（第28図185~187）

185は壺の口縁部～胴部である。口縁はなだらかに外反し、内面に稜線をもたない。径の最大は胴部中位にあるものと思われる。外面に平行タタキを施す。186は上げ底を呈する壺の底部で、端部が張り出す。外面に刷毛目を施す。187は壺の頸部～肩部で、屈曲部に貼付刻目突帯を廻らせている。

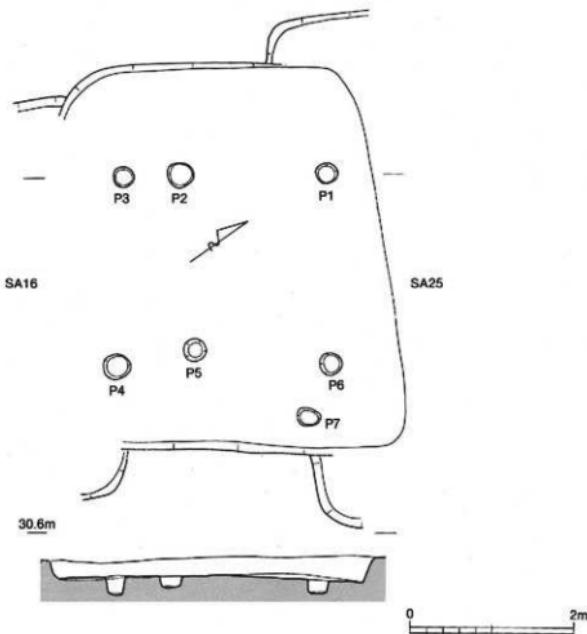
21号住居址（第29図）

調査区の中央よりやや東側の南隅に位置し、北壁が20号住居址によって切られている。規模は長軸4.08m、短軸約4.00m、推定床面積15.0m²と中型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈するものと思われる。長軸方位はN72° Wを指す。現存壁高は約0.20mを測り、床面はほぼ水平を保つ。床面には4基の柱穴を確認した。

遺物は出土していない。

22号住居址（第29図）

調査区中央部の南端に位置し、北壁の一部が土坑により切られている。規模は中軸線上で長軸



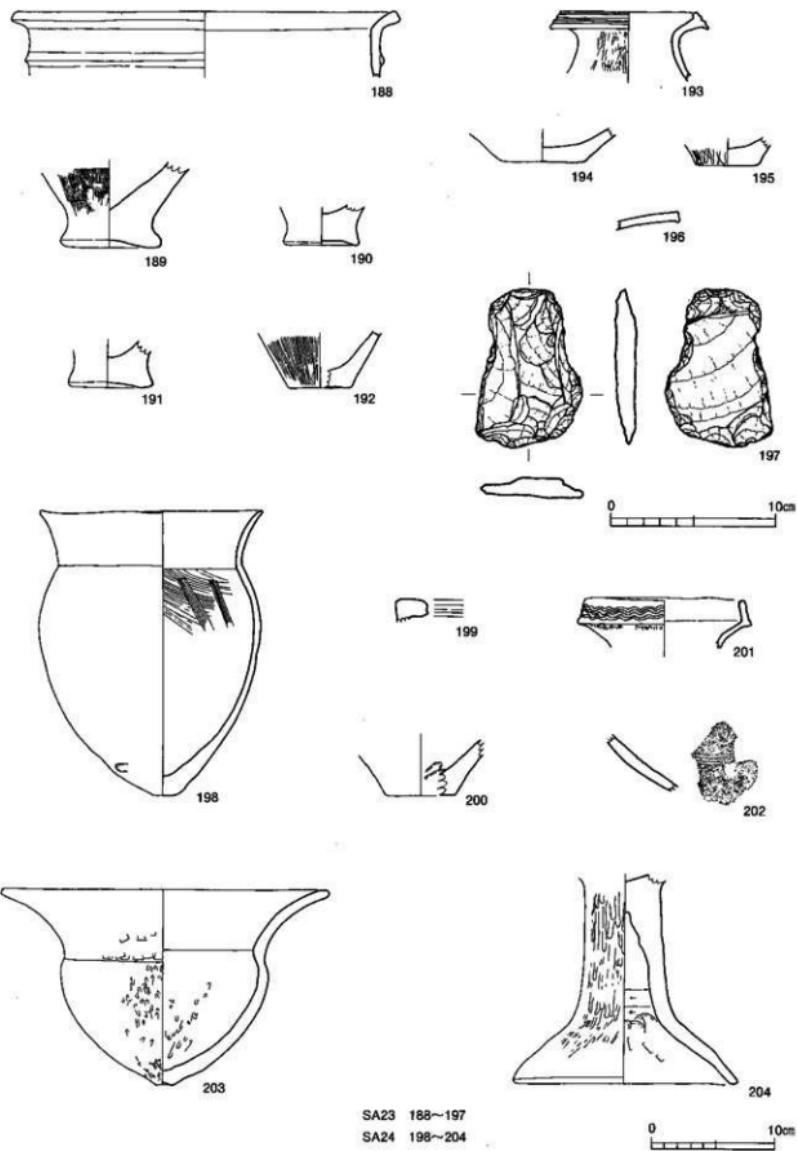
第31図 SA24

4.22m、短軸4.12m、床面積16.4m²と中型の住居址である。平面プランは北壁が短い台形を呈する。長軸方位はN74°Wを指す。現存壁高は約0.12mを測り、床面は中央部にかけて緩やかに凹む。検出面からの深さは最深部で0.18mを測る。床面には4基の主柱穴を検出した。

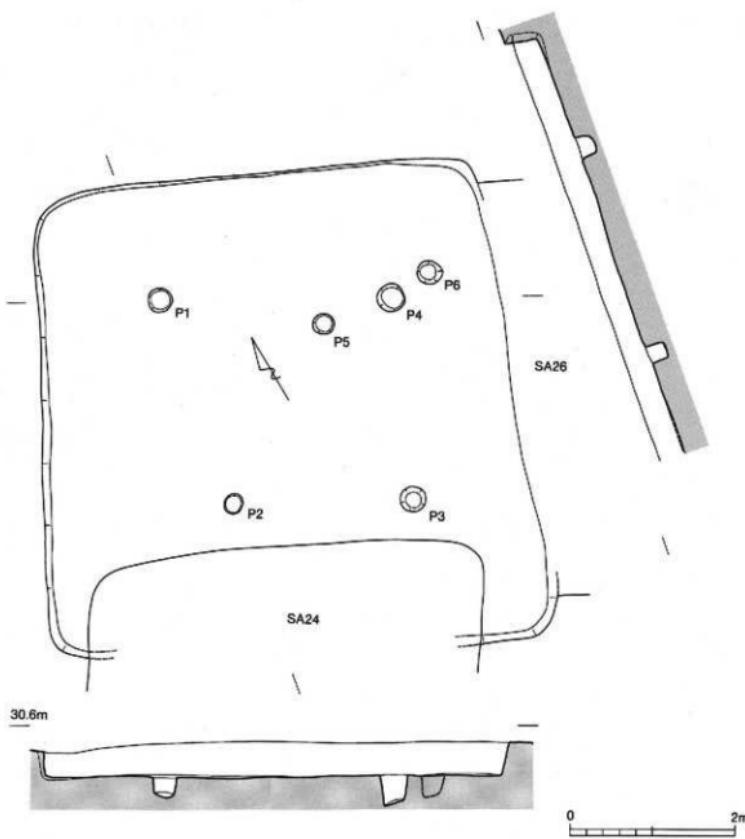
遺物は出土していない。

23号住居址（第30図）

調査区の中央部に位置し、東壁が14号住居址と接し、西壁が34号住居址に切られている。規模は長軸5.34m、短軸5.18m、床面積24.1m²と中型の住居址である。平面プランは西壁が若干膨らむが、全体的に整った隅丸方形を呈する。長軸方位はN67°Wを指す。現存壁高は約0.26~0.32mを測り、床面は中央部にかけて緩やかに凹む。検出面からの深さは最深部で0.50mを測る。床面には5基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP1、P2、P3、P4の4本柱が想定される。その他、床面中央部に2基の土坑を検出した。1基は長軸1.02m、短軸0.90mの楕円形を呈する。断面形は北西部にかけて深くなる舟底形を呈し、床面からの深さは最深部で0.30mを測る。他の1基は前者の南東側に隣接する。平面プランは長軸0.80m、短軸0.70mの楕円形を呈する。断面形は碗形を呈し、床面からの深さは最深部で0.14mを測る。



第32図 SA23・24出土遺物実測図 (197…1/3、他 1/4)

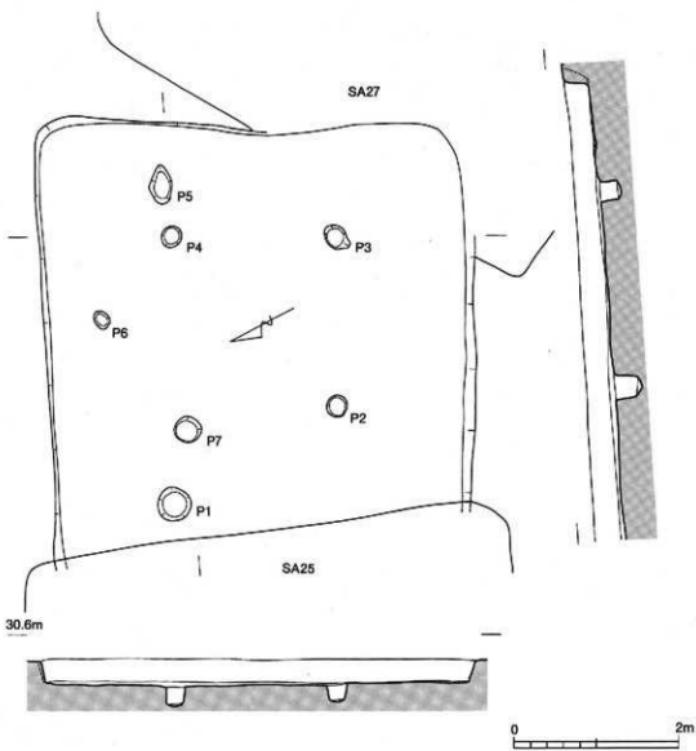


第33図 SA25

出土遺物（第32図188～197）

遺物は壺（188～192）、壺（193～195）、器台（196）、石斧（197）が出土した。このうち壺の底部（189～192）が中央土坑から出土した。

188は口縁が「く」字形に外反する壺の口縁部で、胴部に張りをもたない。口縁部直下に貼付突帯を廻らせてている。壺の底部には上げ底を呈し端部が大きく外に張り出るもの（189）、上げ底を呈し端部がわずかに張り出るもの（190・191）、平底のもの（192）が出土している。189・192は外面に刷毛目を施している。193は口縁部が屈曲して大きく開き、口縁端面を上下に拡張させ3条の凹線を施している。頸部は「ハ」字状を呈する。外面にはミガキ、内面にはナデを施している。194・195は平底を呈する壺の底部である。外面の器面調整は194には丁寧なナデ、195にはミガキを施している。196は受け部が大きく開く器台である。口縁端部に面をとり下端部をつまみだしている。197は砂岩製の撥型を呈する打



第34図 SA26

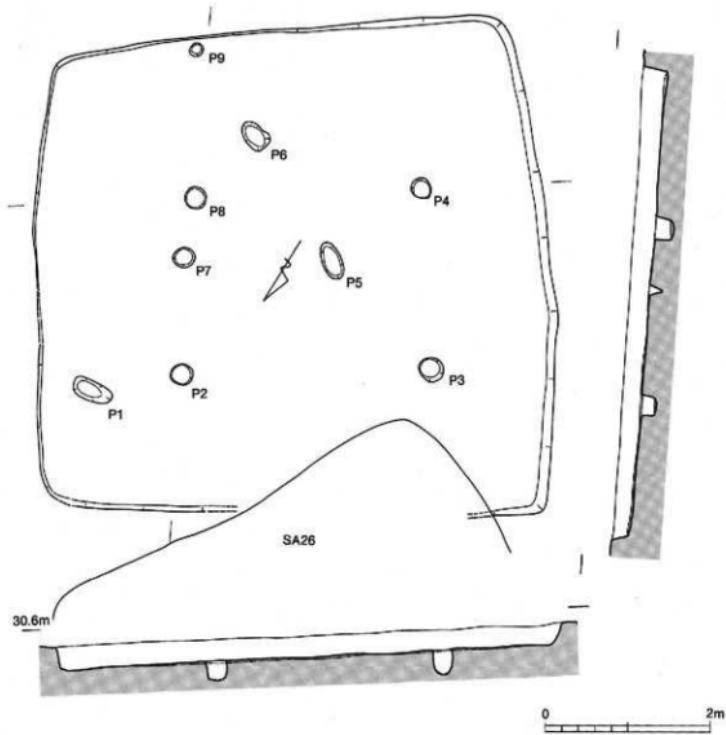
製石斧である。刃部は両面から調整をしている。

24号住居址（第31図）

調査区の西寄りに位置し、北壁が25号住居址、南壁が16号住居址をそれぞれ切っている。規模は長軸4.70m、短軸3.90m、床面積17.2m²と中型の住居址である。平面プランは隅丸長方形を呈する。長軸方位はN62°Wを指す。現存壁高は0.20~0.30mを測り、床面は中央部から北壁に向かって傾斜する。床面には7基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP1、P3、P4、P6の4本柱が想定される。

出土遺物（第32図198~204）

198はほぼ完形の壺である。口縁部が「く」字状に外反して大きく開く。胴部最大径を中位やや上にもち肩が若干張る。底部は尖底状を呈する。199は壺の口縁部で、口唇部外面に台形状の突帯を貼り付け、端面には1条の凹線を施す。200は平底の壺の底部である。201は複合口縁壺の口縁部でやや内傾す

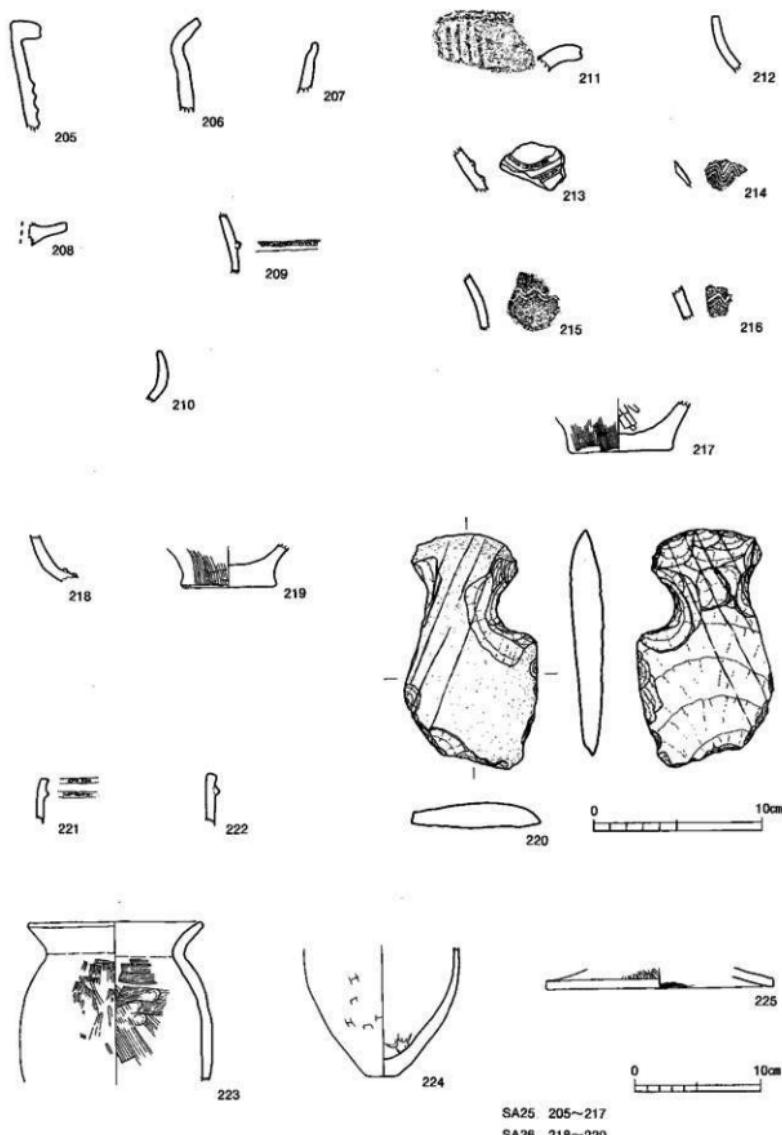


第35図 SA27

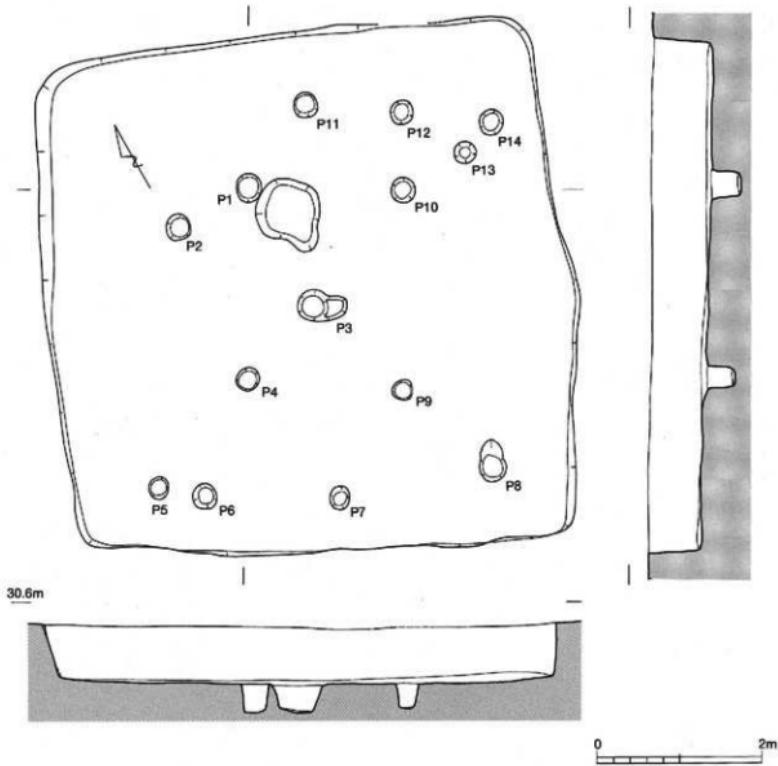
る拡張部に構描波条文を施す。拡張部内面はナデ、頸部は内外面とも刷毛目調整である。複合口縁接合部直下は、箆状工具で荒く撫で付けられている。202は2条の沈線を廻らす壺の肩部で、外面には丁寧なナデを施している。203はほぼ完形の鉢である。口縁部は大きく外反し、胴部との境には内外面ともに明瞭な稜線をもつ。胴部は肩がわずかに張り小さく膨らむ。底部は尖底気味の丸底を呈する。調整は口縁部にはナデ、胴部には内外面ともにミガキを施し、内面はミガキをナデ消している。204は高壺の脚部で、円筒形を呈する脚柱部から屈曲して内湾しながら裾部が開く。外面にはミガキを施し、脚柱部内面には横方向にケズリを施している。

25号住居址（第33図）

調査区の西寄りに位置し、東壁が26号住居址を切り、南壁が24号住居址によって切られている。規模は推定長軸5.80m、短軸5.74m、推定床面積32.3m²と大型の住居址である。平面プランは北壁が若干短いが全体的には隅丸方形を呈する。長軸方位はN25° Eを指す。現存壁高は0.32～0.42mを測り、床面



第36図 SA25・26・27出土遺物実測図 (220…1/3、他1/4)

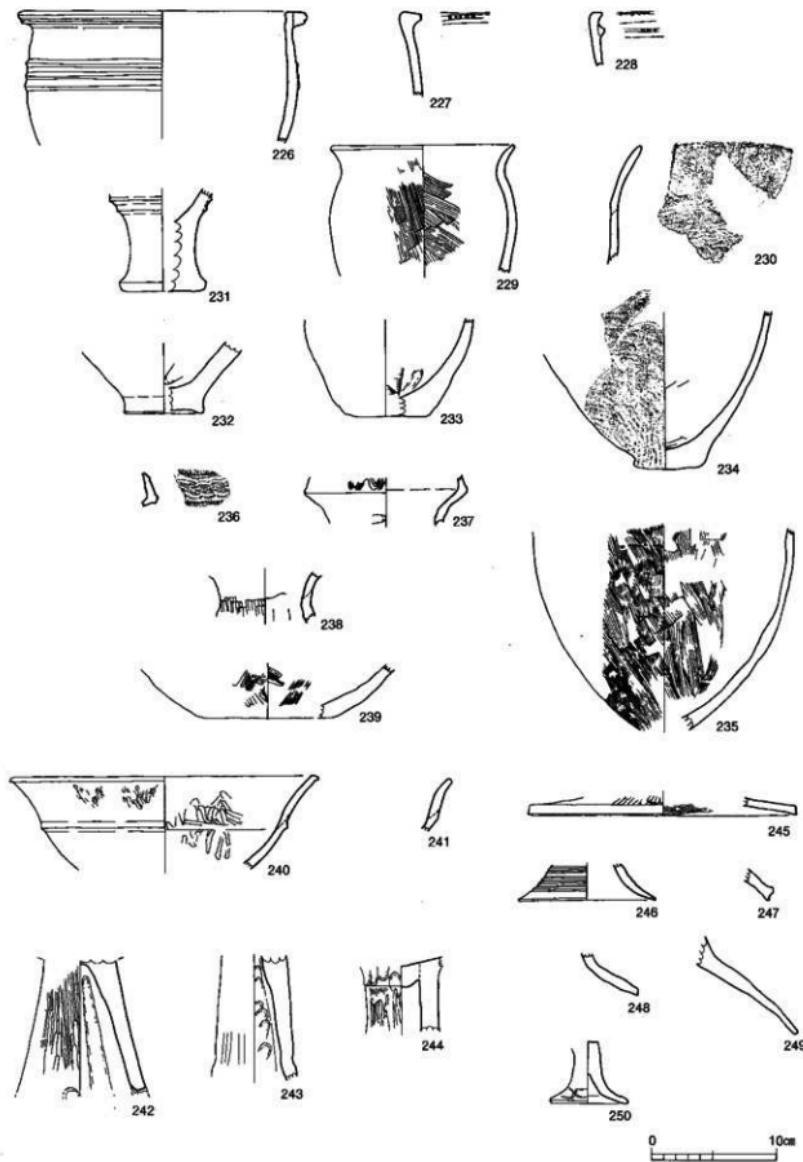


第37図 SA28

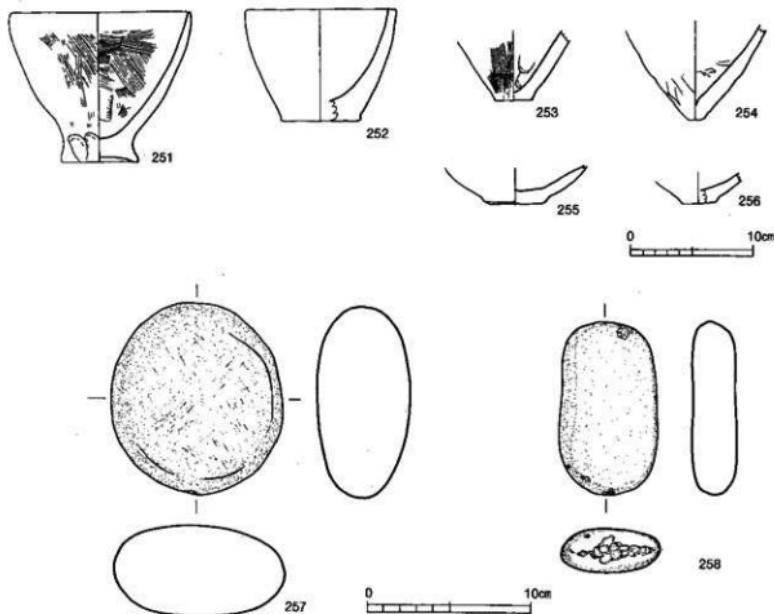
はほぼ平坦を保つ。床面には6基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP1、P2、P3、P4の4本柱が想定される。

出土遺物（第36図205～217）

205は壺の口縁部で口縁外面には台形状の突帯を張り付け、端面には凹線を施している。胴部は張らず、胴部上位には4条以上の突帯をめぐらせている。内外面ともに刷毛目を施したのち撫で消している。206は口縁部が「く」字形を呈する壺の口縁部～胴部で、外面に刷毛目を施す。207は壺の口縁部で外面は丁寧に撫でられている。外面には煤の付着が著しい。208は壺の貼付突帯部で、水平方向に大きく拡張する。209は刻目突帯を貼り付ける壺の胴部で、外面には刷毛目を施す。210はミニチュア土器で、外面にはミガキを施している。211は壺の口縁部で、口縁端面には凹線を施し内面には4条の三角突帯が縱方向に隆起している。外面下端には箒状工具による撫で付けの痕がみられる。212は短頸壺の口縁部である。213は壺の肩部で、外面には曲線状に2列の刻目突帯を貼り付けている。214は櫛描波状文



第38図 SA28出土遺物実測図 (1/4)



第39図 SA28出土物実測図 (251~256…1/4、257・258…1/3)

を施す壺の口縁拡張部と思われる。215・216は壺の肩部で外面には横描波状文を施している。217は平面を呈する壺の底部で、外面は刷毛目を施したのち丁寧に撫でている。

26号住居址（第34図）

調査区の中央部よりやや西寄りに位置し、南東隅が27号住居址を切り、西壁が25号住居址によって切られている。平面プランは西壁全体が切られているため判然としないが、残存部分から判断すると、長軸を東西方向にもつ隅丸方形が推定される。規模は現存長軸5.00m、短軸5.20m、現存床面積24.9m²と中型の住居址である。長軸方位はN 67° Wを指す。現存壁高は0.28mを測り、床面はほぼ平坦を保つ。床面には6基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP 2、P 3、P 4、P 7の4本柱が想定される。

出土遺物（第36図218～220）

218は「ハ」字状を呈する壺の頸部～肩部で、肩部上位に2条の三角突帯を貼り付ける。外面にはミガキを施している。219は平底を呈する壺の底部で端部は張り出す。外面には刷毛目を施している。220は砂岩製の有肩打製石斧である。基部に近い側縁部に大きな抉りを入れている。土器具としての機能が想定される。

27号住居址（第35図）

調査区のほぼ中央に位置し、北西壁の一部が26号住居址に切られ、34号住居址に南東部で隣接する。規模は長軸6.26m、短軸5.82m、推定床面積32.3m²と大型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈する。長軸方位はN58° Eを指す。現存壁高は0.20~0.28mを測り、床面は南東壁に向かって緩やかに傾斜する。床面には9基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP2、P3、P4、P8の4本柱が想定される。

出土遺物（第36図221~225）

221は直口する壺の口縁部で、平坦面を形成している口唇部の外端に刻目を施し、その直下に刻目突帯を貼り付けている。突帯下には刷毛目を施す。222は直口する壺の口縁部で口唇部の外端を摘み出し肥厚させており、その直下に貼付突帯を廻らせている。突帯下に刷毛目を施す。223は壺の口縁～胴部で、口縁部は「く」字形に外反する。胴部中位に最大径をもち肩は張らない。胴部最大径が口径を凌ぐ。胴部外面は刷毛目のちミガキを施し、内面には刷毛目を施す。224は径の小さい平底を呈する壺の胴部～底部である。外面底部付近には丁寧なナデを施す。225は大きく広がる高坏の脚裾部で、外面にはミガキを施す。

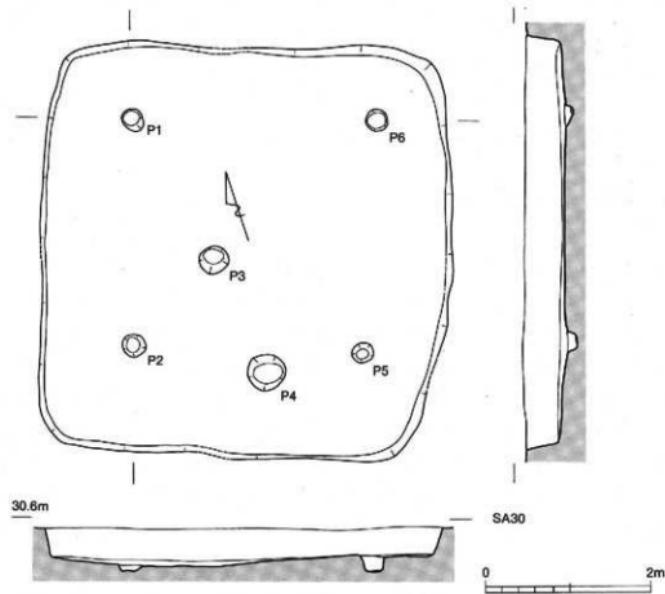
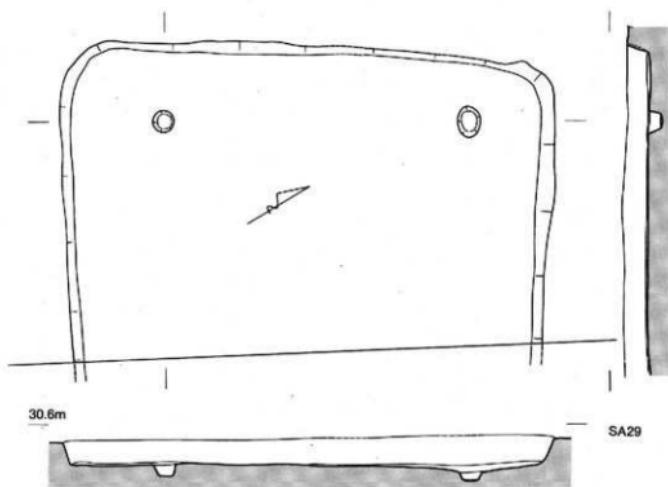
28号住居址（第37図）

調査区の西側に位置する。規模は長軸6.50m、短軸6.30m、床面積36.9m²を測り、本遺跡最大の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈する。長軸方位はN63° Wを指す。現存壁高は約0.66mを測り、床面は北壁に向かって緩やかに傾斜し、東西方向はレンズ状に若干凹む。床面には14基の柱穴を検出したが、配置状況から主柱穴はP1、P4、P9、P10の4本柱が想定される。その他床面中央部よりやや北寄りで土坑を1基検出した。平面プランは南北方向に長軸をとる不整梢円形を呈する。規模は長軸0.96m、短軸0.80mを測る。床面からの深さは最深部で0.36mを測り、断面形は西側から東寄りにかけて緩やかに傾斜する。

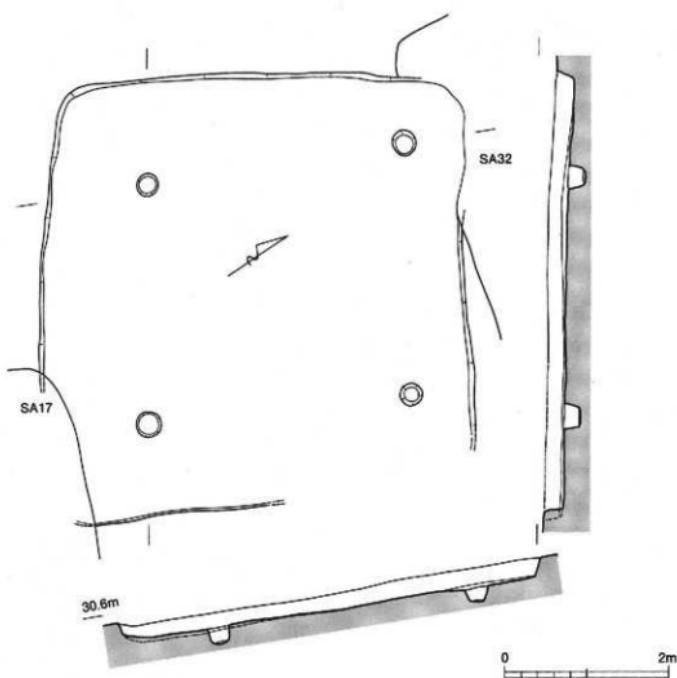
出土遺物（第38図226~第39図258）

壺（226~235）、壺（236~239、255、256）、高坏（240~250）、鉢（251~254）、磨石（257）、敲石（258）が出土している。

226は壺の口縁部～胴部で、口唇部には台形の貼付突帯を廻らせ、端面に凹線を施している。胴部最大径を上位にもちわざかに膨らむ。胴部上位には3条の貼付突帯を廻らせている。227は胴部がわざかに膨らむ壺の口縁部で口唇部には断面三角形の刻目突帯を貼り付けている。228は直口する壺の口縁部で口唇部に貼付刻目突帯をもつ。その直下にも貼付刻目突帯を廻らせている。外面突帯下に刷毛目を施す。229は外面が「く」字状に外反する壺の口縁部～胴部で、胴部がやや膨らむ。口径と胴部最大径はほぼ同径である。内外面とも胴部には刷毛目を施す。230はゆるやかに外反する壺の口縁部で胴部との境は不明瞭である。外面にタタキを施したのち撫でている。231は中実の脚台で端部が外反する。脚台上位には2条の三角突帯を貼り付けている。232は上げ底を呈する壺の底部で、外面には丁寧なナデを施している。233は平底を呈する壺の底部で内外面とも粗雑なナデを施している。234は平底を呈する壺の胴部～底部で、底部は肥厚する。外面には平行タタキを施している。235は壺の胴部～底部で、胴下半部はやや丸みを帯び、底部は尖底状を呈する。内外面ともに刷毛目を施す。236・237は複合口縁壺の

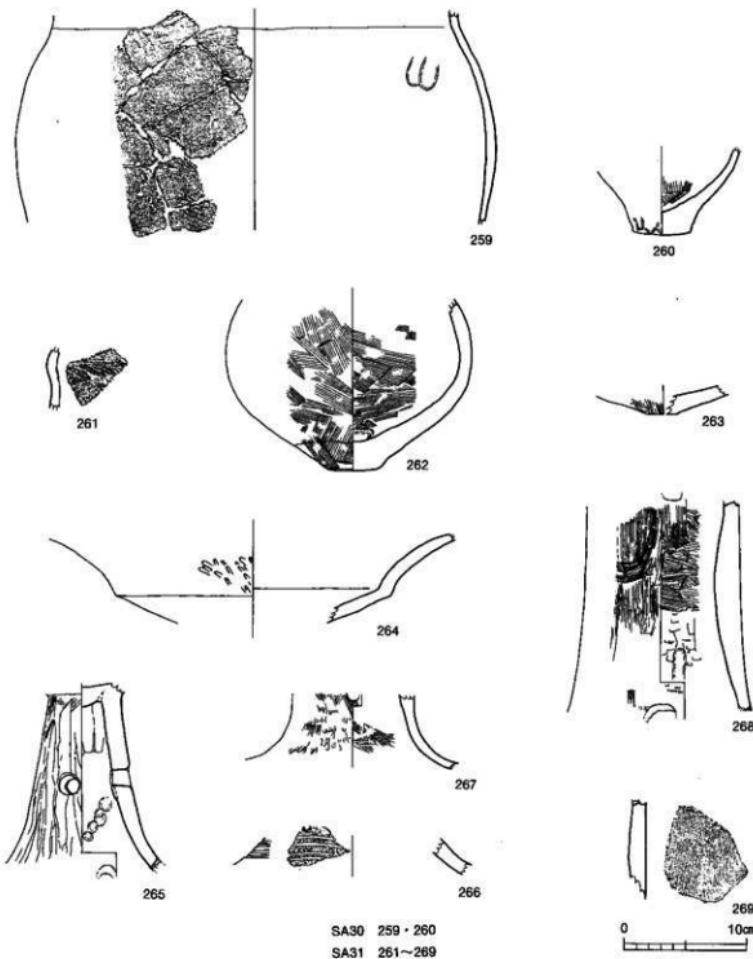


第40図 SA29・30



第41図 SA31

口縁部で、内傾する拡張部に櫛描波状文を施す。238は外湾する壺の頸部で、外面に刷毛目を施している。239は平底の壺の底部で、外面にはミガキ、内面には刷毛目を施している。240は高坏の口縁部である。口縁部はゆるやかに外湾し、受け部は丸い。口縁部と受け部との境には稜線をもたず外面に1条の突帯を貼り付けている。調整は内外面ともミガキを施している。241は高坏の口縁部で、受け部との境に稜線をもち口縁が外反する。内外面ともにミガキ調整。242~244は高坏の脚柱部である。242はわずかに外湾しながら開き、下位に四方から円形透かしを穿つ。外面ミガキ調整。243は円柱状を呈し、裾部は屈曲して聞くものと思われる。244は円柱状を呈し、外面にはミガキを施している。245~249は高坏の脚据部である。245は大きく裾部が開くもので、外面にミガキ、内面に刷毛目を施している。246は「ハ」字状にゆるやかに外反し、脚柱部から裾上部にかけて多条の凹線を施している。247は裾上端部をつまみ上げ小さく突出させており、端面はナデにより浅い凹を形成している。249は受け部から直接「ハ」字状にわずかに内湾しながら開く。内外面とも刷毛目調整。250は小型の高坏の脚部である。251、252は体部が内湾気味に聞く鉢である。251は底部が上げ底を呈し、端部はやや張り出している。内外面とも刷毛目を施す。252は平底を呈する。253、254は底径の小さい平底の鉢で、体部は外傾する。253は外面に刷毛目を施している。257は砂岩製の磨石である。両面に磨痕が認められる。258は砂

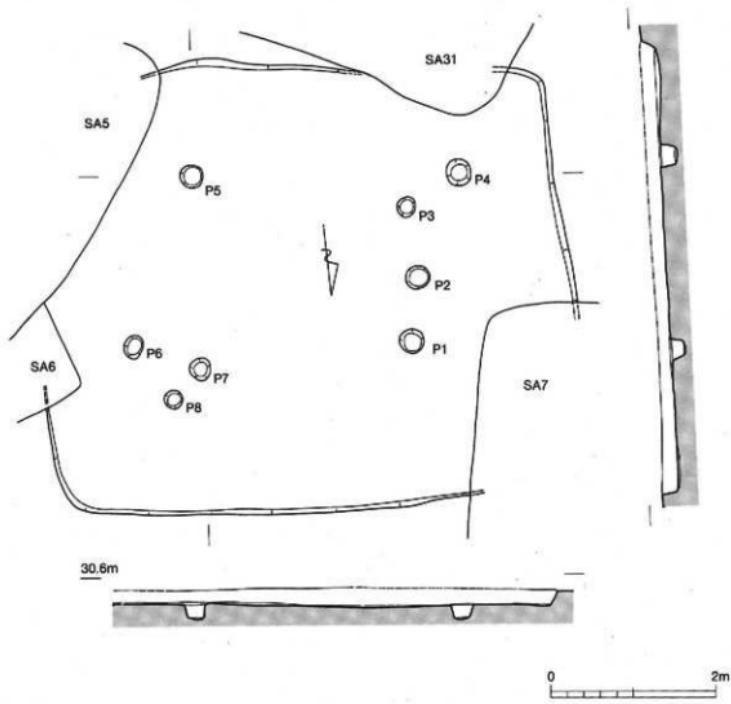


第42図 SA30・31出土遺物実測図(1/4)

岩製の蔽石である。両端部に敲打痕を残す。

29号住居址（第40図）

調査区の東端に位置し、住居址の東側が調査区外に延びる。平面プランは東側が不明であるが、調査区内で検出できた部分から判断すると隅丸方形若しくは隅丸長方形が推測される。規模は西壁の長さ



第43図 SA32

6.00mを測る。長軸方位は南北方向を長軸とすればN30°Eを指す。壁高は残存部で0.24~0.28mを測り、床面は南西隅部が若干凹むがほぼ平坦を保つ。床面には北西隅部及び南西隅部に柱穴をそれぞれ1基検出した。

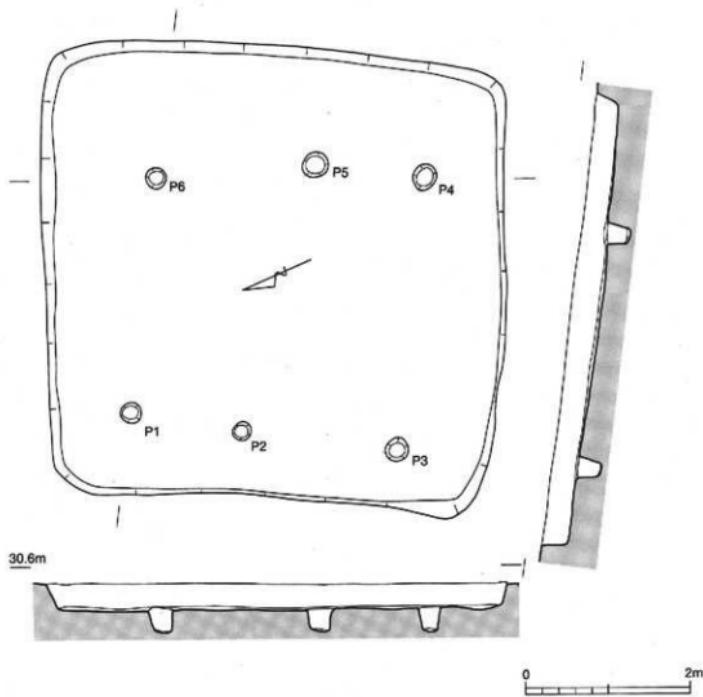
遺物は出土していない。

30号住居址（第40図）

調査区の東側北寄りに位置する。規模は長軸5.00m、短軸4.98m、床面積22.5m²と中型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈する。長軸方位はN20°Eを指す。現存壁高は0.32~0.36mを測り、床面は中央から西側にかけて緩やかに凹む。検出面からの深さは最深部で0.46mを測る。床面には6基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP1、P2、P5、P6の4本柱が想定される。

出土遺物（第42図259、260）

259は胴部が丸く膨らむ壺で、外面はタキキを施したのち撫でている。260は平底を呈する壺の底部である。底部は粘土塊を貼り付け肥厚させている。底部外面には撫付けの痕を明瞭に残している。内面刷毛目調整。



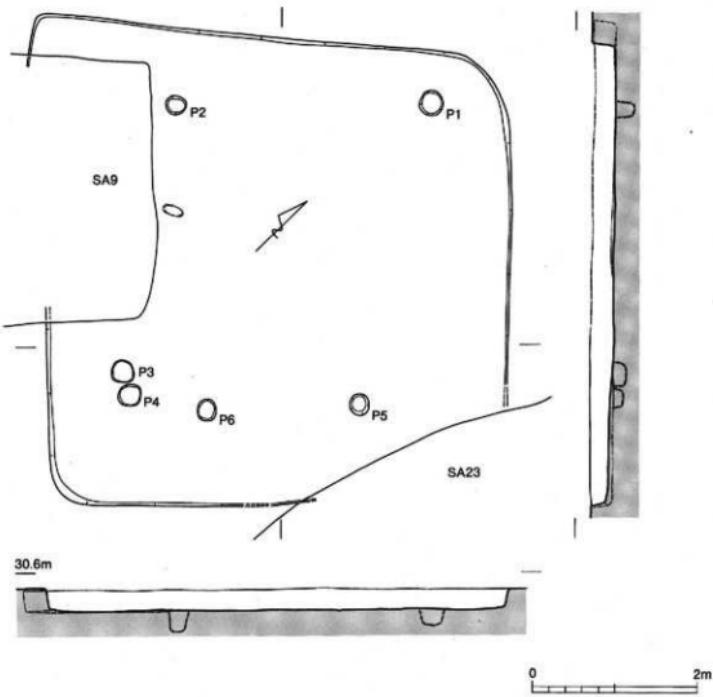
第44図 SA33

31号住居址（第41図）

調査区の中央部よりやや東寄りに位置し、北壁が32号住居址を切り、南壁が17号住居址より、また中央部やや西側が2号竪跡によって切られている。規模は長軸5.27m、短軸5.18m、推定床面積26.0m²と中型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈するものと思われる。長軸方位はN58°Wを指す。現存壁高は0.16~0.22mを測り、床面は中央部から西壁際に向かって傾斜する。床面には4基の主柱穴を検出した。

出土遺物（第42図261~269）

261は壺の口縁部で、口縁はゆるやかに外反する。外面くびれ部直下には斜方向に平行して布目押圧を器壁に施している。262は壺の胴部～底部である。胴部は球形で、底部は径の小さい平底を呈する。内外面ともに刷毛目調整。263は壺の底部で、径の小さい平底を呈する。外面刷毛目調整。264は高壺の口縁部である。受け部は小さく口縁は屈折して大きく外反する。外面にはミガキを施している。265は高壺の脚柱部で、裾部にかけてわずかに外反する。脚柱部の中位と下端にそれぞれ三方から円形透し孔

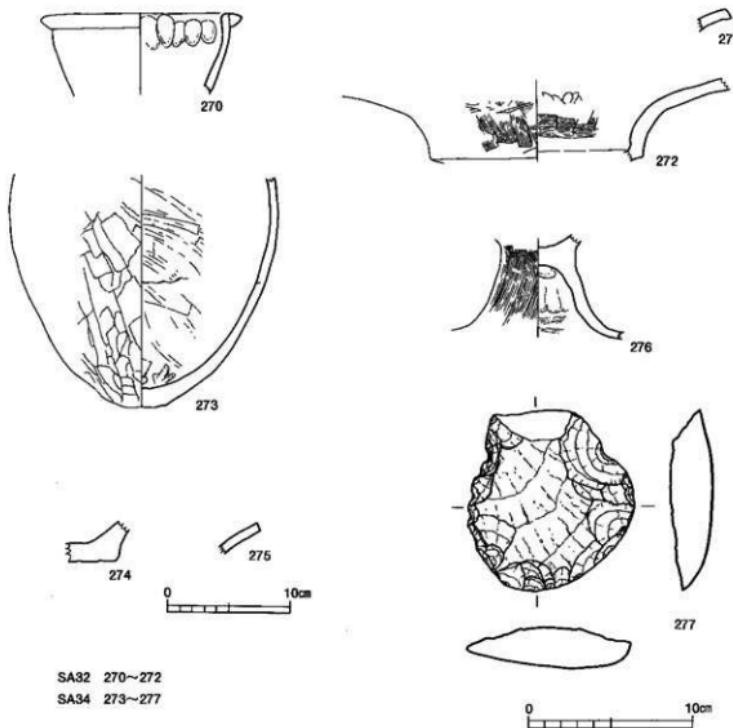


第45図 SA34

を穿つ。266は高壇の裾部で、中位に4条以上の凹線を廻らせてている。外面にはミガキを施している。267は器台の裾部で大きく開く。胴部には円形透し孔を穿つ。内外面に刷毛目を施し、外面の一部にはミガキを施している。268・269は器台の胴部である。胴部は筒型を呈し、下位には円形透し孔を穿つ。胴部外面には2条を単位とする渦巻文あるいは円文が線刻されている。調整は外面に縦方向、内面に横方向の刷毛目を施している。

32号住居址（第43図）

調査区の中央部よりやや東寄り北側に位置し、南東隅部が5号住居址に、南壁の一部が31号住居址に、北西隅部が7号住居址によりそれぞれ切られている。また、東壁の一部が6号住居址と重複するが、切合い関係は明確にできなかった。規模は推定長軸6.50m、短軸5.43m、推定床面積33.0m²と大型の住居址である。平面プランは隅丸長方形を呈するものと思われる。長軸方位はN82°Wを指す。現存壁高は0.20mを測り、床面は中央部が緩やかに凹む。検出面からの深さは最深部で0.24mを測る。床面には8基の柱穴を確認したが、床面の一部が他の住居址によって切られているため主柱穴を明確にする



第46図 SA32・34 出土遺物実測図 (277…1/3、他 1/4)

ことはできない。

出土遺物（第46図270～272）

270は鉢の口縁部で口縁外面には三角突帯を貼り付ける。突帯の接合面は明瞭である。口縁内面には口唇部に沿って全面に指頭痕を残す。器面調整は全面ナデを施している。271は高壺の口縁部で、口唇部下端をつまみだし小さく突出させている。272は高壺の口縁部である。口縁部は大きく外湾し、受け部は小さく平坦に近くなるものと思われる。外面には縦方向に刷毛目を施し上位は撫で消している。内面には横方向の刷毛目を施し上位にはミガキを施している。

33号住居址（第44図）

調査区の中央部に位置し、南壁が34号住居址及び23号住居址と隣接する。規模は長軸5.60m、短軸5.48m、床面積27.9m²と中型の住居址である。平面プランは隅丸方形を呈する。長軸方位はN24°Eを指す。現存壁高は0.28～0.32mを測り、床面はほぼ平坦を保つ。床面には6基の柱穴を確認したが、配

置状況から主柱穴はP1、P3、P4、P6の4本柱が想定される。
遺物は出土していない。

34号住居址（第45図）

調査区の中央部に位置し、東隅部が23号住居址を、南西壁の一部が9号住居址をそれぞれ切っている。規模は長軸5.66m、短軸5.58m、推定床面積31.5m²と大型の住居址である。平面プランは西隅が直角をなすが全体的に隅丸方形を呈するものと思われる。長軸方位はN42°Wを指す。現存壁高は0.24～0.30mを測り、床面はほぼ平坦を保つ。床面には6基の柱穴を確認したが、配置状況から主柱穴はP1、P2、P4、P5の4本柱が想定される。

出土遺物（第46図273～277）

273は壺の胴部～底部で、胴部は長胴で底部は丸底を呈する。外面にはケズリ状のナデを施し、内面は工具により荒く撫でている。274は壺の底部で平底を呈する。外面には刷毛目を施す。275は高壺の口縁部で内外面ともにミガキを施す。276は高壺の脚部で、脚柱部は短く裾部がなだらかに大きく開く。脚柱部外面および裾部内面に刷毛目を施している。277は砂岩製の打製石斧で、基部は欠損している。

包含層出土遺物（第47図～第56図）

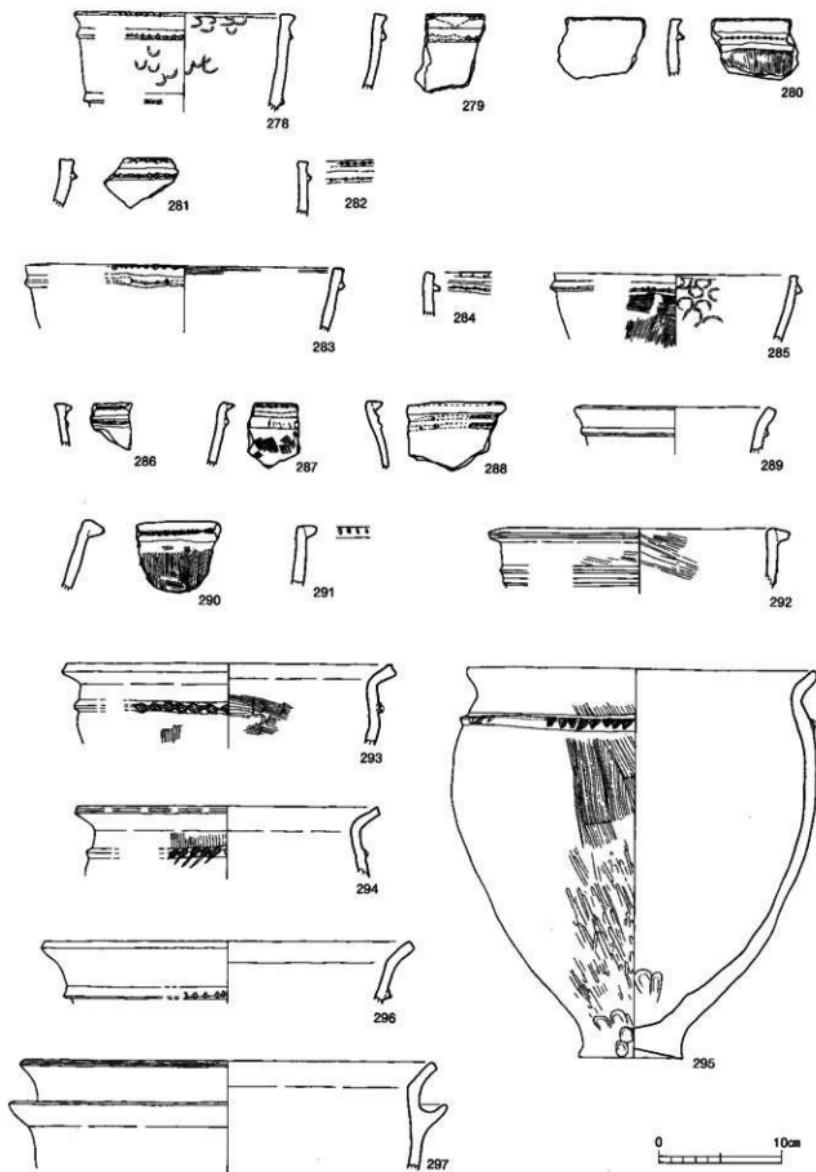
278～390は包含層出土の弥生土器および土師器である。

第47図に口縁部や胴部に突帯をもつ壺を図示した。口縁部の形態により次の4タイプに大別できる。

1. 口縁部が直口し、口縁直下に突帯をもつもの（278～285、289）。
2. 口縁外面に三角突帯を貼り付け、口縁直下に突帯を廻らせるもの（286～288）。
3. 口縁外面に突帯を貼り付け、突帯の断面を台形状に整えるもの（290～292）。
4. 口縁が「く」字形に外反し、口縁下に突帯を廻らせるもの（293～297）。

以下、タイプ別に細分を加えていく。

- 1-a 口縁外端部を摘み出して小さく突出させ刻目を施し、その直下に1条の刻目突帯を貼り付ける（278～282）。278は胴部にも貼付刻目突帯を廻らせている。
 - b 口縁外端部は突出させず、その直下に1条の刻目突帯を貼り付ける（283～285）。283・284は口縁外端部に刻目を施す。
 - c 口縁部がわずかに外反し、口縁直下に突帯を貼り付ける（289）。
- 2-a 口縁外面に三角刻目突帯を貼り付け、口縁直下に1条の刻目突帯をもつ（286、287）。
 - b 口縁外面に三角刻目突帯を貼り付け、口縁直下に2条の刻目突帯をもつ（288）。
- 3-a 口縁外面に断面が台形状を呈する貼付突帯をもち、刻目を施す（290、291）。
 - b 口縁外面に断面が台形状を呈する貼付突帯をもち、口縁下に2条の突帯をもつ（292）。
- 4-a 口縁が「く」字形に外反し、口縁下に1条の刻目突帯を廻らせる。胴部最大径は中位より上にあり、口径が胴部最大径を上回る（293）。
 - b 口縁が「く」字形に外反し、口縁下に1条の刻目突帯を廻らせる。胴部最大径は中位よりや上にあり、口径と胴部最大径はほぼ同径である（295）。



第47図 包含層出土遺物実測図 (1/4)



298



299



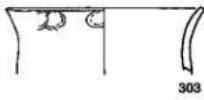
300



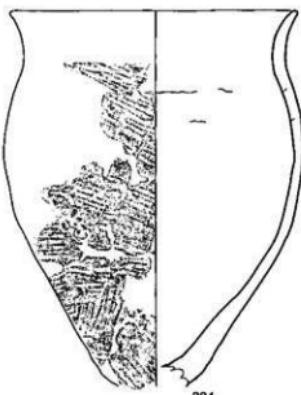
301



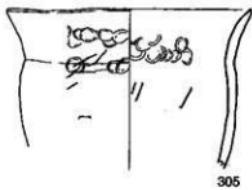
302



303



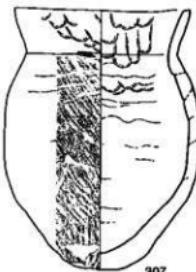
304



305



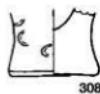
306



307



第48図 包含層出土遺物実測図 (1/4)



308



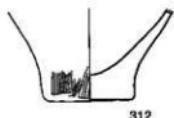
309



310



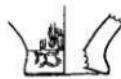
311



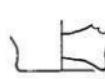
312



313



314



315



316



317



318



319



320



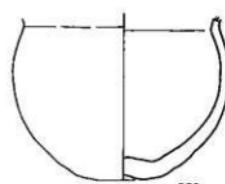
321



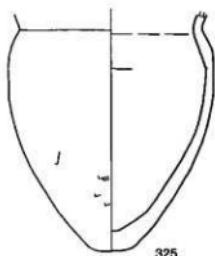
322



323



326



325



324



第49図 包含層出土遺物実測図（1/4）

c 口縁が「く」字形に外反し、口縁下に1条の刻目突帯を廻らせる。胴部最大径は口縁直下にあり、胴部に膨らみをもたない (296)。

d 口縁が「く」字形に外反し、口縁下に斜上方に大きく伸びる1条の突帯をもつ (297)。

第48図は突帯をもたない壺の一群である。口縁部形態などにより6種に分けられる。

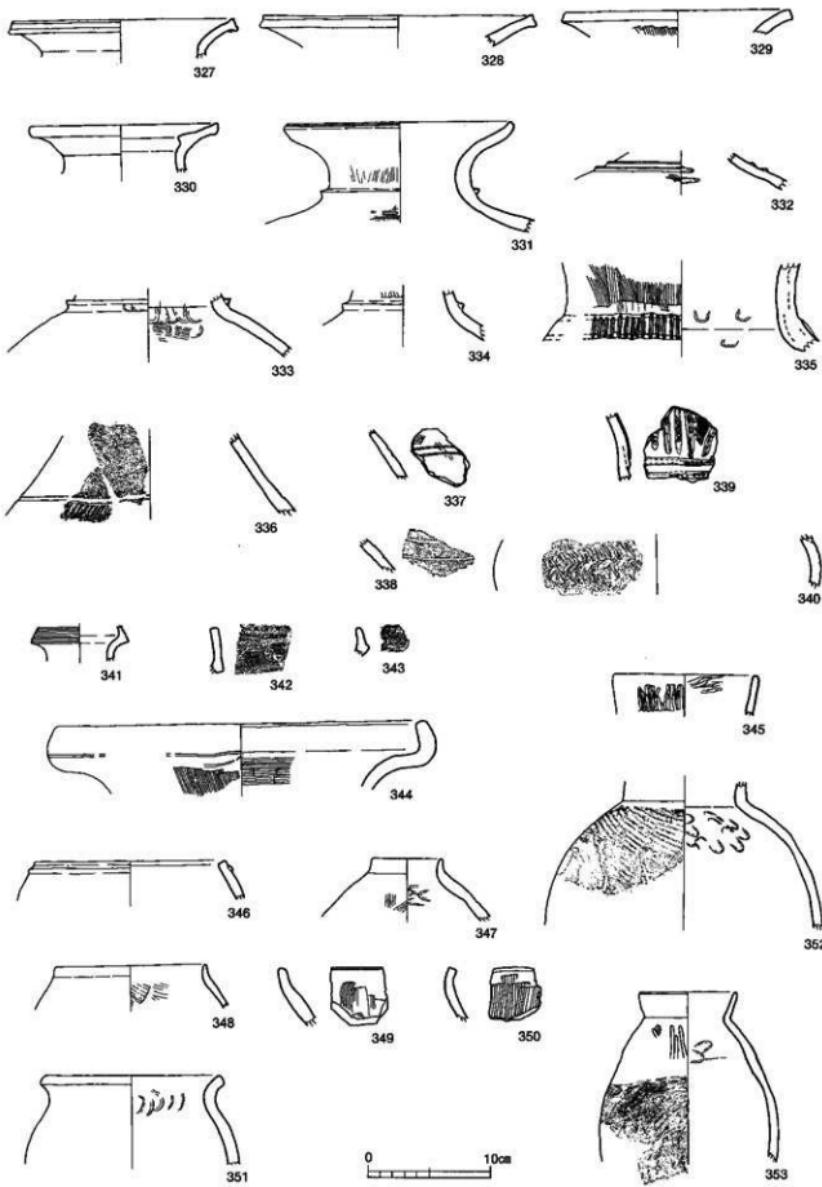
1. 口縁部が「く」字状に短く外反し、口縁端部を上下に小さく突出させ端面に3状の凹線を施すもの (298)。
2. 口縁部が「く」字状に外反し内面に稜線を形成するもので、肩は張らず最大径が口径であるもの (300)。
3. 口縁部が「く」字状に外反し内面に稜線を形成するもので、肩は張らず口径と胴部最大径がほぼ等しいもの。(301)
4. 口縁部が「く」字状に外反し内面に稜線を形成するもので、肩が張り口径と胴部最大径がほぼ等しいもの。外面には斜方向に平行タタキを施す。(302、307)
5. 口縁部が「く」字状に外反するが内面に稜線を形成せず、肩が張り口径と胴部最大径がほぼ等しいもの。外面には斜方向に平行タタキを施す。(304)
6. 口縁部がわずかに外反し内面に稜線をもたないもので、最大径が口径であるもの (303、305、306)。

第49図に壺の底部を図示した。6種類に大別できる。

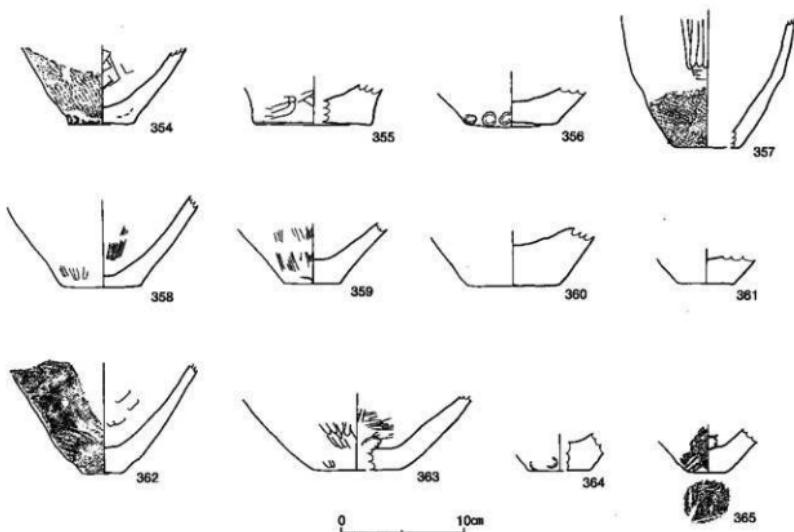
1. 中実の脚台を呈するもの (308、309)。308は端部が外反する。
2. 平底を呈するもの (310~313)。
3. 上げ底を呈し、端部が外に張り出すもの (314~317)。
4. 底部に粘土塊を貼り付け肥厚させたもの (318~321)。
5. 底部外面が外反せず、胴部に直線的につながるもの (322~325)。平底のもの (322、323) と丸底状の平底を呈するもの (324、325) がある。322~324は外面に平行タタキを施す。
6. 球形胴の壺で、底部は丸底を呈する。(326)

壺の口縁～胴部を第50図に示した。口縁部と胴部の形態により8種類に分類できる。

1. 口縁部が朝顔形に開くもの (327~331)。
327は口縁端部を上下にわずかに拡張させ口縁端面に2条の凹線を施す。328は口縁端面に浅い凹をつくる。330は口縁内面に三角突帯を貼り付ける。
2. 複合口縁のもの (341~344)。
341は内傾する拡張部に多条の凹線を施す。342・343は拡張部に構造波状文を施す。344は外面口縁接合部が丸く1条の沈線を施す。
3. 無頸のもの (346)。外面口唇部直下に1条の沈線を廻らせている。
4. 短頸のもの (345、347~351)。
直口のもの (345、347~349) と外反するもの (350、351) がある。
5. 口縁部が「く」字形に短く外反し、長胴を呈するもの (353)。
6. 頸部や肩部に突帯をもつもの (332~335、339)。
肩部に2条の突帯をもつもの (332)、頸部下位に1条の突帯をもつもの (333・334)、頸部下位



第50図 包含層出土遺物実測図 (1/4)



第51図 包含層出土遺物実測図 (1/4)

に幅広の突帯を貼り付け範状工具により刻目を施すもの (335)、胴部中位に2条以上の刻目突帯をもち肩部に多条の刻目突帯を縦方向に施すもの (339) に細分できる。

7. 肩部に沈線を施すもの (336~338、340)。

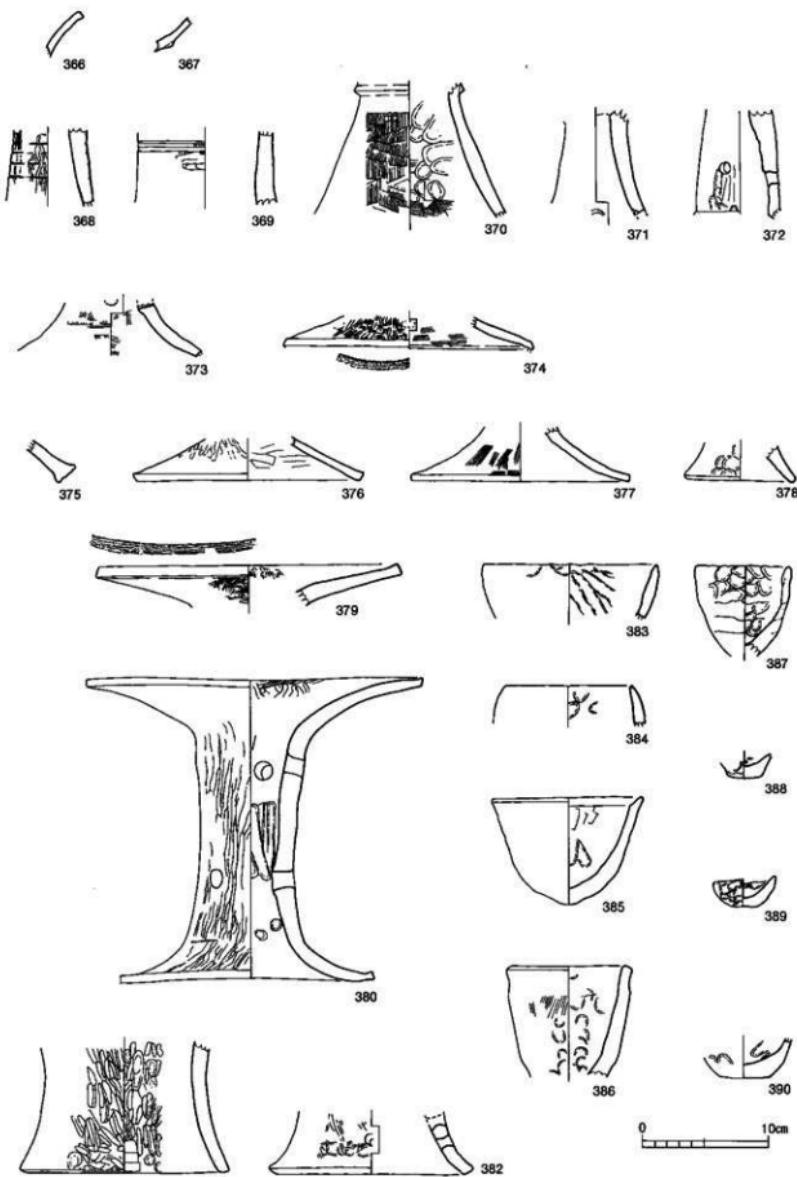
336は肩部に1条、337・338は2条の沈線を廻らせている。340は羽状文を施している。

8. 脇部が球形を呈するもの (352)。

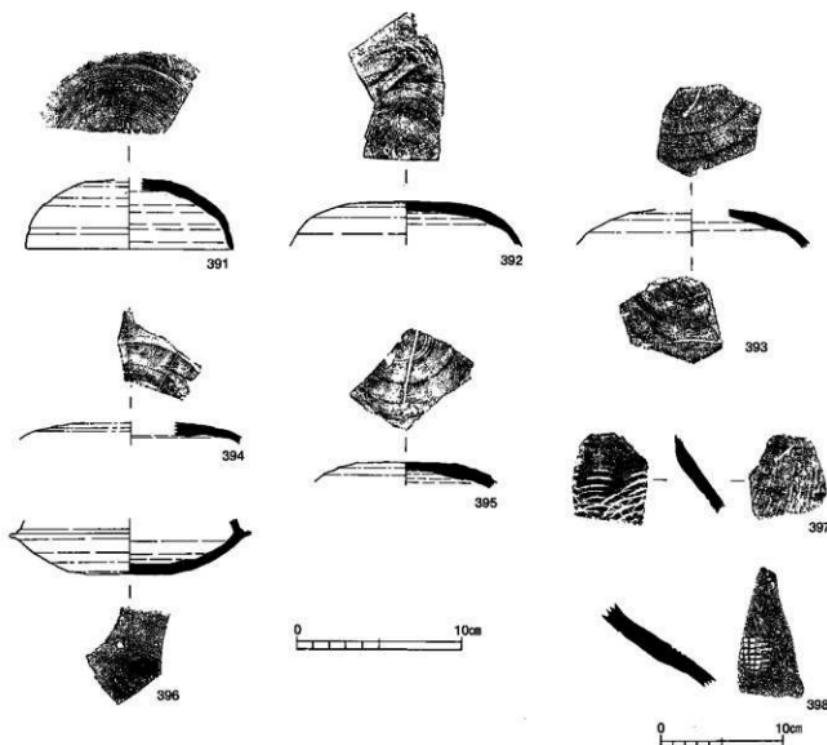
壺の底部を第51図に示した。わずかに上げ底を呈するもの (354~356) と平底のもの (357~365) に分類できる。

第52図に高坏 (366~378)、器台 (379~382)、鉢 (383~386、390)、ミニチュア土器 (387)、手捏ね土器 (388、389) を図示した。

366は大きく外湾する高坏の口縁部である。367は坏部で口縁部～受け部の境に突帯を貼り付け稜線を形成している。368~372は高坏の脚柱部である。368はミガキを施したのち4条の沈線を廻らせている。371は円形透し孔を脚柱部下位にもつ。372は脚柱部中位にもつ。373~378は裾部である。373は裾上部に円形透し孔をもつ。374は裾中位に円形透し孔をもつ。端面には竹管状工具による刺突文を連続させている。器面調整は外面にミガキ内面に刷毛目を施している。375は端部を上下に小さく突出させ、端面に3条の凹線を施している。376は裾部が直線的に大きく開く。外面にはミガキを施している。377は裾部が「ハ」字状に大きく外反する。外面には刷毛目を施している。379は口縁が大きく開く器台の受け部で、口縁端面には3条の凹線が施されている。内外面にミガキを施す。380は完形の器台である。受け部と裾部は大きく開き胴部は筒型を呈する。胴部には上下2段に四方円形透し孔を穿って



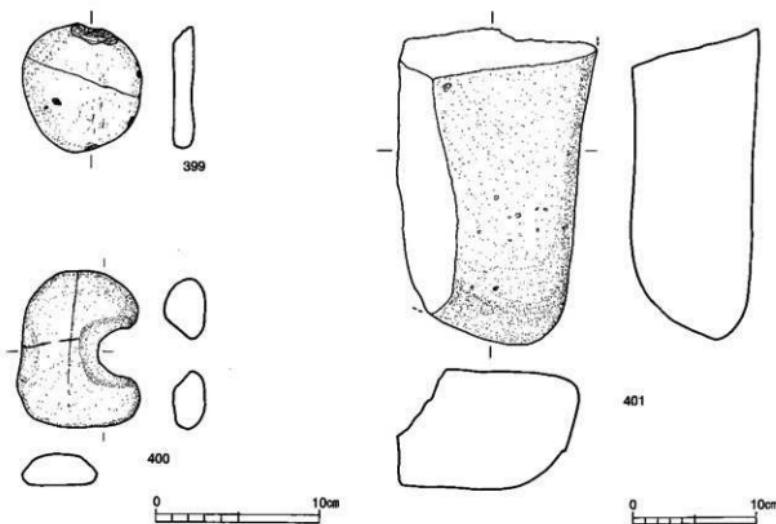
第52図 包含層出土遺物実測図 (1/4)



第53図 包含層出土遺物実測図 (391~395…1/3、397・398…1/4)

いる。外面および受け部内面にミガキを施す。381は器台の胴部～裾部で、胴部は太く裾部の外反は小さい。内外面にミガキを施している。382は胴太の器台の裾部で、裾部はゆるやかに外反する。裾部中位に円形透し孔をもつ。383・384は鉢の口縁部である。383は口縁が外傾し内面には指ナデの痕を明瞭に残す。384は口縁が内湾し、口唇部は舌状を呈する。口縁部外面には浅い櫛描波状文を施している。385は完形の鉢で、口縁部は外傾し口唇部内面には面取りが施されている。387は鉢型のミニチュア土器で、粘土の接合痕および指頭痕が明瞭に残っている。

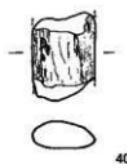
須恵器は第53図に8点図示した。391～395は壺蓋である。391は天井部が丸く天井部と口縁部との境に稜線をもたず、口縁端部は丸く仕上げられている。天井部外面全体にヘラケズリが施されている。また、天井部外面には弧状にヘラ記号が線刻されている。推定口径12.7cmを測る。392は天井部が平坦で天井部と口縁部との境に稜線をもたない。天井部外面全体にヘラケズリが施されており、天井部外面には391と同様弧状にヘラ記号が線刻されている。393は天井部と口縁部との境に稜線をもたず、天井部外面にヘラケズリが施されている。天井部の内外両面に直線状のヘラ記号が線刻されている。394・395は



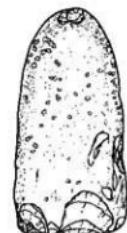
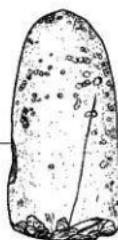
第54図 包含層出土遺物実測図 (399・400…1/3、401…1/4)

壊蓋の天井部とともに天井は平坦である。394は天井部外面に直線状のヘラ記号が2条細線で施されている。395は直線状のヘラ記号が1条線刻されている。396は壊身でたちあがりは内傾する。底部にはヘラ削りを施す。底部外面には直線状のヘラ記号を線刻している。受け部径14.8cmを測る。397・398は壺の肩部である。ともに外面には格子目タタキを施し、397の内面には同心円当具痕が残っている。

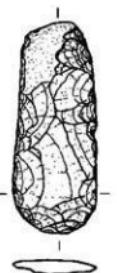
石器を第54図～第56図に示した。399は砂岩製の石錘で、縁辺部に抉りをもつ。400は砂岩製の性格不明の石器であるが、石錘の可能性も考えられる。片方の側縁部に大きな抉りを入れ馬蹄形を呈する。401は砂岩製の台石である。402は小型の磨製石斧で基部と刃部は欠損している。403砂岩製の磨製石斧である。刃部には使用痕が明瞭に残っている。404は砂岩製の打製石斧で、側縁部と刃部には表裏両面からの調整が明瞭である。405は砂岩製の円盤状石器である。自然面は生かし縁辺部に剥離面から調整を施している。406は砂岩製の扁平な石鉛である。407～411は砂岩製の有肩打製石斧である。土掘具としての機能が想定される。すべて基部付近に両側縁部から抉りをいれている。自然面の調整は抉り部と刃部の一部のみに施している。刃部の平面形態と抉りの位置および形態により3タイプに分類できる。407・408は浅い抉りを基部にもち刃部は丸い。410・411は基部に深い抉りをもつ。刃部は両側縁部に調整を施し三角形に整形している。411は深い抉りを側縁部の中央にもち、刃部は横長の梢円形を呈する。412～415は砂岩製の砥石である。414は両面に砥面をもち、裏面には敲打痕を残している。



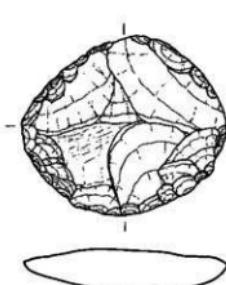
402



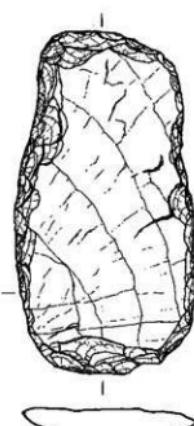
403



404



405



406



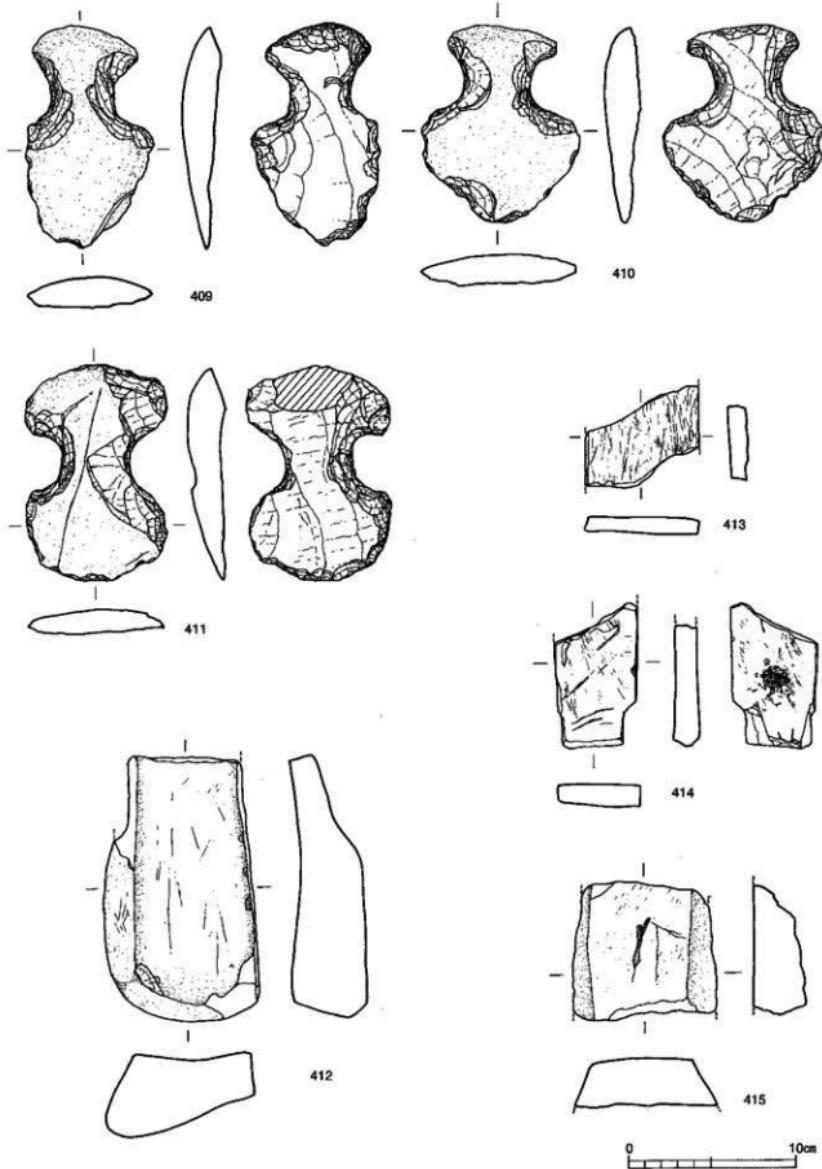
407



408

0 10cm

第 55 図 包含層出土遺物実測図 (1/3)



第56図 包含層出土遺物実測図 (1/3)

第4節 近世・近代の遺構と遺物

調査区の東端と西側で掘立柱建物跡13棟、竪跡4基、石積土坑1基、土坑7基を検出した。遺構内出土遺物は、竪跡から陶器、磁器、銅製品（鍵）、石積土坑から磁器、土坑から台石のほか獸骨が確認されている。遺物包含層からはそのほか青磁、瓦質土器（火鉢）、素焼土器（焙烙）、炻器（摺鉢）、鉄製品（釘）、銅製品（キセル）、貨錢が出土している。

1号掘立柱建物（第57図）

調査区の東端北寄りに位置し、30号住居址を切っている。構造は桁行3間梁行2間の東西棟で、規模は桁行5.80～6.00m、柱間1.70～2.20m、梁行2.85～2.95m、柱間1.35～1.50mを測る。棟方位はN70°Wを指す。柱穴の掘形は北側柱の東から第1、第3、第4柱、南側柱の東から第4柱及び西側の棟持柱が径0.3～0.6mの円形若しくは楕円形を呈するほかは、掘形が崩れていたり他の柱穴と重複するなどして判然としない。柱痕跡は確認できなかったが、柱根の径は南側柱の東より第4柱の掘形から0.10～0.12mと推定される。

遺構に伴う遺物の出土はない。

2号掘立柱建物（第57図）

調査区の東端中央部に位置し、11号住居址及び29号住居址を切っている。構造は桁行2間梁行1間の東西棟であるが、東西の梁行柱列が若干平行を欠いており、明確な規格性は認められない。規模は桁行3.80～3.90mで、北側柱間は東から2.10m、1.80m、南側柱間は東から2.10m、1.70m、梁行3.00mを測る。棟方位はN60°Wを指す。柱穴の掘形は北側柱が径0.24～0.34mの円形、南側柱が長軸0.42～0.50mの楕円形を呈する。

共伴する遺物は出土していない。

3号掘立柱建物（第58図）

調査区の東端中央部より南側に位置し、12号住居址を切り、石積土坑と重複する。構造は桁行1間梁行1間の東西棟の南側に出1間の廂を付設する2間×1間の片面廂構造をとるものと思われる。規模は身舎部分が桁行柱間3.50m、東側梁行柱間2.90m、西側梁行柱間2.40m、廂部分が桁行柱間3.50m、東側梁行柱間1.50m、西側梁行柱間1.80mを測る。棟方位はN65°Wを指す。柱穴の掘形は身舎部分が0.36～0.48mの円形で、廂部分は現存する形状から、0.40m前後の円形若しくは楕円形を呈するものと思われる。

遺構に共伴する遺物は出土していないが、埋土の状況から重複する石積土坑と同時期のものと思われ、位置関係から石積土坑の上屋の可能性が考えられる。

4号掘立柱建物（第58図）

調査区の東側中央部に位置し、2号住居址、11号住居址及び17号住居址を切っている。構造は桁行4間梁行2間の総柱建物で南北棟である。規模は桁行8.60mで、東側柱間は北から2.40m、2.00m、2.50m、1.70m、中央柱間は北から2.40m、2.00m、2.30m、1.90m、西側柱間は北から2.25m、

2.20m、2.45m、1.70mと桁行柱間は南端1間が他に比べやや狭い。梁行は3.86mで、柱間は全てほぼ等しく1.93mを測る。棟方位はN27°Eを指す。柱穴の掘形は径0.40~0.50mの円形若しくは長軸0.50~0.70mの梢円形を呈する。

共伴する遺物は出土していない。

5号掘立柱建物（第59図）

調査区の東側南寄りに位置し、1号竪跡と重複する。構造は桁行2間梁行1間の東西棟である。規模は桁行2.70~2.80m、北側柱間は東から1.20m、1.50m、南側柱間は東から1.20m、1.60m、梁行2.50mを測る。棟方位はN63°Wを指す。柱穴の掘形は北側柱が径0.24~0.34mの円形、南側柱が長軸0.42~0.50mの梢円形を呈する。

共伴する遺物は出土していないが、埋土の状況から重複する1号竪跡と時期が重なるものと思われ、位置関係から竪小屋の可能性が考えられる。

6号掘立柱建物（第59図）

調査区のやや東側北寄りに位置し、31号住居址を切り、2号竪跡と重複する。構造は桁行1間梁行1間の南北棟である。規模は桁行2.12m、梁行1.60mを測る。棟方位はN16°Eを指す。柱穴の掘形は東側柱の北から第2柱が長軸0.34m、西側柱の北から第1柱が長軸0.43mと共に不整梢円形であり、西側柱の北から第2柱が径0.27mの円形を呈する。東側柱の北から第1柱は径0.40m前後の円形若しくは梢円形を呈するものと思われる。

共伴する遺物は出土していないが、埋土の状況から重複する2号竪跡と同時期のものと思われ、5号掘立柱建物より小規模の竪小屋と考えられる。

7号掘立柱建物（第60図）

調査区の中央部に位置する、桁行2間梁行1間の東西棟の建物である。規模は桁行4.50m、柱間2.25m、梁行2.80mを測る。棟方位はN64°Wを指す。柱穴の掘形は南北側柱の西端が共に径0.30mの円形で、他は南側柱の中央を除き長径0.34~0.44mの梢円形を呈する。南側柱の中央は長軸0.74m、幅0.22mの長梢円形である。他の柱穴との重複も考えられるが、切り合い関係は確認できなかった。また、根固め石を北側柱西端の柱穴に6個、南側柱西端の柱穴に1個据えている。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

8号掘立柱建物（第60図）

調査区の中央よりやや西側北寄りに位置し、25号住居址、26号住居址及び27号住居址を切っている。桁行4間梁行2間の総柱建物で東西棟である。なお、北側柱の東から第3柱及び中央柱の東から第2柱は試掘坑により切られている。規模は桁行8.40mで、北側柱間は東から1間目が1.90m、4間目が2.45m、中央柱間は東から3間目が1.75m、4間目が2.50m、南側柱間は東から2.00m、1.90m、2.00m、2.50mと桁行柱間は西端1間が他に比べ広い。桁行の中央柱通りは一直線には並ばず、緩やかに南寄りに湾曲する。梁行は4.55mで、柱間は北側から1間目が2.35~2.55m、2間目が2.00~2.20m

を測る。棟方位はN71° Wを指す。柱穴の掘形は大半が径0.30~0.40mの円形を呈する。柱根の固定方法として北側柱列の東から第4柱、中央柱列の東から第1、第3柱、南側柱列の東から第1柱にそれぞれ1個、南側柱列の東から第3柱、第4柱にそれぞれ2個の根固め石を用いている。

遺物は共伴していない。

9号掘立柱建物（第61図）

調査区の中央部南端に位置し、15号住居址、16号住居址及び3号竪跡を切っている。桁行6間梁行1間の長棟構造であるが桁行と梁行は直交しない。棟方位はN61° Wの東西棟である。北側柱の東から第2、第4、第5柱は確認できなかった。建物の規模は桁行13.85~14.30mで、北側柱の西端柱間が3.10m、南側柱は東から2.20m、2.65m、2.30m、2.20m、2.05m、2.45mを測る。梁行は2.20~2.35mである。柱穴の掘形は長軸を桁方向と同じくする長辺0.30~0.40m、短辺0.15~0.25mの隅丸長方形又は同規模の楕円形がほとんどであるが、北側柱の東から第3柱は径0.40mの円形であり、南側柱の東から第4柱は主軸を南北方向にとる一辺0.45~0.50mの不整形、南側柱の西端柱は径0.30m前後のいびつな円形をそれぞれ呈する。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

10号掘立柱建物（第61図）

調査区の中央部南端に位置し、9号掘立柱建物と重複する。構造は9号掘立柱建物と同様桁行6間梁行1間の長棟構造である。棟方位もN60° Wの東西棟で9号掘立柱建物とはほぼ同方位である。なお北側柱の東から第4柱は確認できなかった。建物の規模は桁行13.90~13.95mで、北側柱は東から1間目と2間目は共に2.60m、5間目は2.30m、6間目は2.25mを測り、南側柱は東から2.30m、2.80m、2.20m、2.25m、2.20m、2.20mを測る。梁行は2.20mである。柱穴の掘形も9号掘立柱建物と同様長軸を桁方向と同じくする長辺0.26~0.38m、短辺0.15~0.25mの隅丸長方形がほとんどである。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

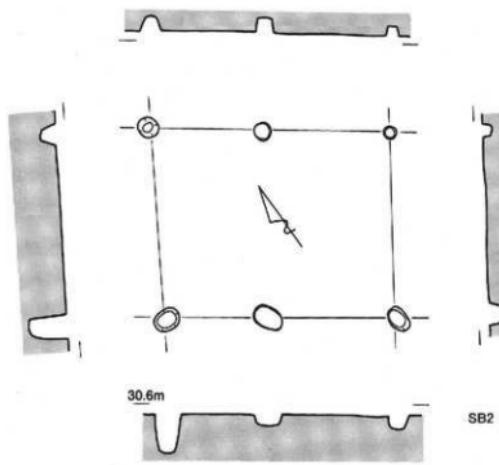
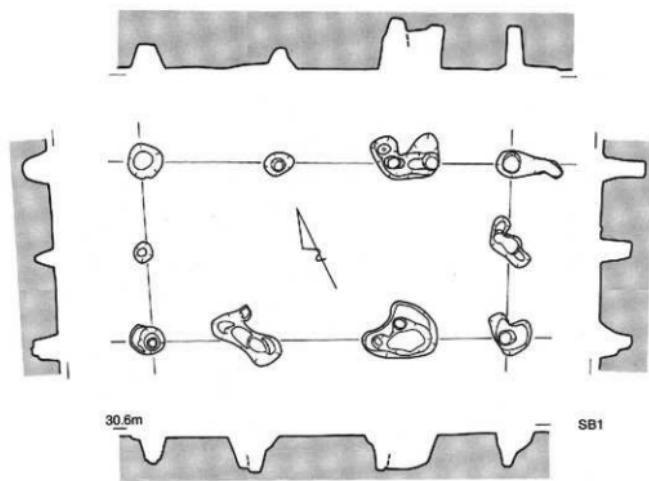
11号掘立柱建物（第62図）

調査区の中央よりやや西側に位置し、16号住居址、24号住居址及び25号住居址を切っている。構造は桁行3間梁行1間の南北棟である。規模は桁行6.25mで、柱間は東西側柱共に北から1.90m、2.10m、2.25mを測る。梁行は2.50~2.75mを測る。棟方位はN20° Eを指す。柱穴の掘形は東側柱の北から第3柱が長軸0.43mの楕円形であるほかは径0.25~0.36mの円形を呈する。また、西側柱列の北から第1柱と東側柱列の北から第2柱にそれぞれ2個、西側柱列の北から第3柱には1個の根固め石を用いている。柱痕跡は確認できなかったが、柱根の径は西側柱の北より第2柱の掘形から0.10~0.12mと推定される。

遺構に伴う遺物の出土はない。

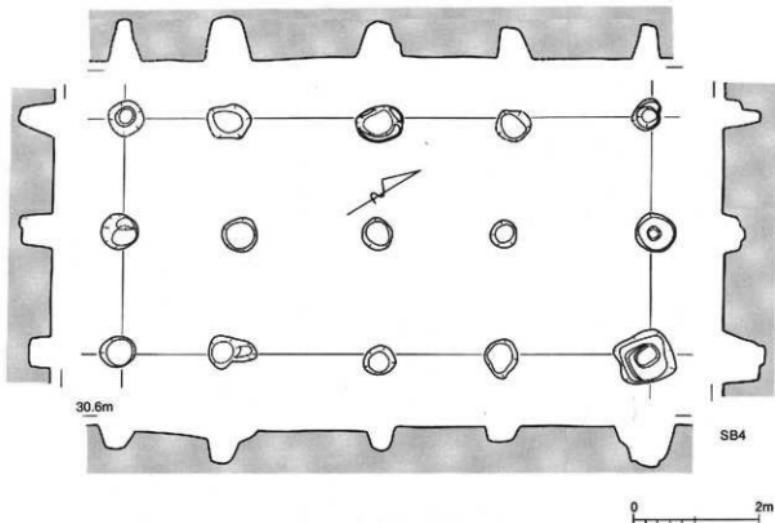
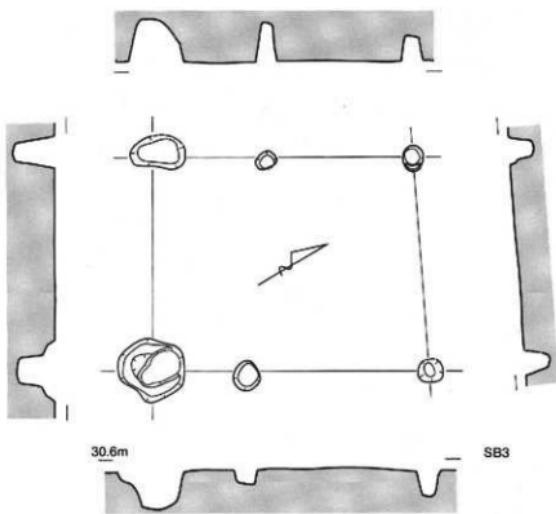
12号掘立柱建物（第63図）

調査区の西側に位置し、13号掘立柱建物と重複する。構造は桁行3間梁行2間の総柱建物である。棟

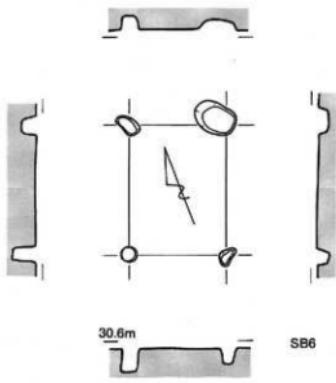
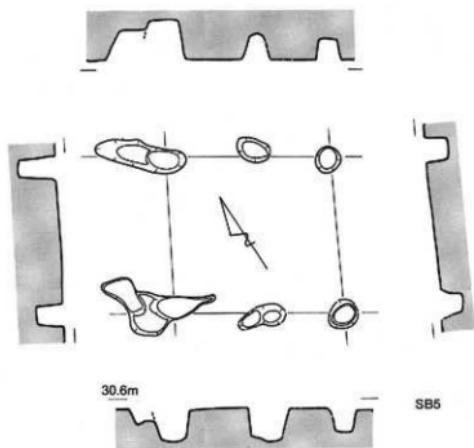


0 2m

第57図 SB1・2 (1/80)

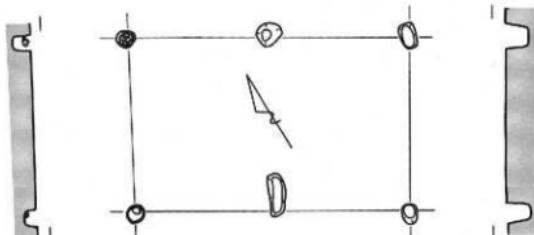


第58図 SB3・4 (1/80)

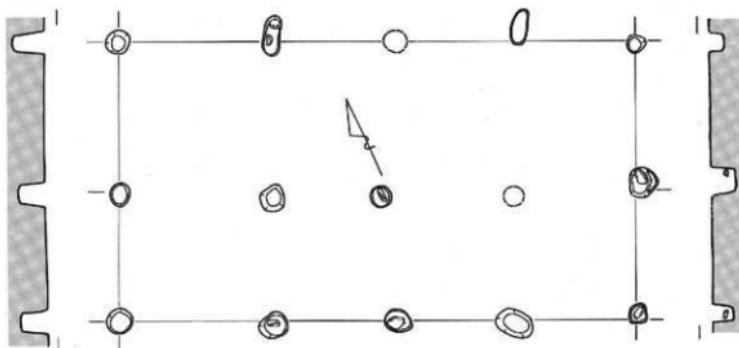


0 2m

第59図 SB5・6 (1/80)



SB7



30.6m



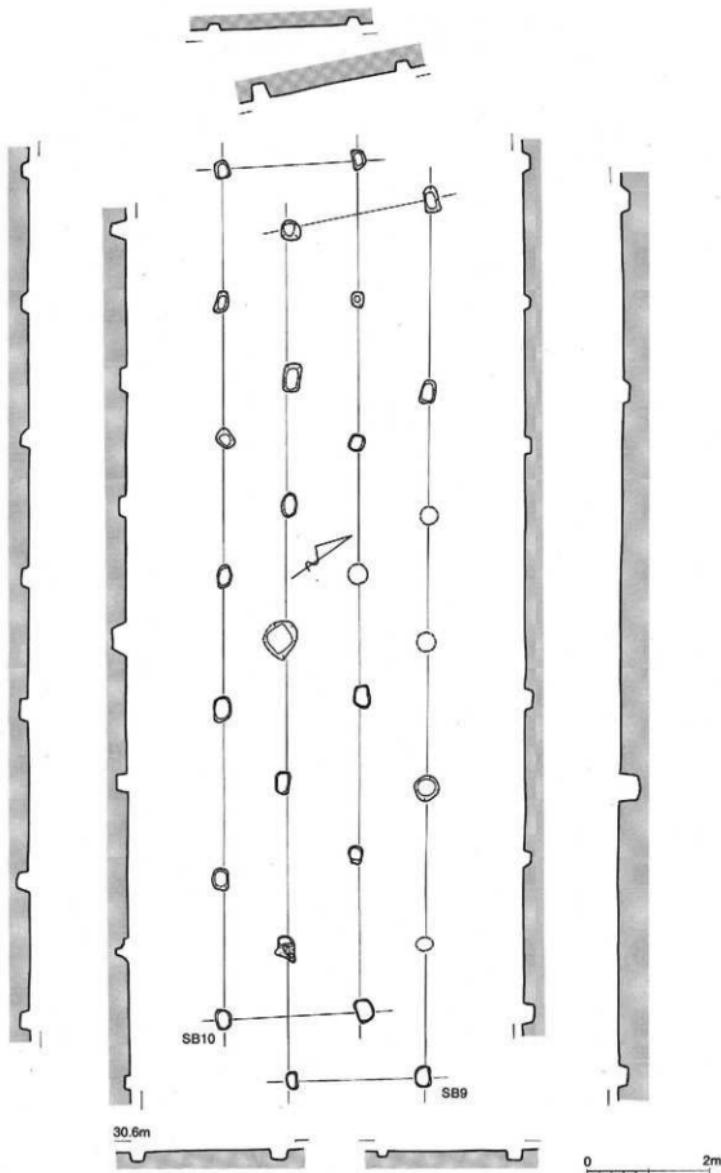
SB8

30.6m

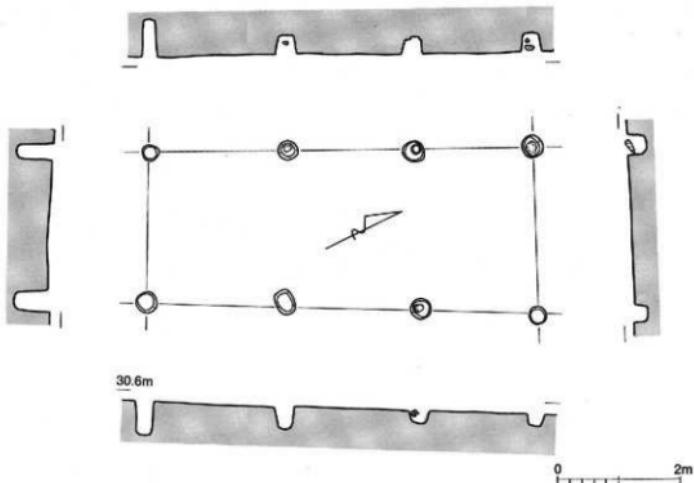


0 2m

第 60 図 SB7・8 (1/80)



第61図 SB9 + 10 (1/80)



第62図 SB11 (1/80)

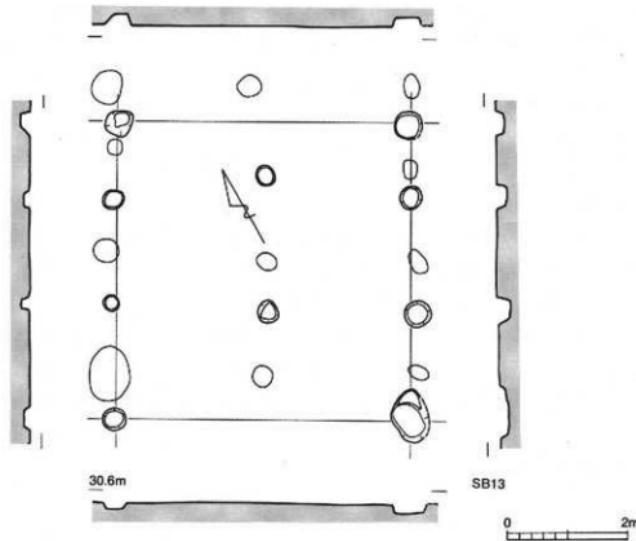
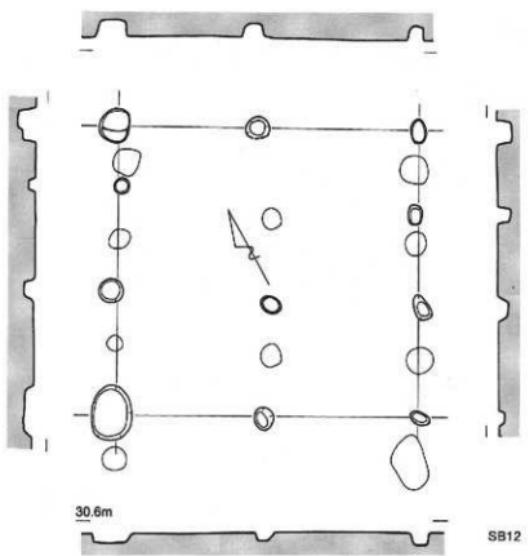
方位はN23°Eの南北棟である。なお中央柱の北から第2柱は確認できなかった。建物の規模は桁行4.65mで、東側柱は北から1.35m、1.50m、1.80m、中央柱は北から3間目が1.85m、西側柱は北から1.00m、1.70m、1.95mを測る。梁行は5.00mである。柱間は西側から1間目が2.35~2.50m、2間目が2.50~2.65mを測る。柱穴の掘形は大半が径0.25~0.40mの円形若しくは長軸0.35~0.45mの梢円形を呈する。西側柱列の北から第1柱は長軸0.55mの梢円形を呈し、掘形の北側を深めに段堀りしている。西側柱列の北から第4柱は長軸0.90mの梢円形を呈する。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

13号掘立柱建物（第63図）

調査区の西側に位置し、12号掘立柱建物と重複する。建替えの可能性が考えられる。構造は桁行3間梁行2間の総柱建物である。棟方位はN23°Eの南北棟である。なお中央柱の北から第1柱及び第4柱は確認できなかった。建物の規模は桁行4.85mで、東側柱は北から1.25m、1.85m、1.75m、中央柱は北から2間目が2.20m、西側柱は北から1.25m、1.70m、1.90mを測る。梁行は4.80mである。柱間は西側から1間目が2.40~2.50m、2間目が2.30~2.40mを測る。柱穴の掘形は大半が径0.25~0.40mの円形を呈する。東側柱列の北から第4柱は長軸0.80mの梢円形を呈し、掘形の南側を深めに段堀りしている。

遺構に伴う遺物の出土はない。



第63図 SB12・13 (1/80)

1号竈（第64図）

調査区の南東部に位置し、5号掘立柱建物と重複する。平面プランは円形の竈部の南東側に不整椭円形の焚口部が連結する。主軸方位はN57°Wを指す。竈部は粘土で造られており、半球形状を呈する。竈内部は筒型を呈し、焚口付近には椭円形の掘込みをもつ。竈の焚口側は「U」字形に崩れている。竈内壁及び底部は受熱により暗赤化しており、底部には2mm程度の炭化物がまばらに混入している。焚口部はほぼ垂直に掘り込まれ、焚口付近の壁面は断面「U」字形に浅く削られている。焚口部の床面中央及び南西側壁面寄りには粘土塊を検出している。規模は竈部が外径1.10m前後、検出面からの竈内部の深さ約0.80m、竈内部の椭円形掘込みの長軸0.40m、短軸0.30m、竈底面からの深さ0.05m、竈の側壁厚0.06~0.16m、底部最大厚0.24mを測る。焚口部は長軸1.70m、短軸1.50m、検出面からの深さ0.50mを測る。

出土遺物（第67図416）

遺物は竈部から陶器の鉢が1点出土している。小代焼の可能性がある。18世紀から19世紀中頃にかけて生産されたものである。

2号竈（第64図）

調査区の中央よりやや東寄りに位置し、6号掘立柱建物と重複する。主軸はN5°Eを指す。構造は不整椭円形の堀形の中央に粘土で形成された円形の竈を設置している。竈部の断面形は筒型を呈し、側壁は内傾し底面はゆるやかに凹む。また、底部の粘土の厚さは中央部が薄く、側壁に近付くほど厚みを増す。竈の内底面は一部受熱により暗赤化している。竈の内部には10~50cmの礫が密に詰まっており、礫の一部が竈の側壁の北側半分を壊している。規模は竈部が外径1.30m前後、検出面から竈内底面までの最深部の深さ0.65m、竈の側壁厚0.05~0.15m、底部厚0.03~0.08mを測る。堀形は長軸2.15m、短軸1.60mを測る。

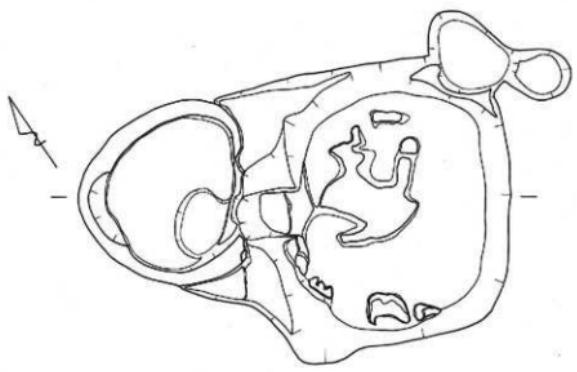
出土遺物（第67図417~424）

遺物は縄間及び竈内底面付近から磁器7点、鍵1点が出土した。

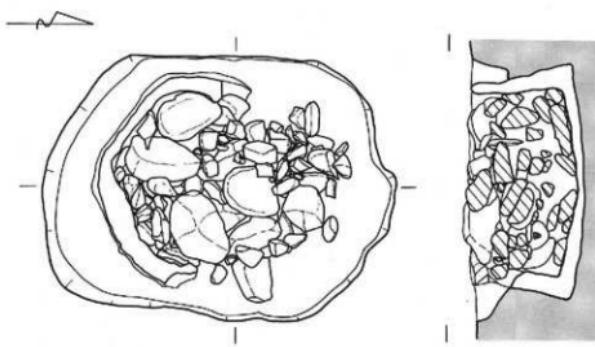
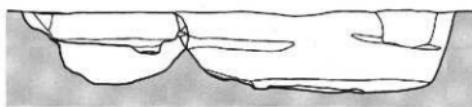
417は肥前染付皿で、輪花口縁を呈し高台部は蛇ノ目凹形高台である。外面に唐草文、内面の区画内に梅文、見込みに五弁花文を描いている。18世紀中頃から18世紀後半にかけての製品である。418は肥前系の染付碗で、外面に丸文、見込みにコンニャク印判による五弁花文を施している。見込みには蛇ノ目釉刺ぎを行なっている。18世紀後半~19世紀初頭。419は肥前染付碗で、外面に丸文、見込みにコンニャク印判による五弁花文を施し、見込みには蛇ノ目釉刺ぎを行なっている。内面に二次的被熱の痕がみられる。18世紀後半~19世紀初頭。420は肥前染付の端反碗で、外面には区画内に草文や山文、見込みには「寿」字が施されている。19世紀前半。421は肥前系染付碗で、外面に丸文を施し、見込みに蛇ノ目釉刺ぎを行なっている。18世紀後半~19世紀初頭。422は肥前染付の端反碗である。見込みに蛇ノ目釉刺ぎを行なっている。19世紀前半。423は関西系磁器の徳利で、外面には透明釉が施されている。18世紀末~19世紀前半。424は銅製の鍵である。

3号竈（第65図）

調査区の中央よりやや西側南隅に位置する。主軸はN5°Wを指す。隅丸長方形の堀形の北側に粘土

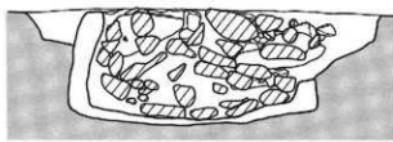


SJ1



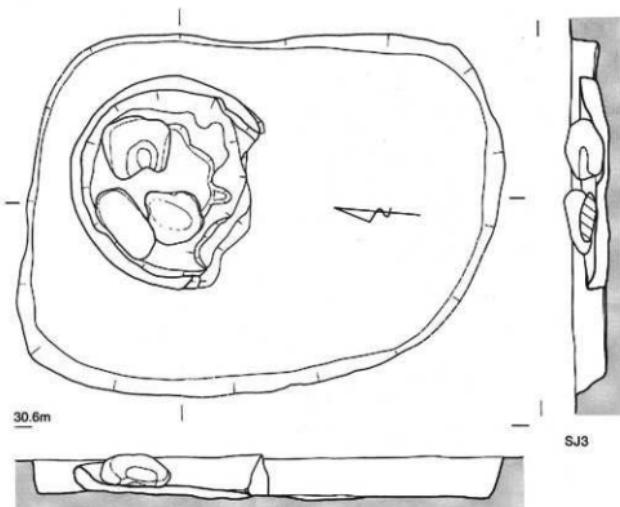
30.6m

SJ2

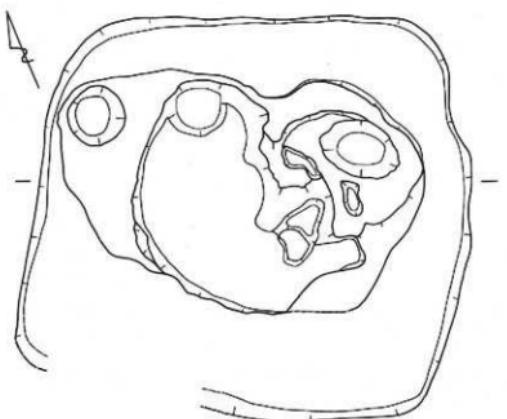


0 1m

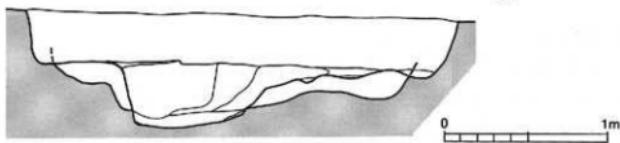
第64図 SJ1・2 (1/30)



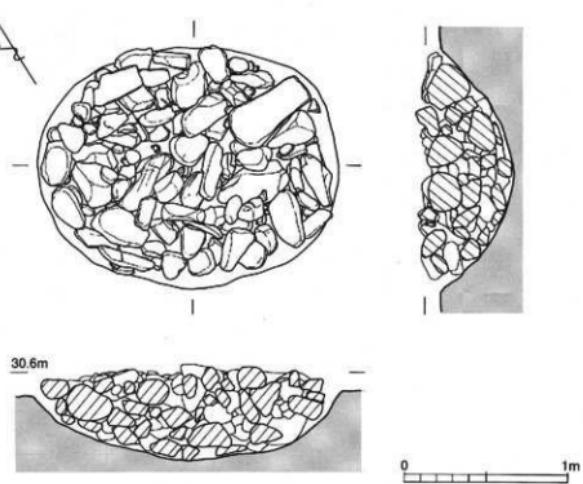
SJ3



SJ4



第65図 SJ3・4 (1/30)



第66図 石積土坑

により形成された円形の竈を設置している。竈部の断面形は中央部がわずかに凹む皿型を呈し、竈の南側約3分の1が崩れている。竈の内部には30~50cmの円碟を3個検出した。規模は竈部が外径1.30m前後、検出面から竈内底面までの深さ0.20m、竈の底部厚0.04~0.12mを測る。堀形は長軸2.85m、短軸2.15mを測る。

遺構に伴する遺物は出土していない。

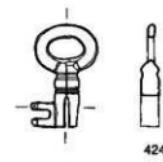
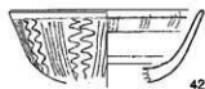
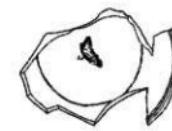
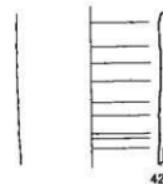
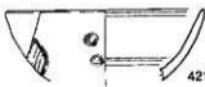
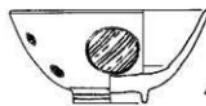
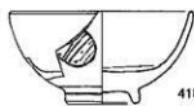
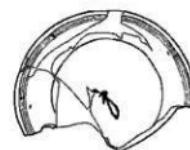
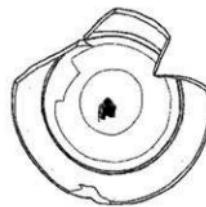
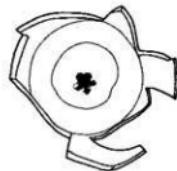
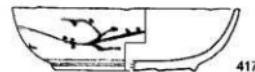
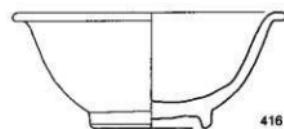
4号竈（第65図）

調査区の南東隅に位置し、13号竪穴住居跡に掘り込まれている。主軸はN48°Wを指す。竈部は粘土により形成されている。平面プランは整格円形を呈し、中央に半円形の堀込みをもつ。堀込みは西側の円形部がほぼ垂直で、東側は斜めに掘り込まれている。堀込みの内部は一部受熱により暗赤化している。竈の北側は3基の柱穴が穿たれている。竈の規模は長軸2.25m、短軸1.45mを測り、半円形の堀込みの半径は0.80m、検出面からの深さは最深部で0.40mを測る。

遺構に伴う遺物は出土していない。

石積土坑（第66図）

調査区の東端に位置する。3号掘立柱建物と重複し、12号竪穴住居跡に掘り込まれている。主軸はN58°Wを指す。土坑は平面格円形で、堀形は摺り鉢状にゆるやかに掘り込まれている。規模は長軸1.85m、短軸1.45m、検出面からの深さは最深部で0.45mを測る。堀込みの中には10cm以下の小さな割石や20~40cmの円碟が密に詰まっており、上面には長辺52cmの大きな礫も入れ込まれている。



SJ1 416
SJ2 417~424
石積土坑 425

0 5cm 0 10cm

第67図 SJ1・2 石積土坑出土遺物実測図 (424~1/2、他1/3)

出土遺物（第67図425）

遺物は疊間に磁器が1点出土した。肥前系染付の広東碗で外面に筆文、見込みに岩波文を描いている。発色は良くない。18世紀末～19世紀前半の製品である。

1号土坑（第68図）

調査区の東端に位置し、12号竪穴住居跡の北東壁面に掘り込んでいる。主軸方位はN32° Eを指す。平面形は隅丸長方形を呈する。掘形は壁面をほぼ垂直に掘り込み、底面は中央部をゆるやかに凹ませている。底面からは頭部を北に向けた牛の骨を検出した。土坑の規模は推定長軸1.50m、短軸0.98m、検出面からの深さは最深部で0.50mを測る。

遺骨以外に遺物は出土していない。

2号土坑（第68図）

調査区の東端に位置し、12号竪穴住居跡の北西壁面に掘り込んでいる。主軸方位はN31° Eを指す。平面形は隅丸長方形を呈する。壁面をほぼ垂直に掘り込み、底面は中央部をわずかに凹ませている。底面からは1号土坑と同様に牛の骨を検出した。土坑の規模は長軸1.80m、短軸1.04m、検出面からの深さは最深部で0.45mを測る。

遺物は獸骨の他は出土していない。

3号土坑（第68図）

調査区の南東部に位置し、13号竪穴住居跡の南西壁面に掘り込んでいる。主軸方位はN58° Wを指す。平面形は長方形を呈するが、南西側の長辺は「S」字形にゆるやかに湾曲している。掘形は壁面をほぼ垂直に掘り込み、底面は平坦に成形している。南東側の壁面付近で牛の歯を検出した。土坑の規模は長辺1.36m、短辺の最大幅0.82m、短辺の最小幅0.65m、検出面からの深さ0.28mを測る。

遺物は獸骨以外に出土していない。

4号土坑（第68図）

調査区の中央部やや南寄りに位置し、22号竪穴住居跡の北東壁面に掘り込んでいる。平面形は円形を呈する。壁面は摺り鉢状に斜めに掘り込まれ、底面は平坦に成形されている。規模は径1.00m、検出面からの深さ0.56mを測る。

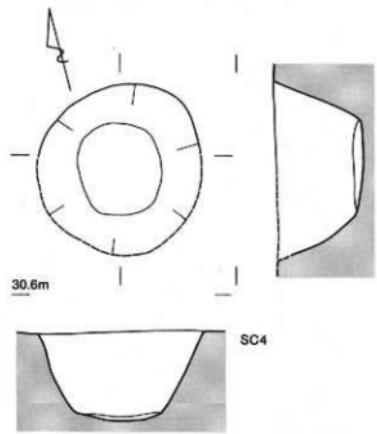
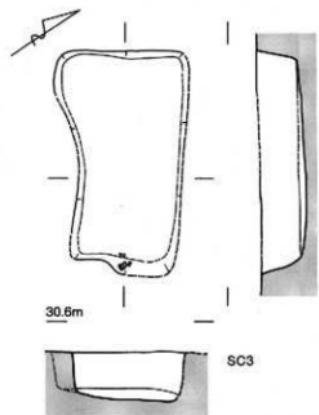
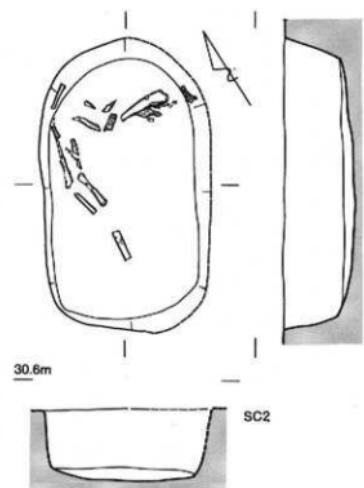
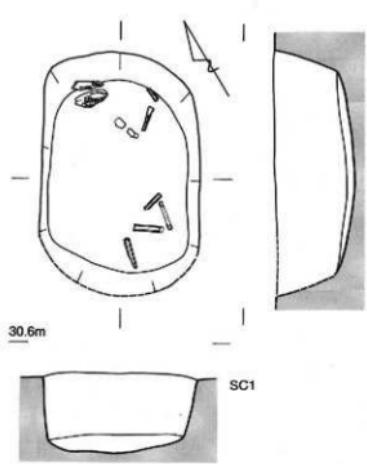
遺構に共伴する遺物は出土していない。

5号土坑（第69図）

調査区の中央部南端に位置する。主軸方位はN75° Wを指す。平面形は長楕円形を呈する。壁面はほぼ垂直に掘り込まれ、底面は平坦面を形成する。規模は長軸1.72m、短軸0.66m、検出面からの深さ0.34mを測る。

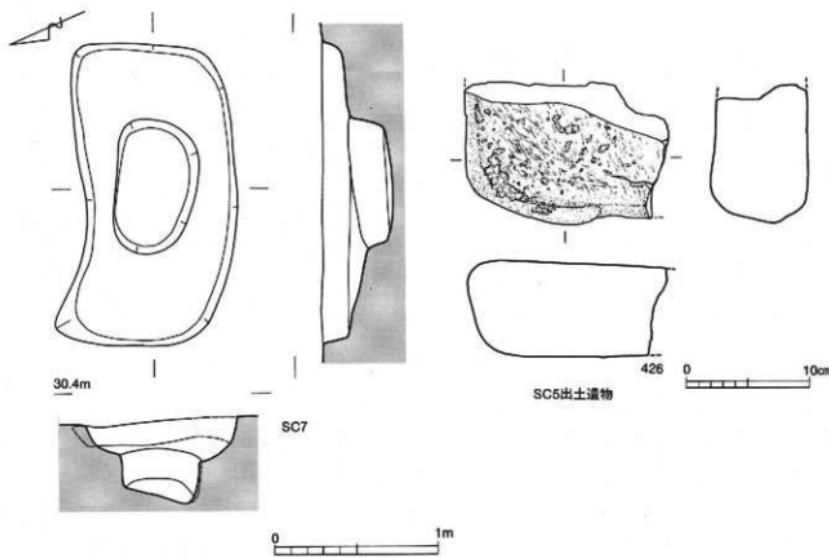
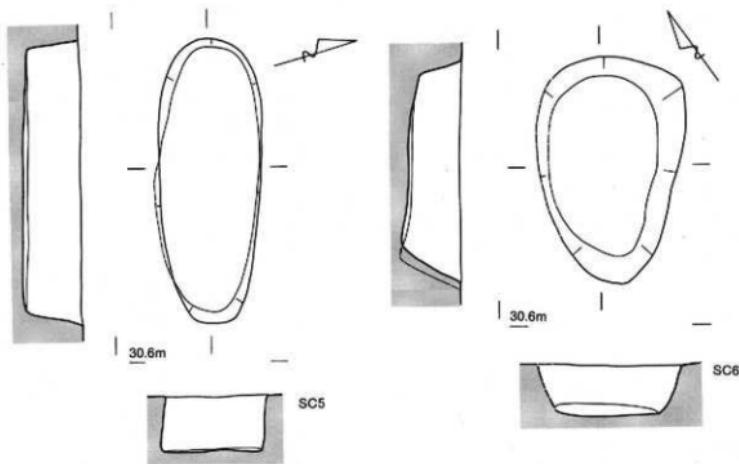
出土遺物（第69図426）

土坑の底面から20cm程浮いた位置に砂岩製の台石を検出した。両面とも研磨されており、敲打痕を明



0 1m

第68図 SC1・2・3・4 (1/30)



第69図 SC5・6・7 (1/30)、SC5出土遺物実測図 (1/4)

跡に残す。

6号土坑（第69図）

調査区の西側に位置し、28号竪穴住居跡の南東壁面に掘り込んでいる。主軸方位はN38° Eを指す。平面形は不整梢円形を呈する。壁面はやや斜めに掘り込まれ、底面はほぼ平坦に成形されている。規模は長軸1.40m、短軸0.90m、検出面からの深さ0.30mを測る。

遺構に伴する遺物は出土していない。

7号土坑（第69図）

調査区の西端に位置する。主軸方位はN67° Wを指す。平面変形隅丸長方形の掘形の中央に梢円形の堀込みを設けている。1段目の掘形は壁面がほぼ垂直で、底面は中央に向って緩やかに凹む。中央部の堀込みは壁面が垂直で、底面は南寄りに傾斜する。規模は上段の堀込みが長辺1.85m、短辺0.95m、検出面からの深さは最深部で0.28mを測る。下段の堀込みは長軸0.82m、短軸0.50m、上段底面からの最深部の深さ0.28mを測る。

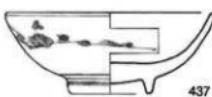
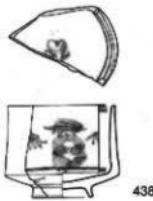
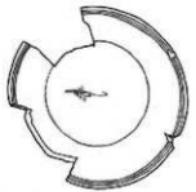
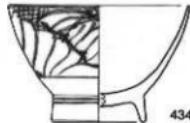
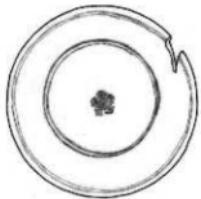
遺構に伴う遺物は出土していない。

包含層出土遺物（第70図～第74図）

遺物包含層からは磁器、瓦質土器、釘、キセル、錢貨などが出土している。

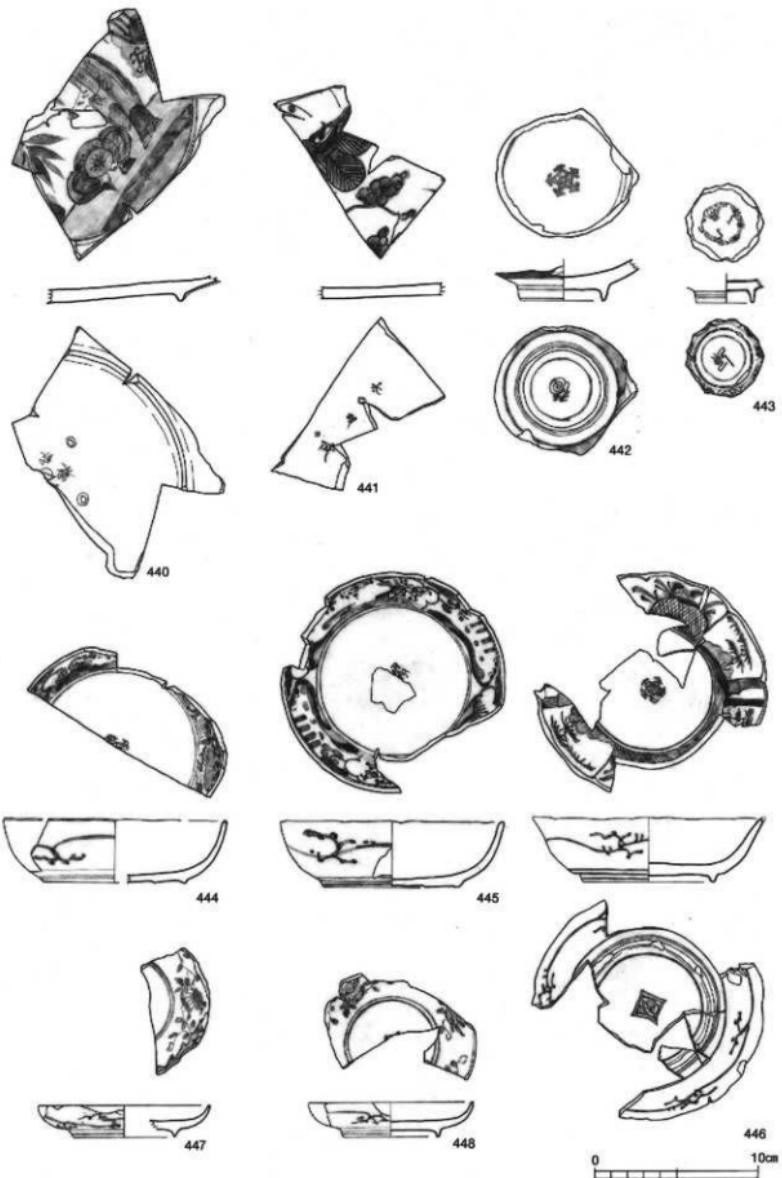
磁器・陶器・土器（第70図～第72図）

427は肥前染付蓋である。外面には梅文が描かれている。18世紀前半。428は肥前色絵碗である。17世紀末～18世紀前半。429は肥前染付蓋である。外面に篆文、つまみ内面及び内面天井部に岩波文が表現されている。発色が不良である。18世紀末～19世紀初頭。430～432は肥前染付碗である。430は外面及び見込みに菊唐草文を描いている。18世紀前半。431は外面に篆、草文、見込みにコンニャク印判による五弁花文を施している。18世紀後半。432は外面に二重網目文を描いている。18世紀中頃。433は肥前染付の端反碗で、外面に格子文を描き、見込みは蛇ノ目釉刺ぎを行なっている。19世紀前半。434～436は肥前染付の広東碗である。434は外面に半菊文を描き、見込みに「寿」字を施している。18世紀末～19世紀前半。435は外面に山水網干文を描き、見込みに「寿」字を施している。18世紀末～19世紀前半。437は肥前染付碗で、外面に梅文を描き、内面には蛇ノ目釉刺ぎを施している。18世紀中頃～18世紀後半。438は肥前染付の筒型碗で外面に篆文、見込みにコンニャク印判による五弁花文を施している。18世紀末～19世紀初頭。439は関西系の端反碗で、内外面に貫入が入っている。高台部は露胎である。440は肥前青磁染付皿で、見込みに人物が描かれ、高台内には「(人)(明)成(化)(年)製」の銘款が入るものと思われる。18世紀後半。441は肥前染付皿で、見込みに桜文が描かれ、高台内には「太明成(化)(年)(製)」の銘款が入る。18世紀後半。442は肥前染付皿で、見込みにコンニャク印判による五弁花文を施し、高台内に渦「福」字銘を書き込んでいる。18世紀前半。443は肥前染付皿で、見込みに松竹梅文が描かれている。高台内には「乾」字銘が記されている。19世紀前半～19世紀中頃。444～446は肥前染付の輪花皿である。444及び445の外面には唐草文、見込みには五弁花文が描かれ、高台部は蛇ノ目四形高台である。444の内面には梅文や草花文、445の内面には草花文が描かれている。446は外面に

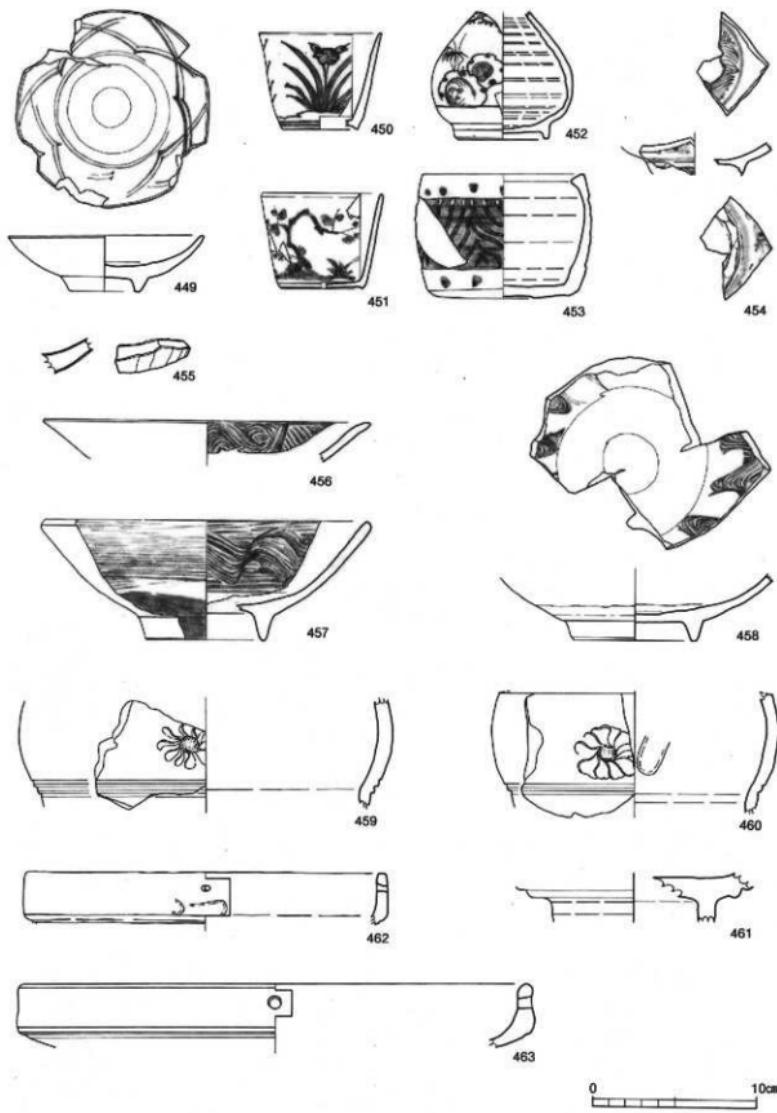


0 10cm

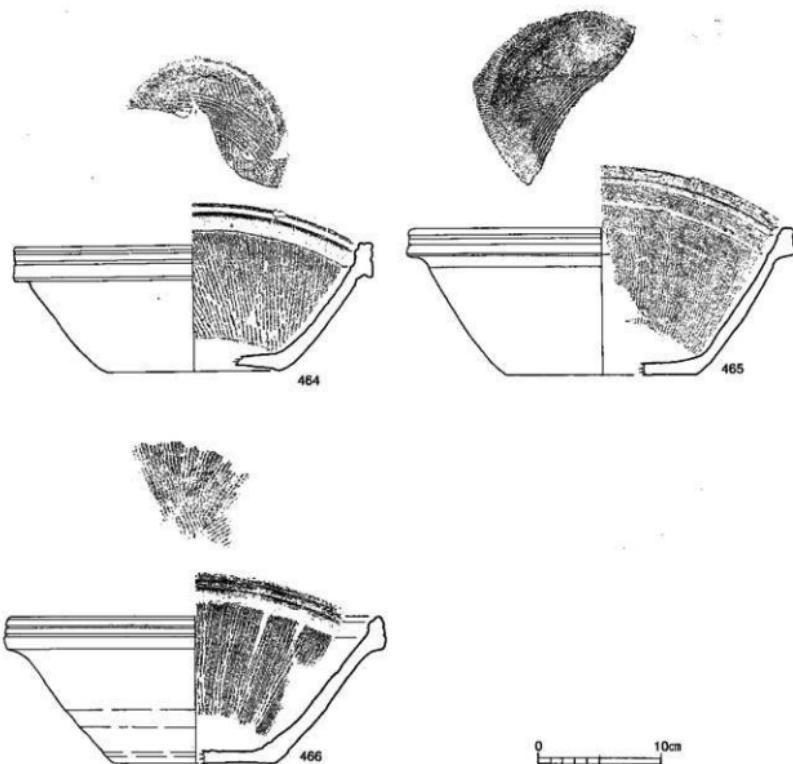
第70図 包含層出土遺物実測図 (1/3)



第71図 包含層出土遺物実測図 (1/3)

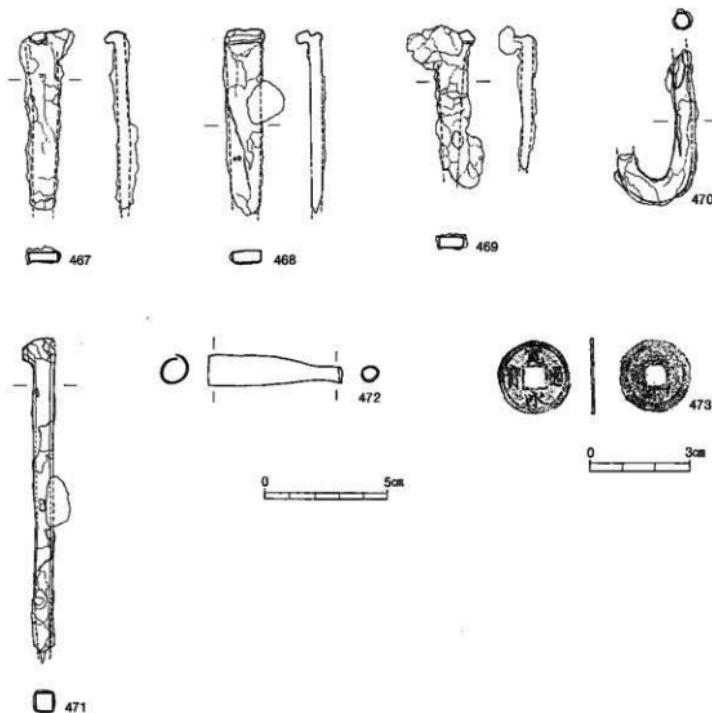


第72図 包含層出土遺物実測図 (1/3)



第73図 包含層出土遺物実測図(1/4)

唐草文、内面の区画内に竹文や草花文が描かれている。見込みにはコンニャク印判による五弁花文が施され、高台内には渦「福」字銘が書き込まれている。447、448は肥前染付小皿で、外面に唐草文、内面に草花文を描いている。18世紀前半。449は肥前染付皿で、内面に斜格子文を描き、見込みは蛇ノ目釉剥ぎを行なっている。18世紀末～19世紀前半。450、451は肥前染付そば猪口で、450の外面には草花文、451の外面には竹梅文が描かれている。18世紀後半。452は肥前染付油壺で、外面に笹、雪輪文が描かれている。18世紀代。453は鈎釉染付太鼓型香炉で、外底面は蛇ノ目凹形を呈する。17世紀後半～18世紀前半。454は中国明朝の染付碗で、15世紀～16世紀の製品である。455は龍泉窯系の青磁碗で、外面に連弁文を施している。456～458は唐津刷毛目皿である。457は内面に化粧土を施した後刷毛目を行なっている。見込みには蛇ノ目釉剥ぎを施している。458は見込みに蛇ノ目釉剥ぎを行なった後錆塗りを施している。459、460は瓦質の火鉢である。外面には菊花のスタンプを施している。461は火鉢の底部と思われる。底には高台がつく。胎質は瓦質である。462、463は素焼焙烙で、ともに器壁が穿孔されている。462は底部脇に段をもち、463は四線状の凹を廻らせている。



第74図 包含層出土遺物実測図 (473…2/3、他 1/2)

炊器（第73図）

464～465は壺系の擂鉢である。464は口縁外帯が3段に成形され、口縁内凸帯が大きい。底部は高台作りである。見込みの櫛目は三角形状に削り込まれている。465は口縁外帯が3段に成形され、口縁内凸帯は無い。底部は平底を呈する。見込みの櫛目は三角形状に削り込まれていると思われる。466は口縁外帯が3段に成形され、口縁内凸帯は小さい。底部は平底を呈する。櫛目は内器面から見込みに連続して削り込まれている。

鉄製品・銅製品・貨銭（第74図）

467～471は釘である。467～469は上端を折り曲げた搔折釘。470は手鍵状を呈する鉄製品である。釘が屈曲したものか。471は上端をわずかに折り曲げている。472は銅製のキセルの吸い口である。473は寛永通寶である。直径2.2cm、厚さ0.8cm、孔径0.65cmを測る。

第1表 出土土器観察表(1)

遺物 番号	種別	器 形 態	西 土 基 点	法 量(cm)			手法・調整・支撑はか		色 調	地 土 の 特 徴	備 考	
				口 径	底 径	高 さ	外 面	内 面				
1	土 器	壺	東 山 脚部	SA2			横ナデ	横ナデ	にぶい黄 灰	3.5mm以下の褐色、2mm以下の 灰・乳白色。微細な光沢		
2	土 器	壺	門 脚部	SA2			横ナデ	横ナデ	にぶい黄 灰	4mm以下の乳白・褐色、無細 な光沢		
3	土 器	壺	東 脚部	SA2			斜方向の平行タキ後 ナデ	横方向の工具ナデ	にぶい黄 灰	6mm以下の乳白色、4.5mm以下 の褐色。2mm以上の半透明光沢		
4	土 器	壺	東 脚部～底部	SA2			斜・斜方向の割り軋 ナデ 凸頭底	ナデ 工具底	にぶい黄 灰	5mm以下の褐色、灰白色、黑色光 沢	無	
5	土 器	壺	東 脚部	SA2	(4.8)		ナデ	ナデ 底裏	にぶい黄 灰	5mm以下の乳白色、4.5mm以下 の褐色。2mm以下の半透明光沢		
6	土 器	壺	東 脚部	SA2	(4.2)		ナデ 指腹底 スヌ付着	横ナデ	にぶい黄 灰	5mmの灰・灰・灰白色、透明 光沢		
7	弥生土器	壺	東 脚部	SA2			ナデ 斜方向の化粧 羽状文	ナデ	灰	4.5mm以下の半透明光沢、1.5mm 以下の褐色光沢、1mm以下の金 色光沢		
8	土 器	鉢	口縁～底部	SA2	17.2	5.6	15.5	斜・斜方向の割り軋ナデ スヌ付着、底裏、セナの 継ぎ目	横ナデ 底上の継ぎ目	にぶい黄 灰	5mm以下の乳白色	
9	土 器	壺	底部	SA2			工具ナデの後、指ナデ 割り軋ナデ	斜方向のナデ 工具底	にぶい黄 灰	3mm以下の灰・にぶい黄褐色 灰、黑色、透明光沢		
10	須 志 器	壺	平底	SA2	(13.3)	3.9	ヘラ削り ナデ	ナデ	灰	灰	無	
11	須 志 器	壺	平底	SA2	(13.6)		ヘラ削り ナデ	ナデ	灰	灰	無、1mmの大いの剥離・灰質剥 離	
12	須 志 器	壺	平底	SA2	(14.7)		ヘラ削り ナデ 自然縫	ナデ	灰灰	灰	無、1mmの大いの剥離・淡黃褐色	
13	須 志 器	壺	平底	SA2	(10.5)		ナデ ヘラ削り	ナデ	灰 灰オーリー 灰	灰オーリー 灰	無	
14	弥生土器	壺	口縁部	SA3			刺み口突起 横ナデ	ナデ	明褐色	3mm以下の明褐色		
15	弥生土器	壺	底部	SA3	(6.4)		丁寧なナデ スヌ付着	ヘラ状工具による斜方 向のナデ	にぶい黄 灰	4mm以下の灰・白・灰・黑色		
16	弥生土器	壺	口縁部	SA3			口縁部に横擦子文 指痕、横ナデ	円筒状 斜方向のミガキ	横	3mm以下の灰・黑色		
17	弥生土器	壺	口縁部	SA3			外耳に巻札 ナデ	ナデ	横	3mm以下の横・黑色		
18	弥生土器	壺	口縁部	SA3			斜方向の化粧 羽状文	ナデ	横	2mm以下の灰・黑色		
19	弥生土器	壺	口縁部	SA3			斜方向のガギ、第二 条の付着突起(下段に 刺み凹)	ナデ	横	2mm以下の灰・黑色、3mm 以下の褐色		
20	弥生土器	壺	口縁部	SA3			斜方向のガギ、第一 条の付着突起(下段に 刺み凹)	ナデ	横	2mm以下の灰・黑色、3mm 以下の褐色		
21	弥生土器	壺	口縁部	SA3			斜方向のガギ、第一 条の付着突起(下段に 刺み凹)	ナデ	横	1.5mm以下の灰白・灰白・褐色		
22	弥生土器	壺	高耳 脚部	SA3			斜方向のハケ月、ナデ 鉛・横方向のハケ日	鉛・横方向のハケ日 ナデ	横	4mm以下の灰・乳白色、3mm 以下の黑色光沢、1mm以下の透明 光沢		
23	弥生土器	壺	脚部	SA4			二条の貼付突起	ナデ	にぶい黄 灰	3.5mm以上の灰・半透明灰、3mm 以下の褐色		
24	弥生土器	壺	脚部	SA4			貼付突起を斜方に凹 彎折み、斜方向の丁寧 なナデ	ナデ	にぶい黄 灰	3mm以下の灰白・灰・にぶい黄 灰・黑色		
25	弥生土器	壺	脚部	SA4			貼付突起を斜方に凹 彎折み、斜方向の丁寧 なナデ	ナデ	にぶい黄 灰	3mm以下の灰白・灰・にぶい黄 灰・黑色	27と同 一器参考	
26	土 器	壺	底部	SA4	(7.1)		ハケ月の後ナデ	ナデ	にぶい黄 灰	にぶい黄 灰	5mm以下の灰・乳白色、3.5mm 以下の褐色	
27	土 器	壺	底部	SA4	(7.0)		ハケ月の後ナデ	ナデ	にぶい黄 灰	にぶい黄 灰	4mm以下の褐色、3mm以下の乳 白色	
28	土 器	壺	口縁～脚部	SA5	(22.6)		横ナデ、斜方向の割 り軋ナデ、底裏、スヌ付 着	横ナデ、指腹底 鉛・横方向の工具ナデ	灰 灰 灰	8mmの大いの褐色光沢、3mm以下の 灰・灰白・無灰色、黑色光沢		
29	弥生土器	壺	口縁～脚部	SA5			指腹底、横ナデ、スヌ 付着	ナデ	にぶい黄 灰	3mmの大いの褐色、灰白・にぶい 黄・金色光沢		
30	弥生土器	壺	脚部	SA5			横ナデ 刺み凹貼付突起(市目側) スヌ付着	ナデ	横	2.5mm以下の褐色・白色、1mm以 上の黑色		
31	弥生土器	壺	口縁部	SA5	(10.8)		横ナデ	横ナデ	にぶい黄 灰	4.5mm以下の灰・灰白・黑色 光沢		
32	土 器	壺	脚部	SA5			J字なナデ	ナデ 指腹底	にぶい黄 灰	3mmの大いの褐色、1.5mm以下の 褐色光沢	46と同 一器参考	
33	土 器	壺	脚部	SA5	(12.0)		斜方向のナデ	横ナデ、周突 指腹底	灰 灰	5.5mmの大いの褐色、2mm以下の 灰・白色、透明光沢		

第2表 出土土器観察表(2)

通 号	種 別	器 種 名	出 土 地 点	寸 法 (cm)		手法・調製・文様ほか		色 調		地 土 の 特 徴	備 考	
				長	幅	外 面	内 面	外 面	内 面			
34	傾 窓 器	环形	SAS	(13.6)		3.6	ヘラ削り、横ナデ	ナデ	黄灰	に赤い青	細魚、1mm以下の灰白粒、不透明光沢粒	
35	傾 窓 器	环形	SAS SA7				ヘラ削り、ナデ	ナデ	灰	灰	4mm以下の乳白・灰色粒	
36	弥生土器	环形	SAS SA7 e.2層	(17.4)			口部に削り目 剥み口貼付穴 ナデ、縦方向のハケ目	ナデ 縦凹線	に赤い青	白	5mm以下の乳白・白色粒、 1mm以下の黒色、透明光沢粒	
37	弥生土器	环形	SA6				口部に削り目 剥み口貼付穴 ナデ	ナデ 縦凹線	に赤い青	白	5mm以下の乳白・白色粒、 1mm以下の黒色、透明光沢粒	
38	弥生土器	环形	SA6				ナデ	ナデ	灰	灰	5mm以下の乳白・白色粒、 3mm以下の黒色光沢粒	
39	弥生土器	环形	SA6 SA7 e.2層	(4.0)			ナデ指痕	ナデ 断面痕、黒斑	に赤い青	白	5mm以下の乳白・白色粒、 3mm以下の黒色光沢粒	
40	弥生土器	环形	SA6				縦方向のハケ目 ナデ	斜・縦・横方向のハケ 目 ナデ	に赤い青	白	5mm以下の乳白・白色粒、 1mm以下の黒色光沢粒	
41	弥生土器	环形	SA6	(4.0)			ナデ指痕	ナデ 断面痕、黒斑	に赤い青	白	5mm以下の乳白・白色粒、 3mm以下の黒色光沢粒	
42	弥生土器	环形	SA6				縦方向のハケ目 ナデ	斜・縦・横方向のハケ 目 ナデ	に赤い青	白	5mm以下の乳白・白色粒、 1mm以下の黒色光沢粒	
43	弥生土器	ニチュア	SA6	(2.46)			ナデ指痕	ナデ 指痕、工具痕	明黄褐	明黄褐	5mm以下の乳・白色粒、 3mm以下の黒色光沢粒	
44	土 器	環	SA7 SA22				縦方向の削り状ナデ (一部横方向) 荷輪痕	横ナデ、工具痕 荷輪痕	に赤い青	白	3.5mm以下の灰白・褐色粒	褐色
45	土 器	環	SA7 SA9 SA9				横・縦方向の削り状ナ デ 粘土の繊維目	斜方向のハケ目 ナデ 工具痕	に赤い青	白	4mm以下の乳白・白色粒、 2mm以下の黑色粒	褐色
46	土 器	環	SA7				丁寧なナデ、ススキ着 剥離	ナデ、工具痕 剥離	に赤い青	白	8mm大の褐色粒1ヶ 1.5mm以下の褐色粒	
47	土 器	環	SA7				ナデ、ハケ目	ナデ	に赤い青	白	1.5mmの大粒褐色、1mm以下の黑 色粒	
48	土 器	環	SA7				ナデ凹凸感	ナデ	淡黄	淡黄	1mm以下の乳・黑色粒	
49	傾 窓 器	环形	SA7 SAS	(15.6)			ヘラ削り、ナデ	ナデ	灰	灰	2mm以下の乳白色粒	
50	傾 窓 器	环形	SA7 SAS	(13.9)			ヘラ削り、ナデ	ナデ	灰	灰 灰オーブ	精良、1mm以下の灰白粒	
51	傾 窓 器	环形	SA7	11.7		3.9	横ナデ、ヘラ削り	横ナデ	灰オーブ	精良		
52	傾 窓 器	环形	SA7	(11.4)			横ナデ	横ナデ	灰オーブ	精良		
53	弥生土器	环形 丸形	SAS	25.0	5.0	33.5	横・縦・斜方向のナ デ 剥離、断面痕、工具痕 ススキ着付	横・縦方向のナ デ 黄灰	に赤い青	白	1~3mmの乳・白色粒、 半透明・黒色光沢粒	
54	弥生土器	环形 丸形	SAS	24.15	4.2	29.7	横・縦・斜方向のナ デ 指痕痕 ススキ着付	斜方向のナ デ 工具痕	に赤い青	白	4.5mm以下の白色粒 3mm以下の黑色粒	
55	土 器	環	SA8	(20.0)	(2.7)	23.5	横・斜方向の工具ナ デ 剥離、ススキ着 付	横・斜方向の工具ナ デ 黑灰	に赤い青	白	3.5mm以下の灰白・黑色粒 1mm以下の黑色光沢粒	
56	土 器	環	SA8	(22.1)	(3.9)	22.1	横・斜方向の工具ナ デ 剥離、ススキ着 付	横・斜方向の工具ナ デ 黑灰	に赤い青	白	3.5mm以下の灰白・黑色粒 1mm以下の黑色光沢粒	
57	土 器	環	SA8	(17.5)	3.5	22.1	横・斜方向の丁寧なナ デ 工具痕、黒灰	斜ナデ、指痕痕 斜方向の丁寧なナ デ 工具痕、黒灰	に赤い青	白	1~4mmの乳灰・黄灰、 1mm以下の黑色光沢粒	
58	土 器	環	SA8	(17.5)	3.5	22.1	横・斜方向の丁寧なナ デ 工具痕、黒灰	斜ナデ、指痕痕 斜方向の丁寧なナ デ 工具痕、黒灰	に赤い青	白	5mm以下の乳白色粒、 1mm以下の黒色、透明 光沢粒	
59	土 器	環	SA8	(14.0)			横ナデ、工具痕 ススキ着付	横・斜方向のナ デ 工具痕、黒灰	に赤い青	白	4mm以下の乳・灰黄・灰白色粒 1mm以下の黑色光沢粒	
60	弥生土器	環	SA8	(21.0)			横ナデ、 縦方向のハケ目、剥 み口貼付穴	ナデ、指痕痕 横・斜方向のハケ目、 剥み口貼付穴	白	に赤い青	4mm以下の乳・赤褐色、 灰色粒	
61	弥生土器	環	SA8	(21.0)			横・斜方向のハケ目、 剥 み口貼付穴 ナデ、黒灰	斜方向のハケ目ナ デ 黒灰、指痕痕	淡黄	淡黄	4mm以下の乳・灰黄・灰白色粒	
62	弥生土器	環	SA8	(18.3)			ナデ、ススキ着 付丁寧なナデ	横・斜方向のナ デ 工具痕、工具痕	白	白	5mm以下の灰黄粒、 1mm以下の黑色光沢粒	
63	弥生土器	環	SA8	(11.0)			横ナデ、斜方向のハ ケ目 ススキ着付、黒灰	ナデ、横・斜方向のハ ケ目	に赤い青	白	0.5~2mmの灰白・黄・灰白色 粒	
64	弥生土器	環	SA8	(12.2)			ナデ、黒灰	ナデ	淡黄	淡黄	2mm以下の乳・灰・乳白・黑色粒 微細な黑色光沢粒	
65	土 器	環	SA8	(21.7)			工具ナデ、 横・斜方向のナ デ 工具の平行タキ	工具ナデ、 黒灰	に赤い青	白	4mm以下の乳・黄灰・黑 色粒 微細な半透明・黑色光沢粒	
66	土 器	環	SA8	(21.7)			丁寧なナデ 平行タキ	ナデ、指痕痕、 工具痕	明黄褐	明黄褐	1~4mmの黄黄粒、 黑色粒	
67	土 器	環	SA8	(3.9)			丁寧なナデ 平行タキ	ナデ、指痕痕、 工具痕	灰	灰	1~4mmの黄黄粒、 黑色粒	

第3表 出土土器観察表(3)

遺物 番号	器種	出土 部位	地 点	口 径	底 径	高 度	外 部	手法・調整・文様ほか		外 面	内 面	色 調	地 下の特徴	備 考
								外 面	内 面					
68	上部器	西 鋼部-底部	SAB			3.75	平行タキ	ナデ 黒変		に bei 黄緑	オリーブ	1~5mm厚板、黒褐色 微細な透明光沢		
69	弥生土器	東 底部	SAB			4.65	ナデ、指痕痕	ナデ、指痕痕、黒変		に bei 黄		2~3mmの薄・淡褐色 微細な透明白沢		
70	弥生土器	東 底部	SAB		(4.1)		ナデ	ナデ、工具痕		輪黄青	淡黄	5.5mm大さりに bei 黄褐色 2mm以下の灰白・黒・褐色		
71	弥生土器	東 口縁-底部	SAB	(9.75)	(4.0)	29.82	横・斜方向の工具痕 黒変	ナデ、工具痕 鉛錆痕 筋目		黄緑	褐 灰青	2~3mmの暗赤、灰白色		
72	弥生土器	東 口縁-鋼部 c.5mm	SAB+	(9.9)			横ナデ、斜方向の工具痕 筋目	横ナデ、斜方向の工具痕 筋目		に bei 黄	桜	4mm以下の灰・乳白色		
73	弥生土器	東 口縫部	SAB	(14.0)			ナデ、黒變 丁寧なナデ、工具痕 微細な状況	ナデ、工具痕 鉛錆痕		に bei 黄 黒青		2~3mmの褐色、灰白色 1mm以下の透明・半透明、黒色光沢	複合口 縫合	
74	弥生土器	東 口縫部	SAB	(10.3)			横ナデ、工具痕、黒變 微細波状文	ナデ		に bei 黄	に bei 黄	2~4mmの灰・褐色 1mm以下の透明、黒色光沢	複合口 縫合	
75	弥生土器	東 口縫部	SAB	(18.4)			ナデ、工具痕、輪黄青 波状文	ナデ、指痕痕		桜		1~5mmの灰白・褐色、 0.5mm以下の透明、黒色光沢	複合口 縫合	
76	弥生土器	東 口縫部	SAB				ナデ、指痕波状文	ナデ		黄青	に bei 黄	2.5mm以下の灰・黑色	複合口 縫合	
77	弥生土器	東 口縫部	SAB				ナデ、指痕波状文	ナデ		に bei 黄	に bei 黄	3mm以下の灰白色 1mm以下の黒色光沢	複合口 縫合	
78	弥生土器	西 口縫部	SAB				ナデ 口縫部に斜格子文	ナデ		に bei 黄	に bei 黄	4mm以下の灰・乳白色	複合口 縫合	
79	弥生土器	西 口縫部	SAB				ナデ、通縫鉄突文	ナデ、黒變		淡黄	淡黄	2mm以下の褐色		
80	弥生土器	西 口縫部	SAB				ナデ、足付突窓	ナデ		に bei 黄	に bei 黄	4~5mmの褐色、灰・黑色 0.5mm以下の透明、黒色光沢		
81	弥生土器	東 底部	SAB		(2.6)		ナデ、スズ付着	ナデ、面張 工具痕		に bei 黄 に bei 黄		4~5mmの褐色、灰・黑色 0.5mm以下の透明、黒色光沢		
82	弥生土器	東 底部	SAB		(12.0)		ナデ	ナデ		に bei 黄	に bei 黄	2mm以下の灰・黒色 1mm以下の黒色光沢		
83	弥生土器	東 口縫部	SAB		(21.5)	4.4	横・斜方向のナデ 底・底向外のミガキ 黒變、スズ付着	横・斜方向のナデ 底・底向外のミガキ 黒變、指痕痕		に bei 黄	に bei 黄	1~5mmの灰・灰・乳白・黄 黒色光沢		
84	弥生土器	東 口縫部-底部	SAB+	(23.5)	3.05	10.2	ナデ、斜方向のミガキ	ナデ、斜方向のミガキ 横カケ		明赤	桜	3mm以下の灰・黒・褐色 1mm以下の光沢		
85	弥生土器	東 口縫部-側部	SAB	(14.5)			ナデ、黒變	斜方向の工具ナデ 黒變		淡黄	に bei 黄	4mm以下の褐色、灰・黒色光沢 微細な透明・黒色光沢		
86	土器	東 口縫部-側部	SAB	(11.9)			ナデ、平行タキ、指 痕痕 スズ付着	底・斜方向のナデ 指痕痕		に bei 黄	に bei 黄	4mm以下の灰・乳白色		
87	土器	東 口縫部-底部	SAB	11.1	4.8	(6.75)	縫合の平行タキ スズ付着	丁字なナデ、黒變 丁字痕		に bei 黄	に bei 黄	0.5~1mmの白・褐色・灰・浅黃 微細な透明		
88	弥生土器	東 口縫部-底部	SAB+	(10.0)	1.7	12.4	縫合の丁字なナデ スズ付着	横・縦・斜方向のナデ	桜	に bei 黄	に bei 黄	4mm以下の白・灰・褐色		
89	弥生土器	東 口縫部	SAB				縫合のミガキ、黒變 ナデ	縫合のミガキ、黒變 ナデ		に bei 黄	に bei 黄	3mm以下の褐色、灰・乳白色 微細な透明光沢		
90	弥生土器	東 口縫部	SAB	(29.0)			ハケの後ナデ、幾ナ デ、斜方向の工具ナデ 割み目貼付接着、黒變	ハケの後ナデ、幾ナ デ、斜方向の工具ナデ、黒變 ナデ		淡黄	淡黄	0.5~2mmの褐色・灰褐色		
91	弥生土器	東 口縫部-側部	SAB	SAB19	(26.0)		ナデ、ハケ日 黒變	ナデ、指痕痕 工具痕		に bei 黄	に bei 黄	2mm以下の灰・灰褐色		
92	弥生土器	東 口縫部-側部	SAB	(16.1)			ナデ、ハケ日 黒變、口縫部に凹 スズ付着	ナデ、指痕痕 工具痕		灰白	灰青	1mm以下の灰白色		
93	弥生土器	東 口縫部	SAB				ナデ、口縫部に凹 スズ付着	ナデ		に bei 黄	桜	3mm以下の灰・黒・乳白色 微細な透明光沢		
94	弥生土器	東 側部	SAB				横・斜方向のナデ、黒 變 割み目貼付接着	丁字なナデ		淡黄	に bei 黄	5mmの大さりの乳白色 2mm以下の灰・乳白色		
95	弥生土器	東 側部	SAB				ナデ、指痕痕 工具痕	ナデ 工具痕		に bei 黄	淡黄	に bei 黄 に bei 黄		
96	弥生土器	東 側部	SAB				ナデ 貼付突窓	ナデ		に bei 黄	成黄	3mm以下の灰・黄・灰褐色 白灰色		
97	弥生土器	東 側部	SAB				丁字なナデ、沈底	ナデ		明赤	淡黄	2mm以下の灰褐色		

第4表 出土土器観察表(4)

造物 番号	種別	基 地 部 位	出 土 地 点	法 量(cm)			手法・調整・文様はか		色 調		地 土 の 特 性	備 考
				口 径	底 径	器 高	外 面	内 面	外 面	内 面		
98	土器	基 地 部 位	豊 岡都	SA9		(7.4)	ナダ、指壓 スス付着	ナダ、黒変	に赤い黄緑	に赤い黄緑	3mm以下の灰、黒・灰色粒	
99	土器	基 地 部 位	高 岡都	SA9			瓶方向のミガキ 円形通かし、横ナダ	横ナダ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	1mm以下の灰、乳白色粒 透明光沢粒	
100	土器	基 地 部 位	東 口桜都	SA10	(29.9)		横ナダ	横ナダ	灰	灰	5mm以下の褐色粒 3mm以下の乳白色粒 微細な透明光沢粒	
101	土器	基 地 部 位	東 山桜都	SA10	(17.6)		横・瓶方向のナダ	横ナダ	浅黄緑	浅黄緑	4mm以下の灰、灰・褐色粒 微細な透明・黑色光沢粒	
102	土器	基 地 部 位	東 山桜都	SA10			横・斜方向のナダ	横・斜方向のナダ	浅黄緑	浅黄緑	4mm以下の灰・灰・灰白色粒 1mm以下の黑色光沢粒	
103	土器	基 地 部 位	東 口桜都	SA10			斜方向の押圧文 横ナダ、スス付着	ナダ	浅黄緑	浅黄緑	2mm以下の灰、褐色粒	
104	先史土器	基 地 部 位	東 口桜都	SA10			瓶・斜方向の平行タ キ	ナダ	灰変	灰变	2mm以下の灰、褐・黒・乳白色粒、 微細な透明・半透明光沢粒	
105	土器	基 地 部 位	東 山桜都	SA10			斜り状ナダ 黒変	瓶・瓶方向のナダ ナダ、粘土の擦き目 黒變	灰	灰	5mm以下の褐色粒 3mm以下の乳白色粒 微細な透明光沢粒	埋蔵
106	土器	基 地 部 位	東 山桜都	SA10	SAB		斜方向の工具ナダ、ナ ダ 黒變	ナダ、工具痕 黒變、粘土の擦き目	黄緑 浅黄緑	浅黄緑	4.5mm以下の灰、灰・褐色粒 1.5mm以下の黑色光沢粒	
107	先史土器	基 地 部 位	東 口桜付近	SA10			ナダ 擦過状文	ナダ	灰	灰	2mm以下の灰白・灰・灰白色粒、 微細な半透明・黑色光沢粒	
108	先史土器	基 地 部 位	東 口桜都	SA10		(10.0)	ナダ 黒變	ナダ	灰变	灰变	3mm以下の乳白・灰・褐色粒、深 緑の透明光沢粒	
109	先史土器	基 地 部 位	東 口桜都	SA11			ハケ目の後ナダ 灰日貼付突起	ナダ 黒變	灰	灰变	3mm以下の褐色粒	
110	先史土器	基 地 部 位	東 口桜都	SA11			横ナダ スス付着	横ナダ、ハケ目	灰变	灰变	に赤い黄緑	
111	先史土器	基 地 部 位	東 山桜都	SA11			横ナダ、瓶方向のハケ日 灰日貼付突起(赤目)	横ナダ、瓶方向のハケ 日 黒變	暗灰 に赤い	灰变	3mm以下の褐色粒 微細な光沢粒	
112	先史土器	基 地 部 位	東 口桜都	SA11			横ナダ ハケ目	ナダ、ミガキ	灰	灰	3mm以下の灰白・黄緑・褐色粒	
113	先史土器	基 地 部 位	東 口桜都	SA11			ナダ、左側のみ貼付突起 スス付着	ナダ	灰变	に赤い黄緑	3mm以下の灰・乳白色粒 1mm以下の透明光沢粒	
114	先史土器	基 地 部 位	東 成都	SA11		(5.0)	斜方向のハケ目、ナ ダ ミガキ	ナダ、擦痕痕	に赤い黄緑	灰变	5mm以下の褐色粒、2.5mm以下の 乳白色粒、2mm以下の黑色光沢 粒、微細な透明光沢粒	
115	先史土器	基 地 部 位	豊 岡都	SA11			瓶方向のハケ目、指痕 黒變 円形通かし	工具ナダ、横ナダ 指ナダ	明黄緑	灰变	5mm以下の灰・乳白色粒 1mm以下の黒色・透明光沢粒	
116	先史土器	基 地 部 位	神 口桜付近	SA11	■B8	(19.0)	斜方向のハケ目、指痕 黒變	横・斜方向のハケ目 瓶・斜方向のミガキ 黒變	に赤い黄緑	に赤い黄緑	2mm以下の灰白・灰・褐色・黑 褐色粒、1.5mm以下の黑色光沢粒	
117	土器	基 地 部 位	神 口桜付近	SA11	(8.35)	(3.7)	ナダ、ハケ日の後ナダ 工具痕、指ナダ、黒變	ナダ、指痕痕 黒變	に赤い黄緑	に赤い黄緑	3mm以下の乳白・灰・褐色粒	
118	先史土器	基 地 部 位	東 成都	SA11		(11.1)	ハケ日の後ナダ 横ナダ	ハケ日の後ナダ ナダ	灰变	灰变	3mm以下の灰・乳白色粒 微細な光沢粒	
119	先史土器	基 地 部 位	東 成都	SA13		(4.4)	ナダ、工具痕	ナダ、指痕痕	明黄緑 灰变	灰变	5mm以下の灰・灰・灰白の 粒、黑色光沢粒	
120	先史土器	基 地 部 位	東 成都	SA14		5.7	横ナダ、平行タキ 黒變 鏡面のナダ、スス付着	横ナダ、黒變	に赤い黄緑 に赤い黄緑	に赤い黄緑 に赤い黄緑	1.5~6mmの灰・黒・褐・乳白色 粒	
121	土器	基 地 部 位	東 口桜付近～ 豊 岡都	SA14			平行タキ、黒變	ナダ、工具痕	に赤い黄緑	に赤い黄緑	5mm以下の褐色粒 2mm以下の灰・灰・乳白色粒、 黑色光沢粒	
122	土器	基 地 部 位	東 山桜都～ 豊 岡都	SA14		(2.9)	平行タキ、黒變	ナダ、工具痕	に赤い黄緑	に赤い黄緑	5mm以下の褐色粒 2mm以下の灰・灰・乳白色粒、 黑色光沢粒	
123	土器	基 地 部 位	東 山桜都～ 豊 岡都	SA14		3.6	瓶・斜方向の平行タ キ	ナダ、スス付着	浅黄 に赤い黄緑	浅黄	2.5mm以下の褐色粒 1mm以下の透明・黑色光沢粒	
124	土器	基 地 部 位	東 口桜都～ 豊 岡都	SA14		3.0	斜方向の平行タキ スス付着	ナダ、工具痕 スス付着	浅黄	灰白 灰	5mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の黑色光沢粒	
125	先史土器	基 地 部 位	東 口桜都～ 豊 岡都	SA14	SA9	(10.5)		横ナダ 鏡面のハケ日後ナダ	横ナダ、指痕痕	明黄緑	3mm以下の灰・灰・黃褐色粒	
126	先史土器	基 地 部 位	東 口桜都	SA14			指痕痕 鏡面に鏡面文 鏡・斜方向のナダ	横ナダ	に赤い黄	橙	3mm以下の灰・黄褐色粒	
127	土器	基 地 部 位	東 山桜都～ 豊 岡都	SA14		3.7	工具痕、丁寧なナダ 平行タキ 黒變	斜方向の工具ナダ、ナ ダ、指痕痕 黒變	灰变	に赤い黄緑	5mm以下の灰・灰・黃褐色粒、 透明光沢粒	
128	土器	基 地 部 位	東 山桜都～ 豊 岡都	SA14		2.45	鏡面のナダ 黒變	ナダ	に赤い	赤	2mm以下の乳白色粒 黑色光沢粒	

第5表 出土土器観察表(5)

通番 番号	器 名	器 種 類 並 位	出 土 地 点	法 量(cm)		手法・調製・文様ほか		色 調		胎 土 の 特 徴	備 考	
				口 径	底 径	高 さ	外 面	内 面	外 面	内 面		
129	土 器 群	縦 口縁一張筋 付近	SA14	(21.2)			縦、斜方角のナデ 指腹のナデ、工具痕 粘土の擦り目、スス付着	ナデ 指腹痕	に赤い黄褐色 灰黒	に赤い黄褐色 灰黒	4 mm以下の灰褐色、灰黒、乳白色 板、透明、黑色光沢板	
130	土 器 群	縦 口縁一張筋	SA14				縦、斜方角のナデ	斜方角のナデ 黒度	に赤い黄褐色 灰黒	に赤い黄褐色 灰黒	3 mm以下の灰褐色、黄褐色、灰 色粒	
131	土 器 群	高環 口縁部	SA14				縦、斜、斜方角のミガ キ	横、斜方角のミガキ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	3.5 mm以下の灰褐色、乳白色 板	
132	弥生土器	窓 口縁部	SA15				貼土穴帯、工具痕	ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	4.5 mm以下の乳白色、褐色板 1.5 mm以下の透明光沢板	
133	弥生土器	窓 口縁部	SA15				口縁周囲に連續刻み目 三段の割込み貼付帶 ナデ	ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	2 mm以下の灰褐色、明褐色の板 1 mm以下の透明光沢板	
134	弥生土器	窓 口縁部	SA15 SA17	(27.5)			輪郭のハケ目、ナデ 粘土貼付帶(有り無し) スス付着	横ナデ、工具ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	3.5 mm以下の灰褐色、乳白色板 1 mm以下の黑色光沢板	
135	弥生土器	窓 口縁部	SA15				横ナデ、斜方角のハケ目 輪郭貼付帶(有り無し) スス付着	工具による横ナデ ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	3 mm以下の灰褐色、乳白色板、黑 色光沢板	
136	弥生土器	窓 充形	SA15	20.7	4.8	36.35	ナデ、ハケ日 底度、スス付着	横、横、斜方角のハケ目 ナデ、底度	明褐色 灰褐色	に赤い黄褐色 灰	9 mm以下の乳白色、明褐色、乳白色板 3 mm以下の黑色光沢板	
137	弥生土器	窓 充形	SA15	17.6	4.8	24.7	ナデ、斜方角のハケ目 スス付着	ハケ目、底度 工具痕	浅黄 に赤い黄褐色 明褐色	に赤い黄褐色 明褐色	8 mm以下の灰褐色、灰褐色板 2.5 mm以下の灰褐色、乳 白色光沢板	
138	弥生土器	窓 充形	SA15	15.75	4.7	30.5	ナデ、縦、斜方角のハ ケ目、指腹痕 底度	工具痕、指腹痕 斜方角のナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	4 mm以下の褐色板及び乳白色板を 1ヶ	
139	弥生土器	窓 網縫一張筋 及8壁	SA15 SA17 及8壁	(3.6)			輪郭のハケ目 工具ナデ、底度	斜方角のハケ目 指腹痕、底度	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	4 mm以下の灰褐色、乳白色板 1 mm以下の灰、白色板	
140	弥生土器	窓 口縁部	SA15 SA17 及8壁				口縁周囲に縫合文 ナデ	ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	5 mm以下の灰褐色、乳白色板	
141	弥生土器	窓 口縁部	SA15				口縁周囲に縫合文 ナデ	ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	4 mm以下の黄色板 3 mm以下の透明光沢板	
142	弥生土器	窓 充形	SA15				ナデ、工具ナデ 指腹痕、底度 ミギキ	ナデ	浅黄 灰	浅黄 灰	4 mm以下の灰、乳白色板、1 mm以 下の白色、透明光沢板	
143	弥生土器	窓 口縁一張筋 付近	SA15 3.6壁	(6.0)			ナデ、斜方角のミガキ ハケ目(後ナデ)なし 底度	ナデ、指腹痕 斜方角のハケ目、粘土 の擦り目	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	2.5 mm以下の灰、乳白色板、透明 光沢板	
144	弥生土器	窓 充形	SA15	(9.8)	3.95	21.9	横ナデ、ハケ日の後 斜方角のミガキ、底度	横、斜方角のナデ、 斜方角のハケ目、粘土 の擦り目	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	3 mm以下の白色板 8 mm以下の透明光沢板	
145	弥生土器	窓 充形	SA15	(5.5)	4.2	16.7	横ナデ、斜方角のハ ケ目、スス付着	ナデ、指腹痕 底度	浅黄 灰	浅黄 灰	3 mm以下の灰、灰、黄色板	
146	弥生土器	白竹跡 口縁一張筋	SA15 4.6壁	(13.25)	(10.95)	21.3	横ナデ、窓、斜方角 のミガキ、底度	横、横、斜方角のミガキ 底度、斜方角のナ デ、指腹痕	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	3 mm以下の灰白色板 1 mm以下の黑色光沢板	
147	弥生土器	窓 口縁一張筋	SA15 SA17	(22.8)	(5.9)	18.45	横ナデ、斜方角の ハケ目、工具痕、指 腹痕、スス付着	横、斜方角のハケ 目、工具痕、指腹 痕、スス付着	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	5 mm以下の黄褐色、灰褐色、灰 色板、微細な透明板	
148	弥生土器	窓 充形	SA15	(25.45)	5.6	15.8	横ナデ、ハケ目の後ナ デ、スス付着、底度	横ナデの後ナデ、 スス付着、底度	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	4 mm以下の灰、灰、褐色板	
149	弥生土器	窓 充形	SA15	12.6	4.2	11.6	横ナデ、指腹痕、ナ デ、工具痕 底度	ナデ、工具痕、指腹痕 底度	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	5 mm以下の灰褐色、灰褐色板、透 明、黑色光沢板	
150	弥生土器	高環 脚部	SA15	(5.7)			ナデ、沈底	ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	2 mm以下の灰白色板 1.5 mm以下の半透明光沢板	
151	弥生土器	脛台の脚 付近の裏部?	SA15				斜方角のハケ目後沈 底	ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	3.5 mm以下の乳白色板 2 mm以下の透明光沢板	
152	弥生土器	窓 口縁一張筋	SA16	(22.6)			ナデ、斜方角のハ ケ目(後ナデ) スス付着、底度	横ナデ、斜方角のハ ケ目(後ナデ)	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	5 mm以下の褐色板	
153	弥生土器	窓 口縁一張筋	SA16				横ナデ	横ナデ スス付着	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	2 mm以下の灰白色板 1 mm以下の褐色板	
154	弥生土器	窓 口縁部	SA16	(18.6)			ナデ、スス付着	横ナデ ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	4 mm以下の褐色板 2 mm以下の黑色光沢板	
155	弥生土器	窓 口縁一張筋	SA16	(20.05)			ナデ、スス付着	ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	4 mm以下の褐色板 2 mm以下の黑色光沢板	
156	弥生土器	窓 口縁一張筋	SA16	(12.3)			ナデ、横、斜方角のハ ケ目	工具による横ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	2 mm以下の灰白色板、褐灰色板	
157	弥生土器	窓 口縁部	SA16				跡より貼付突起 スス付着、斜方角のハ ケ目	丁寧なナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	3 mm以下の灰、褐、褐、灰褐色 板、透明光沢板	
158	弥生土器	窓 充形	SA16				横、斜方角のハケ目 ナデ	ナデ 指腹痕	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	3.5 mm以下の灰褐色、灰褐色板	
159	弥生土器	窓 底板	SA16	(5.6)			ナデ、粘土の通り	ナデ	に赤い黄褐色 灰	に赤い黄褐色 灰	7 mm以下の灰白色板、5 mm以下の 褐色板	

第6表 出土土器観察表(6)

測定番号	種別	基準部位	出土地点	法基(m)			手技・調査・文様はか		色調		助土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
160	弥生土器	裏底部	SA16		(6.8)		ナデ	スス付痕 ナデ	にぶい黄緑	灰白	4mm以下の黄緑・灰黒・灰白色粒	
161	弥生土器	裏底部	SA16		(6.6)		ハケ目、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄緑	3mm以下の黄色粒、2.5mm以下の乳白色粒、2mm以下の透明光沢粒	
162	弥生土器	裏底部-一部	SA16		8.9		裏-前向のハケ目付ナデ 横・斜方向のミガキ 丁寧なナデ、黒斑、ナデ	ナデ 指痕痕	にぶい橙 にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄	4mm以下の褐色粒	
163	弥生土器	裏 口縁部	SA16				横ナデ	二条の透跡新文 ミガキ、貼付突帯	橙	にぶい橙	3.5mm以下の橙・灰黄・青色粒、 透明光沢粒	
164	弥生土器	裏 底部	SA16				丁寧なナデ 黒斑	工具痕、横ナデ、指痕 痕、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3.5mm以下の赤・褐・灰白・ 黒色粒、黑色光沢粒	
165	弥生土器	裏 底部	SA16				貼付突帯 横ナデ	ナデ	黄緑	にぶい黄緑	1~3.5mmの赤・褐・乳白色粒 5mm以下の黑色粒+?	
166	弥生土器	裏 底部	SA16				筋方向の工具ナデ後 ガキ 新文子文、凹痕 横ナデ、横・斜方向のハケ目付丁寧な ナデのものナデ、ナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	橙	4mm以下の透明光沢の小粒 3mm以下の赤・褐・灰白・黑色粒、 透光・黑色光沢粒	
167	弥生土器	裏 口縁-一部	SA16	(15.0)			後ナデ、ナデ	にぶい橙	橙	3mm以下の透明光沢粒 2mm以下の赤白・褐・黑色粒		
168	弥生土器	裏 口縁	SA16				横方向のミガキ	横方向のミガキ	橙	明黄緑	1~3mmの赤・褐・乳白色粒 1mmの黑色光沢粒	
169	弥生土器	裏 口縁	SA16				ミガキ	ナデ	灰黄緑	灰黄緑	1~2.5mmの褐・灰・乳白色粒、 1mm以下の透明光沢粒 5mmの大粒黒色粒+?	
170	弥生土器	裏 口縁-一部	SA17	(16.0)			口縁底部に剥み日 輪形目貼付突帯 新文文、ナデ	ナデ 横ナデ	灰黒 にぶい橙	灰黒 にぶい橙	4mm以下の褐・灰白色粒	
171	弥生土器	裏 縁部	SA17				横ナデ 貼付突帯、筋方向のナデ	工具ナデ	橙	橙	1.5~3.0mmの赤・褐・乳白色粒	
172	土器	裏 口縁-底部	SA17	(14.0)			横ナデ、筋方向の工具 ナデ ナデ、スス付痕	工具ナデ、ナデ 底板	にぶい赤	横	3mm以下の灰白色 鐵鋸な透明光沢粒	
173	土器	裏 口縁-底部	SA17	(16.1)	2.9	15.85	横ナデ スス付痕	筋方向のナデ、口縁底部 に貼付する横ナデ 平行線ナタの最後一部ナデ 底板、黒斑	にぶい橙 灰黄緑	にぶい黄 灰黄緑	4mm以下の乳白・灰黒・にぶい橙 黑色、黑色光沢粒	
174	弥生土器	裏 底部	SA17				筋目貼付突 帶、筋方向の草なナデ 新文文、スス付痕	横ナデ	灰黒	灰黄緑	3mm以下の乳・乳白色粒 1mm以下の透明光沢粒	
175	弥生土器	裏 底部	SA17		(6.6)		筋方向の丁寧なナデ	ナデ	にぶい橙 灰黒	横	3mm以下の灰・灰黒・白・灰 黒・黑色粒	
176	弥生土器	裏 口縁部	SA17				口縁部に新文文 ナデ	ナデ	橙	横	5mm以下の乳白・ 1mm以下の透明・黑色光沢粒	
177	弥生土器	裏 口縁部	SA17				口縁部に凹痕 ナデ	円形浮文、横ナデ	にぶい黄緑 明黄緑 浅黄緑	4mm以下の灰色粒		
178	弥生土器	裏 口縁部	SA17	(9.6)			ナデ ミガキ	ナデ 横ナデ	にぶい橙 にぶい黒	横	5mm以下の暗赤 2mm以下の白色粒、透明光沢粒	
179	弥生土器	裏 口縁部	SA17	(6.0)			ナデ	ナデ	橙	横	1mm以下の白色粒、黑色、透明光 沢粒	
180	弥生土器	裏 底部	SA17				筋方向のミガキ、横ナデ 貼付突帯	横ナデ	にぶい黄緑	横	3mm以下の灰黒・にぶい黒赤・ 灰白色粒、黑色、透明光沢粒	
181	弥生土器	裏 底部	SA17				二条の沈繩、ナデ	ミガキ	明黄緑	横	3mm以下の灰黒・褐・灰黒・ 灰白色粒	
182	弥生土器	裏 底部	SA17				筋方向のハケ目後ナデ 比照	横・筋方向のハケ目後ナデ ナデ	横・筋方向のハケ目後ナデ 灰黒	横	3mm灰白色 3.5mm以下の乳白・褐・灰黒・ 灰黑色粒	
183	土器	裏 口縁-底部	SA17	21.3	5.5	8.4	横ナデ、ハナナ・指痕痕 横・筋・筋方向のミガキ 底板	横・筋方向のハケ目後ナデ ナデ	にぶい黄緑	横	4mmの大粒・乳白色粒 1~2.5mmの深赤・褐・乳白 色粒、黑色光沢粒	
184	土器	ミニチュア 口縁-底部	SA17	(7.6)	(3.7)		ナデ、指痕痕 スス付痕	ナデ 指痕痕	にぶい黄緑 にぶい黄	にぶい黄緑	3.5mm以下の透明・黑色 2mm以下の透明・黑色	
185	土器	裏 口縁-底部	SA20	(14.0)			横・筋方向のナデ ナデ・スス付痕	横・筋方向のナデ ナデ	にぶい黄緑	横	4mmの大粒・乳白色粒 1~2.5mmの深赤・褐・乳白 色粒、黑色光沢粒	
186	弥生土器	裏 底部	SA20		(5.3)		横ナデ、筋方向のハケ目 ナデ・スス付痕	ナデ、黒斑	浅黄	黒褐	3.5~4mmの赤・深赤・乳白色 粒、1mm以下の乳白色粒、透明・ 黑色光沢粒	
187	海生土器	裏 底部	SA20				筋方向の突帯 スス付痕	横ナデ 工具痕、指痕痕、ナデ	にぶい黄緑	横	1~2.5mmの赤・黑・褐色 1mm以下の黑色光沢粒	
188	弥生土器	裏 口縁部	SA23	(30.6)			ナデ 貼付突帯 スス付痕	ナデ	浅黄	浅黄	2.5mm以下の赤色・黒色粒	
189	弥生土器	裏 底部	SA23		7.5		ハケ日の後一部ナデ ナデ スス付痕	ナデ 黒斑	にぶい黄緑 黒褐	にぶい黄緑	4.5mm以下の乳白色粒、3mm以下 の黒色粒、1mm以下の透明・黑色 光沢粒	

第7表 出土土器観察表(7)

遺 物 番 号	種 別	部 位	出 土 地 点	法 量(cm)		手仕・調整・文様ほか		色 質		地 土 の 特 徴	備 考		
				口 徑	底 径	器 高	外 面	内 面	外 面	内 面			
180	陶生土器	毫 底部	SA23			6.2	横ナデ、ナデ ス付着	ナデ ス付着	暗灰黒	暗灰黒	3mm以下の褐・灰黒・灰白色粒 6mmの灰褐色粒1ヶ		
181	陶生土器	毫 底部	SA23			6.9	ナデ ス付着	ナデ ス	にい黄	黑褐	3mm以下の褐・乳白色粒 1.5mm以下の褐色・透明光沢粒		
182	陶生土器	毫 底部	SA23		(5.1)	ハケ日 ナデ ス付着	ナデ	程	程	程	8mm以下の白・灰黒・褐色粒、 透明粒		
183	陶生土器	毫 口縁部	SA23	(10.9)			口縁端面に三条の凹線 綫方向のミガキ	横・斜・綫方向のナデ 黒斑	にい黄	にい黄	3mm以下の白・灰白色粒 1mm以下の全墨化		
184	陶生土器	毫 底部	SA23		(7.0)		丁寧なナデ 黒斑	横ナデ ナデ 付着	浅黄 暗灰	暗灰	4mm以下の白の乳白・白灰色 1mm以下の透明光沢粒		
185	陶生土器	毫 底部	SA23		(5.0)		縦・斜方向のミガキ	ナデ	にい黄	程	4mm以下の灰白・灰・褐 黒褐色		
186	陶生土器	毫 口縁部	SA23				横ナデ	丁寧な横ナデ	にい黄	にい黄	3mm以下の白・黒・褐・灰・ 赤褐色		
187	陶生土器	毫 受部	SA23				ナデ	横ナデ 付着 ス付着	にい黄	にい黄	1mm以下の黑色光沢粒		
188	陶生土器	毫 变形	SA24	17.5	3.4	24.6	ナデ 付着 ス付着	横ナデ 付着 斜方向のハケ日 黒斑	にい黄	にい黄	2mm以下の乳白・灰白色粒、 黑色・透明光沢粒		
189	陶生土器	毫 口縁部	SA24				ナデ、口縁端面に凹線 黒斑	ナデ	浅黄	浅黄	2mm以下の白・黒・灰色 微細な半透明白色光沢粒		
200	陶生土器	毫 底部	SA24		(5.6)		ナデ	ナデ 付着	程	にい黄	3mm以下の乳白・浅黄・灰白・ 褐色		
201	陶生土器	毫 口縁部	SA24	(12.8)			横縫状付文 ハケ日 ナデ	横ナデ ハケ日	にい黄	にい黄	4mm以下の褐・灰・黑色粒 微細な透明・黑色光沢粒		
202	陶生土器	毫 可取	SA24				丁寧なナデ 二条の沈撇	ナデ	にい黄	浅黄	1mm以下の黒・透明光沢粒		
203	陶生土器	休 ほぼ完形	SA24	(25.95)	(1.35)	15.9	肩方付の工角ナデ、ナデ 斜方向のミガキ ス付着	横ナデ ミガキの後ナデ	にい黄	深灰	3.5mm以下の褐・黑・灰白色粒 1mm以下の黑色光沢粒		
204	陶生土器	毫 脚部	SA24		18.2		ミガキ ナデ 黒斑	横ナデ 斜方向のナデ 工具類	浅黄	にい黄	3mm以下の灰白・乳白・灰褐色 粒、微細な光沢粒		
205	陶生土器	毫 口縁・脚部	SA25				ナデ、口縁端面に凹線 ハケ日	斜方向のハケ日後横ナ デ	浅黄	にい黄	1mmの黒斑・灰褐色 1mm以下の透明・黑色光沢粒		
206	陶生土器	毫 口縁・脚部	SA25				横ナデ ナデ 斜方向のハケ日、黒斑	横・斜方向のナデ 付着	浅黄	灰白	3mm以下の白・灰褐色 粒		
207	陶生土器	毫 口縁部	SA25				横ナデ ミガキ ス付着	横ナデ 丁寧なナデ	灰黄	浅黄	2mm以下の灰・黑色粒		
208	陶生土器	毫 受部	SA25				横ナデ ス付着		にい黄		3mm以下の灰・灰白色粒 微細な透明光沢粒		
209	陶生土器	毫 脚部	SA25				斜方付のハケ日、横ナデ 端み日縫付突起、ス 付着	ナデ 黒斑	灰黄	灰黄	にい黄 灰	4mm以下の灰・灰白色粒 微細な透明光沢粒	
210	陶生土器	毫 口縁部	SA25				綫方向のミガキ	横ナデ	にい黄	にい黄	2mm以下の乳白・灰白色		
211	陶生土器	毫 口縁部	SA25				口縁端面に凹線 ナデ、工具類	付着突起 ナデ、ス付着	にい黄	にい黄	3mm以下の褐・乳白色粒 透明・黑色光沢粒		
212	陶生土器	毫 口縁部	SA25				ナデ ス付着	ナデ	にい黄	にい黄	4mm以下の白・褐・灰黄色 黒褐色光沢粒		
213	陶生土器	毫 口縁部	SA24				ナデ ス付着	ナデ	にい黄	にい黄	3mm以下の白・褐・灰黄色 黒褐色光沢粒		
214	陶生土器	毫 用部	SA25				斜方付のハケ日、横ナ デ		明黄	浅黄	2mm以下の灰・褐 2mm以下の乳白色粒		
215	陶生土器	毫 肩部	SA25				ハケ日 横縫状付文 ス付着	ナデ	にい黄	程	2mm以下の褐・灰・褐色 微細な透明・半透明白色光沢粒		
216	陶生土器	毫 肩部	SA24				ハケ日 横縫状付文 ス付着	ナデ	にい黄	程	微細な灰・乳白色粒 透明・半透明白色光沢粒		
217	陶生土器	毫 底部	SA25		8.8		綫方向のハケ日 ナデ	工具ナデ	にい黄	にい黄	2mm以下の乳白・灰・黑色粒		
218	陶生土器	毫 肩部	SA26				ミガキ 端み日縫付突起	ナデ 黒斑	程	浅黄	2mm以下の褐・褐灰色 粒		
219	陶生土器	毫 底部	SA26		(7.6)		綫方向のハケ日 ナデ	ナデ	にい黄	程	4.5mm以下の灰白・褐 4mm以下の褐色・にい 褐色		
220	陶生土器	毫 口縁部	SA27				口縫端面に凹線 ナデ、工具類	ナデ ス付着	明赤	明赤	3mm以下の黄・浅黄・ 灰黄色粒		

第8表 出土土器観察表(8)

通 番 号	種 別	器 種 部 位	出 土 地 点	法 量(cm)			手法・調整・文様ほか		色 調		地 土 の 特 徴	備 考
				口 徑	底 径	器 高	外 面	内 面	外 面	内 面		
222	弥生土器	東 口縁部	SA27				貼付安寄 斜方向のハケ日 ナデ、スス付着	横ナデ ナデ スス付着	灰黄	にぶい黄	1mm以下の褐色紋	
223	弥生土器	東 口縁部—胴部	SA27 (14.1)				被方向のハケ日後ミガキ ナデ、黒斑	横・斜方向のハケ日 指屈痕 ナデ	にぶい黄	にぶい橙	2mm以下の灰・乳白・黑色紋	
224	弥生土器	東 胴部—底部	SA27	3.85			能力方向の工具ナデ、風呂 呑方向のハケ日後丁度 なナデ	縱方向の工具ナデ 指屈痕、黒斑	にぶい黄	にぶい黄	4mm以下の黑・褐・乳白色紋	
225	弥生土器	東 縁部	SA27	(18.4)			ミガキ 横ナデ	ハケ日 黒斑	にぶい黄	にぶい黄	精良	
226	弥生土器	東 口縁部—胴部	SA28 (20.4)				ナデ、口縁溝に沈線 三条の貼付安寄 スス付着	ナデ	にぶい黄	橙	2mm以下の灰・褐色紋、黑色光沢 紋	
227	弥生土器	東 口縁部	SA28				横・斜方向のナデ 口縁溝に起み日	横・斜方向のナデ 指屈痕	にぶい黄	にぶい黄	3mm以下の褐灰・浅黄綠・灰褐色 紋	
228	弥生土器	東 口縁部	SA28				剥み日付粘突端 ナデ	ナデ	橙	橙	2mm以下の灰白・褐色紋	
229	弥生土器	東 口縁—胴部	SA28 (15.0)				縱方向のハケ日、横ナ デ、スス付着	前方向のハケ日 横ナデ	にぶい黄	にぶい黄	2mm以下の浅黄・褐色光沢 紋様と透明・黒色光沢紋	
230	土 器	東 口縁—胴部	SA28				平行タキ ナデ 黒斑、スス付着	ナデ 黒斑	にぶい黄	にぶい黄	2mm以下の乳白・灰色紋	
231	弥生土器	東 肩台部	SA28	(8.6)			貼付安寄 ナデ	ナデ	浅黄 橙	暗黄	2mm以下の灰・乳白色 黑色光沢紋	
232	弥生土器	東 底部	SA28	(6.2)			ナデ 黒斑 スス付着	ナデ 指屈痕 黒斑	にぶい黄	浅黄	4mm以下の乳白・灰・黃褐色 黑色光沢紋	
233	弥生土器	東 底部	SA28	(6.8)			粗いナデ	ハケ日、附ナデ ナデ	灰黄	灰黄	4mm以下の黑・乳白・灰色紋	
234	弥生土器	東 底部	SA28	5.6			横・斜方向の平行タキ ナデ スス付着	丁寧なナデ 工具 黒斑	灰黄	にぶい黄	5mm以下の灰白・灰・灰 黑色 2mm以下の黑色光沢紋	
235	弥生土器	東 側面—底部 付付	SA28				縱方向のハケ日 指屈痕 黒斑	縱方向のハケ日 黒斑	にぶい黄	青灰	5mm大的黒斑・灰褐色 2mm以下の乳白・灰色紋	
236	弥生土器	東 口縁部	SA28				織維状文 ナデ	ナデ	橙	にぶい黄	1mm以下の乳・灰色紋	
237	弥生土器	東 底部	SA28				織維状文 ナデ 指屈痕	ナデ	にぶい黄	にぶい黄	4mm以下の灰・褐色紋 2mm以下の黑色光沢紋	
238	弥生土器	東 底部	SA28				縱方向のハケ日 横ナデ	枯木の織ぎ目 ナデ	浅黄	にぶい黄	2mm以下の黑・灰色紋	
239	弥生土器	東 底部	SA28				ミガキ ハケ日	ハケ日	にぶい黄	浅黄	1mm以下の灰・褐・白色紋	
240	弥生土器	東 底部	SA28 SA23 (DA.4)				ミガキ、ナデ	ミガキ 黒斑	暗黄	明黄	4mm以下の灰白・黃褐色	
241	弥生土器	東 底部	SA28				ミガキ	ミガキ 黒斑	にぶい黄	にぶい黄	精良	
242	弥生土器	東 底部	SA28				縱方向のハケ日後・部 ミガキ 凹削かし	縱方向の指ナデ	浅黄	浅黄	4mm以下の黑・灰・乳白・黑色 微細な透明・半透明・黑色光沢紋	
243	弥生土器	東 底部	SA28				縱方向のナデ ナデ 指屈痕	ナデ 指屈痕	浅黄	にぶい黄	3mm以下の乳白・黑・灰色紋	
244	弥生土器	東 底部	SA28				ハケ日の後ミガキ ナデ	継り ナデ	浅黄	浅黄	3mm以下の乳白・褐色紋	
245	弥生土器	東 底部	SA28 (21.5)				縱・斜方向のミガキ 被方向のハケ日後ミガキ ナデ	横・斜方向のハケ日 指屈痕 ナデ	にぶい黄	橙	2mm以下の黑・灰・褐色 微細な透明・黑色光沢紋	
246	弥生土器	東 底部	SA28 (11.1)				田縫 ナデ	ナデ	にぶい黄	浅黄	3mm以下の乳白・黑・灰色紋	
247	弥生土器	東 底部	SA28				ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	2mm以下の灰色紋	
248	弥生土器	東 底部	SA28				ハケ日の後ナデ 横ナデ	横方向のハケ日	橙	にぶい黄	2mm以下の灰色紋	
249	弥生土器	東 底部	SA28				縦・斜方向のハケ日	横・斜方向のハケ日	にぶい黄	にぶい黄	2mm以下の黑・灰・褐色 微細な透明・黑色光沢紋	
250	弥生土器	東 底部	SA28	6.1			ハケ日の後ナデ 横ナデ スス付着	ナデ 黒斑	にぶい黄	にぶい黄	4mm以下の灰白・乳白・灰・褐色 微細な透明・黑色光沢紋	
251	弥生土器	東 底部—底部	SA28 (14.4)	5.95	12.1		横ナデ、指屈痕 横・斜方向のナデ 黒斑	ハケ日の後ナデ 横・斜方向のハケ日 ナデ、指屈痕	にぶい黄	にぶい黄	3mm以下の黑・褐・灰白色紋	

第9表 出土土器観察表(9)

遺物 番号	種別	基準 部位	出土 場所	法 量(cm)			手法・調整・文様等		色 調		地 下 の 特 徴	備 考		
				口 径	底 径	器 高	外 面		内 面					
							外 面	内 面	外 面	内 面				
252	灰水土器	鉢 口縁-底部	SA28	(12.3)	(6.3)	9.1	円錐形-直線 ナデ、ナデ 直線の引き 黒斑	ナデ	に赤い黄緑 に赤い黄緑	に赤い黄緑 に赤い黄緑	5mm以下の灰白、灰、黒、灰黄緑 1mm以下の金色、黒色光沢絵			
253	灰生土器	鉢 底部	SA28		(2.95)		板方向のハケ目 ナデ 黒斑	ナデ 黒斑	に赤い黄 に赤い黄	に赤い黄 に赤い黄	2mm以下の灰、灰青、乳白色絵 鐵絵な半透明、黑色光沢絵			
254	灰生土器	鉢 底部	SA28		1.05		ナデ 黒斑	ナデ 黒斑	に赤い黄 に赤い黄	に赤い黄 に赤い黄	4mm以下の灰白、暗褐色絵			
255	灰生土器	盤 底部	SA28		(4.5)		ナデ	ナデ	橙 浅黄	橙 浅黄	5mm以下の灰、乳白、黑色絵			
256	灰生土器	盤 底部	SA28		(2.5)		ナデ 黒斑	ナデ	浅黄	浅黄	3mm以下の灰、乳白色絵、黑色光 沢絵			
259	土器	壺 底部-側部	SA30				ナデ。平行タキ 黒斑、スズ付着	指痕痕、横ナデ	に赤い黄緑 に赤い黄緑	に赤い黄緑 に赤い黄緑	3mm以下の褐、灰色絵、光沢絵			
260	灰生土器	壺 底部	SA30		4.7		斜方向のナデ 指痕痕、黒斑	斜方向のハケ目 ナデ	に赤い黄緑 に赤い黄緑	に赤い黄緑 に赤い黄緑	3mm以下の茶褐色絵			
261	灰生土器	壺 底部	SA31				横ナデ、斜方向の崩れ 日々(赤目)付 スズ付着	横ナデ、ナデ 黒斑痕	褐斑	褐斑	2mm以下の灰白、灰、褐色絵			
262	灰生土器	壺 底部	SA31		4.0		斜方向のハケ目 ナデ、スズ付着	斜方向のハケ目 ナデ	浅黄斑 に赤い黄緑	浅黄斑 に赤い黄緑	3mm以下の灰白、灰、黒、非褐色 絵、1mm以下の光沢光沢絵			
263	灰生土器	壺 底部	SA31		(2.4)		斜方向のハケ目 ナデ	ナデ	に赤い黄緑 に赤い黄	に赤い黄 に赤い黄	4mmの大粒白 3mm以下の灰、黒、非褐色絵			
264	灰生土器	高环 耳部	SA31				ミガキ 丁寧なナデ	ナデ	に赤い黄 に赤い黄	に赤い黄 に赤い黄	3mm以下の褐、乳白、灰色絵			
265	灰生土器	高环 耳部	SA31				ナデ、斜方向のハケ目 凹透かし 黒斑	斜方向の凹透ナデ、横ナ デ 指痕痕、工具痕	浅黄斑 に赤い黄 に赤い黄	浅黄斑 に赤い黄 に赤い黄	3mm以下の灰白、灰、黒、非褐色 絵、0.5mm以下の透明光沢絵			
266	灰生土器	高环 耳部	SA31				ハケ目の後と ガキ ガキ方向の凹透	ハケ目の後ナデ	に赤い黄 に赤い黄	に赤い黄 に赤い黄	4mm以下の褐色絵 2mm以下の乳白色絵			
267	灰生土器	壺台 側部	SA31				凹透かし、斜方向のハ ケ目 横ナデ、スズ付着	ハケ目の後横ナデ	浅黄 明黄	浅黄 明黄	2mm以下の褐、灰、乳白色絵 透明、黑色光沢絵			
268	灰生土器	壺台 側部	SA31				比較円文、円形透かし 輪目、黒斑	横・斜方向の日々 三段ナデ、斜方向の横ナ デ ナデ	に赤い黄 に赤い黄	に赤い黄 に赤い黄	1.5mm以下の褐色絵 1mm以下の透明光沢絵			
269	灰生土器	壺台 側部	SA31				比較円文、円形透かし 輪目、黒斑	横・斜方向のハケ目 工具痕 黒斑	浅黄 世	浅黄 世	3mm以下の褐色絵 1mm以下の灰、透明光沢絵			
270	灰生土器	体 口縁-側部	SA32	(16.0)			横ナデ、ナデ スズ付着	ナデ、指痕痕	黄褐色	に赤い黄 に赤い黄	3mm以下の黄褐色 灰白色絵			
271	灰生土器	高环 口縁部	SA32				ナデ	ナデ	浅黄 灰斑	浅黄 灰斑	1mm以下の褐、灰白色 絵透明			
272	灰生土器	高环 口縁部	SA32				ハケ目の後ナデ	ミガキ 日々 横ナデ	橙 に赤い黄 に赤い黄	橙 に赤い黄 に赤い黄	2mm以上の乳白、褐、灰褐色 絵、黑色光沢絵			
273	土器	壺 高环 耳部	SA32				崩り状ナデ 指痕痕	横ナデ 工具痕 黒斑	に赤い黄 に赤い黄	に赤い黄 に赤い黄	7mm以下の褐、白色絵 4mm以下の乳白、黑色絵 1mm以下の透明、黑色光沢絵			
274	灰生土器	壺 底部	SA34				斜方向のハケ目 ナデ	ナデ 工具痕	に赤い黄 に赤い黄	に赤い黄 に赤い黄	1.5-3mmの灰、褐、灰 乳白色絵			
275	灰生土器	高环 口縁部	SA34				ナデ、斜方向のミガキ	橙、斜方向のミガキ	橙 橙	橙 橙	1mm以下の褐、乳白色絵、黑色光 沢絵			
276	土器	高环 耳部	SA32				斜方向のハケ目 横ナデ	斜方向の横ナデ 横ナデ	に赤い黄 に赤い黄	浅黄	3mm以下の灰白、灰、赤褐色 絵			
277	灰生土器	壺 口縁-側部	SA32	(18.0)			ナデ、横ナデ、指痕痕 凹透かし、スズ付着	ナデ、指痕痕	に赤い褐 に赤い褐	に赤い褐 に赤い褐	4.5mm以上の赤褐色 3mm以下の非褐、灰、灰黃、淡 褐、灰褐色			
278	灰生土器	壺 口縁部	SA32				口縁部に裂み目 糊み目貼付青帯 ナデ、横ナデ	横 横 横	に赤い褐 に赤い褐 に赤い褐	に赤い褐 に赤い褐 に赤い褐	3mm以下の赤褐色 1mm以下の灰白色絵			
279	灰生土器	壺 口縁部	SA32				口縁部に裂み目 糊み目貼付青帯 横ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ 横	に赤い褐 に赤い褐	に赤い褐 に赤い褐	5mm以下の灰黄、灰白、淡 褐色 に赤い褐色			
280	灰生土器	壺 口縁部	SA32				口縁部に裂み目 糊み目貼付青帯 横ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ 横	に赤い褐 に赤い褐	1-2mmの灰白、洪黄色絵				
281	灰生土器	壺 口縁部	SA32				口縁部に裂み目 糊み目貼付青帯 横ナデ、横ナデ	ナデ、指痕痕	灰	灰	5mm以下の灰黄、灰白、淡 褐色 に赤い褐色			
282	灰生土器	壺 口縁部	SA32				口縁部に裂み目 糊み目貼付青帯 横ナデ、横ナデ	ナデ	灰 灰	2mm以下の浅黄、 に赤い褐色				
283	灰生土器	壺 口縁部	SA32				口縁部に裂み目 糊み目貼付青帯 横ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ 横	5mm大の赤褐色 5mm以下の灰白、灰白					
284	灰生土器	壺 口縁部	SA32				ナデ、糊み目貼付青帯 ナデ	ナデ	灰 灰	2mm以下の褐色絵、透明 8mm大の赤褐色 1.5mmの灰白色絵				

第10表 出土土器観察表(10)

造者 番号	種別	基 盤 地 点	出 土 地 点	法 量(cm)			手法・調整・文様はか		色 調		胎 土 の 性 質	備 考
				口 径	底 径	器 高	外 面	内 面	外 面	内 面		
285	弥生土器	東 口縫部	S3	(19.7)			ナデ、横方向のハケ目 貼付跡や付着 スス付着	ナデ、指痕痕	灰黄	暗灰青	3 mm以下の褐色 2.5mm以下の乳白色 0.5mm以下の黒色・透明光沢	
286	弥生土器	東 口縫部	a.6直唇				ナデ、横ナデ 糊み目貼付突起	横ナデ	暗灰黄	暗灰青	2 mm以下の灰・灰・黒色 微細な透明・黒色光沢	
287	弥生土器	東 口縫部	a.2直唇				横方向のハケ目 糊ナデ、糊み目貼付突起 スス付着	ナデ	橙	橙	2 mm以下の灰・灰・黒色 微細な透明・黒色光沢	
288	弥生土器	東 口縫部	a.3直唇				ナデ、糊み目貼付突起 黒底	ナデ、黒底 指痕痕	明黄褐	明黄褐	2 mm以下の半透明光沢 灰・灰青・乳白色	
289	弥生土器	東 口縫部		(15.0)			ナデ、横ナデ、貼付突 起	横ナデ	浅黄褐	浅黄褐	2 mm以下の乳白色 1 mm以下の褐色	
290	弥生土器	東 口縫部					糊ナデ、横方向のハケ目 糊み目貼付突起、スス 付着	ナデ 指痕痕	暗灰青	に赤い黄	2~3 mmの灰・淡黄・乳白色	
291	弥生土器	東 口縫部	a.7直唇				口縫部間に剥み目 糊ナデ、横方向のハケ目	ナデ	に赤い黄	橙	2 mm以下の灰白・青・赤褐色 4 mm以下の灰白・褐色	
292	弥生土器	東 口縫部	a.5直唇	(21.8)			横ナデ 貼付突起	ハケ日の後ナデ	に赤い黄	橙	7 mm以下の褐色 3 mm以下の乳白色 微細な光沢	
293	弥生土器	東 口縫部	a.5直唇	(26.5)			ナデ、横方向のハケ目 糊ナデ、横方向のハケ目	横方向のハケ目、指痕 痕	浅黄	浅黄	3 mm以下の褐・灰色 微細な透明光沢	
294	弥生土器	東 口縫部	a.5直唇	(24.4)			ナデ、山形部に凹凸 ハニカ基の横ナデ、剥み目 貼付突起	ナデ、黑底	浅黄	灰黄	3 mm以下の灰・黑・褐色	
295	弥生土器	東 完形	a.6直唇	(27.95)	(5.3)	30.5	ナデ、横方向のナデ 2.5mm以下の褐色 糊ナデ、糊付着 スス付着	ナデ、横方向の工具ナ デ 指痕痕、黑底	に赤い黄	橙	4 mm以下の褐・灰・黑・に赤い黄 褐色 2 mm以下の褐色光沢	
296	弥生土器	東 口縫部	S2	(26.4)			ナデ、糊み目貼付突 起スス付着	ナデ	灰黄褐	に赤い黄	3.5 mm以下の褐色 1.5 mm以下の乳白色	
297	弥生土器	東 口縫部	ハイレ キグン	(32.85)			ナデ、口唇部に凹凸 貼付突起	ナデ	浅黄 灰黄	浅黄	3 mm以下の灰・乳白・褐色 3 mm以下の黑色光沢	
298	弥生土器	東 口縫部	S2	(19.2)			横ナデ、口縫部間に二 条の切削 黒底	横ナデ、黑底	に赤い黄	褐	2 mm以下の白色	
299	弥生土器	東 口縫部	a.6直唇	(24.0)			ナデ、ハケ日、スス付 着	ナデ、ハケ日、スス付 着	に赤い橙	橙	5 mm以下の褐・灰白色 1 mm以下の黑色光沢	
300	弥生土器	東 口縫部	a.5直唇	(25.7)			ナデ	ナデ、ハケ日	に赤い黄	橙	3 mm以下の灰白・灰黄色	
301	弥生土器	東 口縫部	a.8直唇	(19.2)			横ナデ、横・横方向の ハケ日 糊痕痕、スス付着	ナデ、横・横方向のハ ケ日 粘土の織目	に赤い黄	橙	4 mm以下の褐色 3 mm以下の黒・灰白色	
302	土 器	東 口縫部	ハイレ キグン	(16.5)			横ナデ、平行タキナ 糊ナデ	横・横方向のナデ	に赤い黄	褐	5 mm以下の褐色	
303	土 器	東 口縫部	a.7直唇	(15.5)			横・横方向のナデ 指痕痕	横方向のナデ、スス付 着	浅黄	に赤い黄	4 mm以下の赤褐色 2 mm以下の灰白・灰・非褐色	
304	土 器	東 口縫部	豆嘴	(22.95)			平行タキナ 糊ナデ、黑底	ナデ、横ナデ、黒底 粘土の織目	に赤い黄	褐	7 mm以下の褐・黑・乳白色 2 mm以下の黑色・黑色光沢	
305	土 器	東 口縫部	a.5直唇	(19.6)			ナデ、指痕痕、工具痕 黑底	ナデ、指痕痕、工具痕 黑底	浅黄	に赤い黄	4 mm以下の褐・黑・乳白色 1 mm以下の黑色・透明光沢	
306	土 器	東 口縫部	a.5直唇	(26.75)			横ナデ、平行タキナ スス付着	横・横方向のナデ 指痕痕	灰黄褐	に赤い黄	2 mm以下の褐色 1.5 mm以下の黑色光沢	
307	土 器	東 口縫部	ハイレ キグン	(14.3)	(4.0)	21.3	ナデ、横方向の平行タ キナ 糊ナデ、織目	ナデ、粘土の織目 指痕痕	に赤い黄	褐	5.5 mm以下の褐色 4 mm以下の白色 2 mm以下の黑色光沢	
308	弥生土器	東 西台部	ハイレ キグン		(5.6)		ナデ、指痕痕	ナデ、指痕痕	に赤い黄	橙	4 mm以下の灰白・灰 透明光、6 mm以下の灰褐色 1 p	
309	弥生土器	東 底部	豆嘴		(3.6)		ナデ、指痕痕、黑底	ナデ、黑底	に赤い黄	黑	5 mm以下の褐・灰・乳白色 1 mm以下の透明光沢	
310	弥生土器	東 底部	a.5直唇		(9.0)		ナデ、横方向のハケ日	ナデ	に赤い黄	橙	3 mm以下の灰・乳白・黑色	
311	弥生土器	東 底部	a.5直唇		(8.3)		ナデ、横方向のハケ日 黑底	ナデ	に赤い黄	橙	4 mm以下の黑・灰・灰黃 1 mm以下の企水紋	
312	弥生土器	東 底部	a.5直唇		7.06		ナデ、横方向のハケ日	ナデ	明黄褐 灰黄褐	明黄褐	6 mm以下の黑色 5 mm以下の灰・灰・乳白色 2 mm以下の白・褐色	
313	弥生土器	東 底部	a.5直唇		(5.5)		ナデ、一部横ナデ	ナデ	橙	に赤い黄	5~6 mmの灰・灰青・灰白 4 mm以下の黑色	
314	弥生土器	東 底部	ハイレ キグン		(5.6)		横・横方向のミガキ 指痕痕、黑底	ナデ	に赤い黄	褐	0.5~1 cmの褐・灰青・灰白 浅黄褐色	

第11表 出土土器觀察表(1)

遺物 番号	種別	器・構 成部	出士 地點	法 量(cm)		手法・調整・文様ほか		色 調		胎土の特徴	備考		
				口徑	底 径	器 高	外 面	内 面	外 面	内 面			
315	弥生土器	壺 底盤	ハイテン キダン	(6.85)		ナデ、横ナデ、帯模 版、スヌ付着	ナデ		に赤い黄緑 に赤い	周灰	2mm以下の灰・黄緑・黒褐色		
316	弥生土器	壺 底盤	c.5ⅹ幅	7.85		ナデ、横ナデ 拘束版	ナデ、黒安		に赤い黄緑 に赤い	灰青	4mm以下の灰・灰・黒褐色		
317	弥生土器	壺 底盤	c.8ⅹ幅	(6.0)		ナデ、工具ナデ	ナデ		浅黄 に赤い黄緑	3~7mmの場・灰・乳白色 1mm以下の場・乳白色、透明光沢			
318	弥生土器	壺 底盤	c.1ⅹ幅	(8.0)		ナデ、指頭痕	ナデ、工具痕	浅黄 に赤い	浅黄 に赤い黄緑	5mm以下の灰乳・灰乳・乳白・褐 色斑、黑色光沢			
319	弥生土器	壺 底盤	c.3ⅹ幅	5.3		ナゲ、新方向のハケ目	前方へのハケ目 指頭痕、黒安		に赤い黄緑	暗灰	5mmの大粒色斑 2mm以下の灰・灰白・黒・黒褐色 斑		
320	弥生土器	壺 底盤	c.5ⅹ幅	(4.2)		ナデ、指頭痕 スヌ付着	ナデ、黒安	灰青	灰青	2mm以下の乳白・灰绿色			
321	弥生土器	壺 底盤	c.7ⅹ幅	(6.4)		ナデ、ハケ日 丁寧なナデ	ナデ 黑度	灰青	灰青	1~4mmの浅黄・灰白・灰褐色			
322	土 壁 錠	壺 底盤	ハイテン キダン	(5.3)		電いナデ 前方向の平行タキ 黒度	ナデ、曲ナデ 黒度	に赤い黄緑	浅黄	5mm以下の白色斑、2.5mm以下の 黒・乳白色、1mm以下の黒・透 明光沢			
323	土 壁 錠	壺 底盤	四層	5.95		前方向の平行タキ	ナデ、前方向の工具痕 指頭痕	に赤い	桜	2mm以下の白・灰・灰乳・褐 色斑			
324	土 壁 錠	壺 底盤	ハイテン キダン	(2.5)		平行タキ、ナデ	ナデ、指頭痕	浅黄	に赤い黄緑	6mm以上の白色斑 4mm以下の白・灰乳・灰 色斑、2mm以下の黒・透 明光沢			
325	土 壁 錠	壺 底盤-底盤	L5ⅹ幅			丁寧なナデ、ナデ、黑 安 スヌ付着	ナデ、粘土の継ぎ日 黒度	灰黑 に赤い黄緑	浅黄	6mm以上の白・灰 色斑、3.5mm以下の色斑 1mm以下の黒・透 明光沢			
326	土 壁 錠	壺 底盤-底盤	L5ⅹ幅			絞り向のナデ、丁寧な ナデ スヌ付着	丁寧なナデ、脂頭痕 黒度	に赤い黄緑	浅黄	4mm以下の場・白・ 乳白色 2mm以下の黒・透 明光沢 1mm以下の透明光沢			
327	弥生土器	壺 口盤	L4ⅹ幅	(18.0)		口縁端面に二条の凹版 模ナデ	模ナデ	に赤い黄緑	2mm以下の乳白・ 黒褐色				
328	弥生土器	壺 口盤	c.6ⅹ幅	(21.5)		口縁端面に凹版 ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	粗良			
329	弥生土器	壺 口盤	c.2ⅹ幅	(18.1)		ナデ 前方向のハケ目の後ナ 黒度	前方へのハケ目の後ナ 黒度	に赤い黄緑	浅黄	2mm以下の白・ 乳白色 機械的透明光沢			
330	弥生土器	壺 口盤	c.3ⅹ幅	(15.2)		ナデ 模ナデ	ナデ	灰青	灰青	3mm以下の乳白・灰・ 黒褐色 1mm以下の透明光沢			
331	弥生土器	壺 口盤-底盤	d.6ⅹ幅	(18.0)		口縁端面に凹版 前方のハケ目の後ナ 黒度 ナデ	ナデ 黒度	浅黄	浅黄	4mm以下の場・乳白・ 灰褐色			
332	弥生土器	壺 口盤	d.3ⅹ幅			模・前方向のナデ、ミ カキ 二造の貼付突合	模ナア	桜	桜	4mm以下の黒色斑、2mm以下の灰 白色、微細な光沢			
333	弥生土器	壺 口盤-底盤	SC5			模・前方向のナデ 貼付突合・指頭痕	ナデ、指頭痕 前方へのハケ目、黒度	に赤い	桜 灰青	3mm以下の場・灰・ 灰白色			
334	弥生土器	壺 底盤	d.5ⅹ幅			前方へのハケ目後ナ 模ナデ、貼付突合	ナデ	に赤い黄緑	浅黄	1~5mmの場・ 黒褐色			
335	弥生土器	壺 底盤	c.6ⅹ幅			ハケ目、模ナデ 貼付突合突安	ナデ、指頭痕、黒安	桜	に赤い黄緑	4mm以下の白・ 黒褐色			
336	弥生土器	壺 底盤	L4ⅹ幅			ナデ、前方向の平式打 模方の凹版	ナデ、黒安	桜	桜 模	2~4mmの後灰斑、透 明光沢 1mm以下の白・ 乳白色			
337	弥生土器	壺 底盤	c.4ⅹ幅			前方へのハケ目後ナ 模方の二造の凹版	前方へのハケ目	に赤い黄緑	浅黄	1mm以下の白・ 黒褐色			
338	弥生土器	壺 底盤	c.5ⅹ幅			ハケ目、ナデ 模方の二造の凹版	前方へのハケ目	に赤い黄緑	灰青	1mm以下の乳白色			
339	弥生土器	壺 底盤	SC3			模・前方の組み貼 付突合、前方のハケ目 後ナデ、スヌ付着	丁寧なナデ 指頭痕	桜	灰青	3mm以下の場・灰・ 灰褐色			
340	弥生土器	壺 底盤	L4ⅹ幅			口縁部に凹版 模ナデ	模ナデ	桜	に赤い黄緑	明青	1.5~4mmの場・ 灰青・乳白色 1mm以下の透明光沢		
341	弥生土器	壺 底盤	c.3ⅹ幅			口縁部に凹版 模ナデ	模ナデ	桜	に赤い黄緑	明青	2mm以下の場・乳白色		
342	弥生土器	壺 底盤	c.4ⅹ幅			指頭痕状、模ナデ スヌ付着	模ナデ	桜	に赤い黄緑	明青	3mm以下の場・ 乳白色		
343	弥生土器	壺 底盤	c.6ⅹ幅			指頭痕状、ナデ スヌ付着	ナデ	に赤い黄緑	明青	3mm以下の場・灰・ 灰褐色			
344	弥生土器	壺 底盤	c.9ⅹ幅	(30.0)		模ナデ、浅い模版 前方のハケ目、ス ヌ付着	模ナデ 前方のハケ目	に赤い	桜	4.5mm以下のに赤い 灰・乳白色 1mm以下の黒褐色		複合口 複合	

第12表 出土土器観察表(12)

連番 番号	種別	跡 面	出 土 地 点	法 畳(m)	手すり・調整・文様ほか		色 製		地 土 の 特 徴	備考		
					口 深	底 径	器 高	外 面	内 面			
345	弥生土器	登 口縁部	6.3畳場					横ナガの後縫方向のミガキ、黒度	斜・横方向のミガキ にぶい黄緑	にぶい黄緑	3mm以下の黒褐色、1.5mm以下の乳白・赤褐色	
346	弥生土器	登 口縁部	4.5畳場 (15.3)					ナダ、貼付突起	ナダ	穂	穂	0.5~1mmの浜白・穂・波状粒
347	弥生土器	登 口縁一肩部	3畳場 (5.5)					横ナダ、ハケ目 丁寧なナダ	横ナダ、指ナダ にぶい黄緑	浅黄緑	4.5mm以下の褐色、1.5mm以下の黒色・透明白光沢	
348	弥生土器	登 口縁部	4.6畳場 (12.2)					横・斜方向のナダ	横ナダ、斜方向のハケ目	穂	穂	1.5mm以下の褐色、1mm以下の黒色光沢粒
349	弥生土器	登 口縁部	ハイレ キン					横ナダ、瓶方向のハケ目	ナダ、脂痕底	浅黄	浅黄	1.5mm以下の浜白・暗褐色
350	弥生土器	登 口縁部	ハイレ キン					ナダ、横方向のハケ目	ナダ	浅黄	浅黄	1mm以下の黄緑・暗褐色
351	弥生土器	登 口縁一側部	1.3畳場 ハイレ キン	(14.0)				横方向の丁寧なナダ スス付着	横・斜方向の丁寧なナダ ナダ	にぶい穂	にぶい穂	3mm以下の浜白・褐色
352	土 砧	西 亂拂一側部	4.3畳場					平行タキ、ナダ、粘 土の付着、黒度	ナダ、脂痕底	浅黄 灰黄	浅黄 透明白光沢	6mm以下の褐色、3mm以下の乳 白色、黑色光沢粒、1mm以下の 透明光沢粒
353	土 砧	西 亂拂一側部	4.2畳場 ハイレ キン	(7.9)				ナダ、ミガキ 斜方向の平行タキ、 スス付着	ナダ、脂痕底	にぶい黄緑	にぶい黄緑	4mm以下の褐色、微細な透明・ 暗色光沢粒
354	弥生土器	登 底部	6.8畳場		5.1			平行タキの後ナダ、 工具ナダ 脂痕底	工具ナダ 脂痕底	にぶい黄	にぶい黄緑	4~5mmの浜・灰・暗褐色 5mm以下灰・灰・乳白色 5mm以下黑色光沢
355	弥生土器	登 底部	4.5畳場		(9.7)			斜方向のミガキ ナダ	ナダ	にぶい黄緑 黄灰	浅黄 黄灰	3mm以下の黑・乳白・灰色 透明白光沢
356	弥生土器	登 底部	ハイレ キン		(7.25)			ナダ、指痕	丁寧なナダ 突出	浅黄底	にぶい黄緑	1mm以下の褐色、1mm以下の黑 色・透明白光沢
357	土 砧	東 亂拂一側部	2.3畳場 +3畳場	(5.6)				ミガキ 鉤方向の平行タキ 工具底、スス付着	ナダ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	4mm以下の灰・乳白色 鉤方向の透明・黑色光沢粒
358	弥生土器	登 底部	c. 6畳場		(6.2)			ミガキ、ナダ	ハケ目、ナダ	灰	灰	4mm以下の灰・2mm以下の乳 白・灰・浅黄色
359	弥生土器	登 底部	4.6畳場		(4.6)			ハケ目、丁寧なナダ ナダ、黒度	ナダ	にぶい穂	にぶい穂	4mm以下の灰・黑色 微細な透明白光沢
360	弥生土器	登 底部	4.5畳場		(7.4)			ナダ 丁寧なナダ	風化して調査不明	穂	穂	4mm以下の乳白・褐色
361	弥生土器	登 底部	c. 5畳場		(4.5)			斜方向の平行タキ 黒度	ナダ	浅黄 灰	浅黄 透明白	4mm以下の乳白・灰・褐色
362	弥生土器	登 底部	6.4畳場		(2.8)			瓶方向のナダ、新方向 工具による斜方向のナ ダ	工具による斜方向のナ ダ	にぶい黄緑	にぶい穂	2mm以下の灰・黑色 1mm以下の透明・黑色光沢
363	弥生土器	登 底部	c. 3畳場		(6.8)			ミガキ 丁寧なナダ 黒度	ミガキ、丁寧なナダ 脂痕底、黒度	浅黄 灰	オーブル 透明白	1~2mmの乳白・透明白 0.5mm以下の透明・黑色光沢粒364
364	弥生土器	登 底部	3畳場		(4.8)			工具ナダ、脂痕底 丁寧なナダ	ナダ、黒度	にぶい黄緑 にぶい穂	黑	4mm以下の乳白・褐色
365	弥生土器	登 底部	c. 4畳場		(3.7)			平行タキ 黒度	ナダ 脂痕底	浅黄	黄灰	9mm褐色 4mm以下の灰・乳 白色、2.5mm以下の黑色光沢 粒、1.5mm以下の透明白光沢
366	弥生土器	高环 脚柱部	6.4畳場					ミガキ	ミガキ	にぶい穂	にぶい黄緑	精良
367	弥生土器	高环 脚柱部	6.5畳場					ミガキ、ハケ目、助 突帯	ナダ、ミガキ	にぶい穂	にぶい黄緑	精良
368	弥生土器	高环 脚柱部	6.3畳場					縦方向のミガキ 横方向の沈版文 黒度	ナダ	浅黄 灰	灰白	2mm以下の灰・黒褐色
369	弥生土器	高环 脚柱部	c. 5畳場					横ナダ、ハケ目、沈版 ミガキ	丁寧なナダ	黄灰	浅黄 灰	3mm以下の灰・黒・褐色
370	弥生土器	高环 脚柱部	5.2					横ナダ、瓶・斜・新方向 のハケ目 貼付突起	ナダ、黒度 瓶・斜・新方向のハケ目 貼付突起	にぶい黄緑 脂痕底	浅黄 灰	1.5mm以下の灰・白・黒・褐 色光沢
371	弥生土器	高环 脚柱部	c. 4畳場					縦方向のナダ 内張れかし	ナダ	にぶい黄緑	にぶい黄緑 灰	1.5mm以下の灰・白・黒・褐 色光沢
372	弥生土器	高环 脚柱部	c. 6畳場					瓶方向のミガキ、指 痕底 円形透かし	開口の後ナダ	豊 黑場	豊 穂	3mm以下の黒褐色 1mm以下の白色光沢 微細な光沢粒
373	弥生土器	高环 脚柱部	c. 4畳場					瓶方向のミガキ、円形 透かし、丁寧なナダ	瓶・斜方向のハケ目 丁寧なナダ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	1.5mm以下の灰・白・赤褐色 黒褐色
374	弥生土器	高环 脚柱部	c. 5畳場					瓶方向のミガキ、二列 の竹紋文 円形透かし	徹底的のハケ目	にぶい黄緑	にぶい黄緑	1mm以下の灰・褐色 黑褐色

第13表 出土土器観察表(13)

遺物 番号	種別	器種・ 部位	出土 地點	法 量(cm)		手法・調整・文様はか			色 面		施土の特徴	備考
				口徑	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
375	弥生土器	高环 器部	c.8日暮				ナデ 脚環面に三条の凹溝	横ナデ	灰	にふい黄橙	3mm以下の板・灰色板 1mm以下の透明・黑色光沢	
376	弥生土器	高环 器部	4.4日暮 4.5日暮	(18.2)			縦古向のミガキ、黒斑 ナデ	工具ナデ	灰	灰	1mm以下の板・赤褐色板	
377	弥生土器	高环 器部	c.3日暮				ナデ、ハカ目	横ナデ、工具板	灰	灰	3mm以下の乳白色板 2mm以下の黑色板 微細な光沢	
378	弥生土器	高环 器部	c.3日暮	(5.7)			横ナデ、指側痕	ナデ、黒斑 工具痕	にふい黄橙	にふい黄橙	2mm以下の灰・乳白色板	
379	弥生土器	腰合 底部	4.5日暮 4.6日暮	(24.2)			口部部に三本の凹溝 ナデ、脚・腰合部の小切口 脚・腰合部の小切口	横ナデ、腰古向のミガキ	浅黄橙	浅黄橙	0.5~1mmの赤褐色・乳白色板 0.5~1mmの黑色板	
380	弥生土器	腰合 完形	c.57周 c.6日暮	27.1	20.6	25.15	腰古向のミガキ、腰側 円凹溝かし、黒斑	横・側方向のナデ、腰 方向の腰部凹溝 丁寧なナデ、ミガキ	灰	にふい黄橙	2mm以下の灰白・灰白色・灰 色帶・黑色板	
381	弥生土器	腰合 腰部	c.4日暮				腰古向のミガキ、工具痕 指側痕、黒斑	横ナデ、腰ナデの後腰 方向のミガキ、指側 板、黒斑	にふい黄橙	灰黄	2mm以下の灰・淡青・灰白色板 黑色光沢	
382	弥生土器	腰合 腰部	c.3日暮			(15.4)	横ナデ、指側痕、腰方 向のハカ目後、ミガ キ、凹溝造り	横・側方向のナデ 指側痕	浅黄橙	にふい黄橙	3mm以下の赤褐色・3mm以下の 黑色・乳白色板	
383	弥生土器	体 口縁部	c.4日暮	(14.1)			横・側方向のナデ 指側痕	横方向のナデ	にふい黄橙	にふい黄橙	5mm以下の赤褐色・3mm以下の 灰・褐色板・1mm以下の黑色光沢	
384	弥生土器	体 口縁部	日暮	(10.25)			横ナデ、低いナデ、ナデ 指側痕・灰斑	横ナデ、ナデ、指側痕 にふい黄	にふい黄	にふい黄	2.5mm以下の乳白・褐色板 微細な光沢	
385	弥生土器	体 口縫一底部	日暮	(12.1)		8.75	平行タキ、横ナデ	横ナデ、斜ナデ 工具痕	浅青	にふい黄橙	2~6mmの板・黑・褐色板 2mm以下の透明・黑色光沢	
386	弥生土器	体 口縫一底部 付近	c.3日暮	(9.0)			ナデ、横ナデ、斜方 向のハカ目 指側痕、黒斑	指側痕、ナデ	にふい黄橙	浅黄橙	5mm以下の灰・灰・乳白色板 1mm以下の透明光沢	
387	弥生土器	体 底部 付近	c.57周	(7.5)			ナデ、指側痕 粘土の縮ぎ目	横ナデ 粘土の縮ぎ目	にふい黄橙	にふい黄橙	0.5~1.5mmの灰・黒褐色 板	
388	弥生土器	手捏ね 底部	c.3日暮			(2.5)	ナデ、工具痕、黒斑 指側痕	横ナデ、工具痕	にふい黄橙	暗灰	1mm以下の灰灰・灰白色板 微細な光沢	
389	弥生土器	手捏ね 完形		4.7	1.4	2.5	ナデ、指側痕、黒斑	ナデ、指側痕	にふい黄橙	暗灰	4.5mm以下の灰灰 3mm以下の灰白色板 1mm以下の黑色板・透明光沢	
390	弥生土器	体 底部	c.8日暮			3.9	ナデ、指側痕	ナデ、指側痕	灰	灰	2mm以下の黑色板	
391	須恵器	平蓋	c.3日暮	(12.5)			ナデ、ヘラ削り ヘラ記号	ナデ	灰	灰	縞丸 1mm大的の淡青板・褐灰色板	
392	須恵器	平蓋	ハイレ キゲン				ナデ、ヘラ削り、ヘラ 記号	ナデ	灰	灰	縞丸 1mm大的の灰白色板	
393	須恵器	平蓋	ハイレ キゲン				ナデ、ヘラ削り ヘラ記号	ナデ、ヘラ記号	灰オーリーブ	灰オーリーブ	1mm以下の灰白色板	
394	須恵器	平蓋	c.8日暮				ヘラ削り、ヘラ記号	ナデ	灰	灰オーリーブ	縞丸、1mm以下の灰白色板	
395	須恵器	平蓋	ハイレ キゲン				ヘラ削り、ヘラ記号	ナデ	灰	灰	縞丸 0.5~2mm大的の浅青色板	
396	須恵器	平蓋	c.77周 ハイレ キゲン			(4.5)	ナデ、ヘラ削り、ヘラ 記号	ナデ	灰	灰	縞丸 1mm大的灰黄色板	
397	須恵器	平蓋	ハイレ キゲン				ナデ、縱方向の平行タ キ後横方向のカキ目	同心円の当て具板	灰	灰	2mm以下の乳白色板	
398	須恵器	蓋 底部	ハイレ キゲン				椅子月タキ	ナデ	灰灰 輪側痕 暗オーリーブ	黄灰	7mm以下の乳白色板 2mm以下の黑色板 1mm以下の黑色板	

第14表 出土陶磁器観察表

遺物 番号	種別	器種	出土 地點	法 量(cm)			形態および文様の特徴		色 調		備 考
				口 径	高 度	器 高			外 面	内 面	
416	陶	器 体	ハイレキダン SI2 日置	(16.6)	7.35	7.0			にい黄褐色	にい黄褐色	18C~19C中
417	磁	器 皿	SI2レキ上	13.4	8.5	3.75	朱付、輪花 足ノ目焼削ぎ		明青灰	明青灰	18C中~後半
418	磁	器 皿	ハイレキダン SI2	11.1	4.6	5.7	朱付 足ノ目焼削ぎ		灰白	灰白	18C後半~19C初
419	磁	器 皿	ハイレキダン SI2	12.1	4.55	5.7	朱付 足ノ目焼削ぎ		灰白	灰白	18C後半~19C初
420	磁	器 皿	ハイレキダン c.5Ⅲ番 SI2	10.85	3.9	6.2	朱付、端反り		明鐵灰	明鐵灰	18C前半
421	磁	器 皿	SI2	(12.0)			朱付 足ノ目焼削ぎ		灰白	灰白	18C後半~19C初
422	磁	器 皿	SI2 c.2Ⅲ番	(11.8)			朱付 足ノ目焼削ぎ		灰白	灰白	18C前半
423	磁	器 皿	SI2				透明釉		灰白	淡黄	関西系、18C末~19C前半
425	磁	器 皿	SA12 石積土体	(11.3)	5.9	6.1	朱付		灰白	灰白	庄屋焼 18C末~19C前半
427	磁	器 皿	ハイレキダン	(13.0)			朱付		灰白	灰白	有田 18C前半
428	磁	器 皿	ハイレキダン				色斑		明青灰	明青灰	17C末~18C前半
429	磁	器 皿	ハイレキダン	(8.35)	(3.6)	5.3	朱付		灰白	灰白	18C末~19C初
430	磁	器 皿	ハイレキダン			4.0	朱付		灰白	灰白	有田 18C前半
431	磁	器 皿	ハイレキダン	11.7	4.25	6.25	朱付		灰白	灰白	18C後半
432	磁	器 皿	ハイレキダン	10.15	4.0	5.2	朱付		灰白	灰白	18C中
433	磁	器 皿	ハイレキダン	(11.1)	4.25	5.3	朱付、端反り		灰白	灰白	18C前半
434	磁	器 皿	ハイレキダン	(10.5)		(7.17)	朱付		灰白	灰白	庄屋焼
435	磁	器 皿	c4Ⅱ番 d3Ⅱ番 ハイレキダン	10.8	5.6		朱付		明オリーブ 灰	明オリーブ 灰	庄屋焼18C末~19C初
436	磁	器 皿	ハイレキダン			5.8	朱付 丸込み内に端垂張		灰白	灰白	
437	磁	器 皿	c4Ⅱ番 d3Ⅱ番 ハイレキダン	13.6	5.15		朱付 足ノ目焼削ぎ		明オリーブ 灰	明オリーブ 灰	18C中~後半
438	磁	器 皿	ハイレキダン	(6.0)	(3.6)	(5.6)	朱付		明青灰	明青灰	18C末~19C初
439	磁	器 皿	ハイレキダン	(8.2)	(3.0)	(4.4)	貯入		明オリーブ 灰	明オリーブ 灰	関西系、18C末~19C前半
440	磁	器 皿	ハイレキダン				青斑、端垂張 朱付		灰白	灰白	18C後半
441	磁	器 皿	ハイレキダン				端垂張 朱付		灰白	灰白	18C後半
442	磁	器 皿	d3Ⅱ番		(5.31)		朱付、端垂張		明青灰	明青灰	18C後半
443	磁	器 皿	d3Ⅱ番			3.6	朱付		灰白	灰白	19C前半~中
444	磁	器 皿	ハイレキダン	(13.0)	(8.7)	(3.9)	朱付、足ノ目焼削ぎ 輪花		明青灰	明青灰	
445	磁	器 皿	ハイレキダン	13.7	8.25	4.05	朱付、貯入、足ノ目焼削ぎ 輪花		明青灰	明青灰	18C中~後半
446	磁	器 皿	ハイレキダン c.2Ⅲ番	(14.4)	(8.2)		朱付		明鐵灰	明鐵灰	18C前半
447	磁	器 皿	ハイレキダン	(10.6)	(6.2)	(1.95)	朱付、貯入		灰白	灰白	18C前半

第15表 出土陶磁器・土器観察表

通 番 号	種 別	器 種	出 土 場 所	法 量(cm)			形態および文様の特徴	色 調		備 考	
				口 径	底 径	高 度		外 色	内 色		
448	磁	器	小皿	ハイレキグン		(5.9)	(2.1)	朱付、貫入	灰白	灰白	18C前半
449	磁	器	皿	e.5Ⅲ層	(11.7)	(4.4)	3.5	朱付、鉢ノ目輪剥ぎ	灰白	灰白	18C末~19C前半
450	磁	器	縁口	ハイレキグン	(7.4)	(4.6)	3.9	朱付	灰白	灰白	
451	磁	器	縁口	ハイレキグン	(7.4)	(5.0)	3.8	朱付	灰白	灰白	18C後半
452	磁	器	油壺	ハイレキグン		5.4		朱付、雪輪文	灰白		18C
453	磁	器	香炉	ハイレキグン	(9.9)	8.15	7.6	鏡軸朱付	灰白 に赤い黄褐色		太茎型 17C後半
454	磁	器	瓶	ハイレキグン				朱付	明青灰	明青灰	中国明朝末15C~16C
455	磁	器	碗	日場				通合文	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯系
456	陶	器	皿	e.3Ⅲ層 e.5Ⅲ層 SA2	(20.0)			貫入	に赤い黄	に赤い褐	18C、唐津綱毛丹皿
457	陶	器	皿	ハイレキグン	(19.8)	(4.3)		鉢ノ目輪剥ぎ	に赤い褐	に赤い褐	18C、唐津綱毛丹皿
458	陶	器	皿	ハイレキグン		7.4		見込みに鉢の目輪剥ぎ底繪染り	黄褐	黄褐	18C後半 唐津綱毛丹皿
459	瓦質	土器	火鉢	ハイレキグン				草花文、沈線、横ナデ 指模底	灰	黄灰	
460	瓦質	土器	火鉢	c.5Ⅲ層				草花文、沈線、横ナデ 指模底	黄灰	に赤い黄	
461	瓦質	土器	火鉢	一類				横ナデ	灰青	灰青	
462	土師質土器	鉢	ハイレキグン					横ナデ、ナデ 黒斑	に赤い褐 褐灰	に赤い褐 褐灰	
463	土師質土器	鉢	ハイレキグン					横ナデ、短いナデ、スヌ付 新方向の都目、ナデ	黑 灰青	灰 灰青	
464	灰	器	壺体	ハイレキグン c.5Ⅲ層	(38.95)	(14.3)	(10.32)	横ナデ、短いナデ、則り 新方向の都目、ナデ	赤 赤灰	赤 赤灰	
465	灰	器	壺体	ハイレキグン	(30.2)	(15.3)		横ナデ、ナデ、都目	赤 赤灰	赤 赤灰	
466	灰	器	壺体	ハイレキグン c.5Ⅲ層	(29.8)	(13.0)	12.05	横ナデ、ナデ 都目	明赤褐	に赤い赤褐	

第16表 出土石器計測表

レイアウト番号	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
14	SA2	砥石	6.1	6.2	1.2	91.4	砂岩	
15	SA2	敲石	12.2	6.6	3.3	313.7	砂岩	
23	SA3	台石	12.8	20.8	5.6	1,800	砂岩	
36	SA5	敲石	11.85	4.7	2.35	176.1	砂岩	
37	SA5	石皿	20.2	19.1	6.0	3,600	砂岩	
38	SA5	砥石	34.4	11.35	8.7	6,200	砂岩	
53	SA7	石皿	17.9	28.55	8.65	6,500	砂岩	
119	SA11	砥石	6.65	1.7	1.5	25.8	砂岩	
152	SA15	砥石	4.4	8.8	0.6	29.5	頁岩	
197	SA23	石斧	9.6	6.5	1.3	93.5	砂岩	
220	SA26	石斧	14.55	8.2	1.9	232.9	砂岩	
257	SA28	磨石	11.7	10.4	5.6	1,000	砂岩	
258	SA28	敲石	10.6	6.0	2.7	292.3	砂岩	
277	SA34	石斧	11.5	10.15	2.5	333.9	砂岩	
399	ハイレキグン	石錐	7.8	7.1	1.25	117.8	砂岩	
400	III層	石錐?	9.6	7.5	2.5	219	砂岩	
401	一括	台石	25.9	16.15	10.3	6,000	砂岩	
402	ハイレキグン	磨製石斧	5.35	3.8	1.7	52.3	頁岩	
403	ハイレキグン	石斧	14.0	6.8	3.6	535.8	砂岩	
404	c-8IV層	石斧	13.0	5.1	1.9	137.3	砂岩	
405	d-7III層	円盤状石器	12.3	11.0	2.7	410.7	砂岩	
406	ハイレキグン	石鍬	20.7	10.9	1.9	648.4	砂岩	
407	c-8III層	石斧	12.4	7.6	1.9	198	砂岩	
408	一括III層	石斧	13.25	8.6	1.85	261	砂岩	
409	III層	石斧	13.4	7.8	2.3	208.3	砂岩	
410	一括III層	石斧	11.9	9.65	1.95	226.9	砂岩	
411	一括	石斧	13.3	8.7	1.6	247.3	砂岩	
412	一括	砥石	16.2	9.3	5.1	800	砂岩	
413	ハイレキグン	砥石	6.2	6.9	1.13	64.7	頁岩	
414	ハイレキグン	砥石	8.9	5.1	1.4	110	頁岩	
415	一括	砥石	8.5	8.7	3.0	326.2	砂岩	
426	SC5	台石	16.5	12.0	7.8	2,500	砂岩	

第3章 まとめ

鶴野内中水流遺跡では竪穴住居跡34軒、掘立柱建物跡13棟、竈跡4基、石積土坑1基、土坑7基を検出した。県北地域では例をみないほどの大規模な集落遺跡である。これほど密集して集落が営まれたのは当地域の地勢に因るものと思われる。急峻な山々が多く平野部の少ない県北地域において、耳川の緩やかな流れは鶴野内地区に集落を営むのに適した広い台地をつくりだした。また、隣県に達するほどの川の長さとその緩やかな流れは地域間交流を容易にしたものと思われる。このことを示す資料として瀬戸内系の壺や高坏などが確認されている。本遺跡の調査によって当地域の集落形態の一端が明らかになり、また地域間交流を考える上で重要な資料を提供することができたことは大きな成果といえる。ここでは調査結果について簡単にまとめ、結びとしたい。

出土遺物について

遺物のなかでは弥生時代前期末～古墳時代後期の土器が多く出土しており、底部から割り出した固体数は約160点を数える。器種別にみると壺が最も多く約44%を占め、次いで壺が23%、鉢13%、高坏9%を占める。出土量の豊富な壺を中心に時期を細分すると、前期末に位置付けられるものとして29、288など口縁部に三角突帯を貼り付けるタイプがある。同様の形態をとる270については朝鮮半島の「後期後半」無文土器との関連が指摘された。片岡宏一氏は三角突帯の傾きが異なる点、内外面の調整が類似する点などから、次の3つの可能性を示された。①「後期前半」無文土器（弥生前期末～中期前葉に相当）が日本ナイズされ擬化した。②「後期後半」無文土器（弥生中期中葉～中期後葉に相当）が日本に直接搬入された。③「後期後半」無文土器が日本ナイズされた。下城式のものでは口縁部が短く外反する228、278～280が前期末である可能性があるが、資料が断片的であるため断定はできない。貼付突帯が台形化した中期前葉の特徴をもつものとしては205、226、227、290～292があげられる。中期末～後期前葉にかけては土器量は次第に増加傾向を示す。90、91、188、293、294、299は中期的様相がみられ、60、134～138、153、154、156、295～297などは後期前葉の特徴をそなえている。この時期は土器量の増加に加え、凹線文を施した壺や高坏、器台など西瀬戸内地域を中心とした瀬戸内系土器が多くみられる。150、151、193、266、298、368、375などである。このうち、193の壺は西瀬戸内地域出土のものと接合も可能ではないかと思われるほど器形は勿論、胎土、色調などすべてにおいて酷似しており、直接搬入された可能性が極めて高い。このことは、土器量の増加にみられる集落の隆盛とともに他地域との活発な交流が行なわれていたことを示している。瀬戸内系土器は本遺跡以外にも県内各地で出土している。県北地域では北川流域に位置する差木野遺跡（壺、高坏）、三須遺跡（高坏）、坪谷川右岸の棚田遺跡（高坏）、官崎平野地域では小丸川右岸の台地上に位置する水谷原遺跡（高坏）、新田原遺跡（壺、高坏）、鬼付女川流域の砂丘上に位置する鬼付女西遺跡（壺）、石崎川右岸砂丘上の中溝遺跡（把手付き注口土器）、元村遺跡（高坏）、大淀川右岸の第1砂丘上の櫛遺跡（高坏）、清武川と加江田川に挟まれた台地上に位置する平畑遺跡（壺）、堂地東遺跡（壺）、熊野原遺跡（高坏）、八重川左岸の台地上に位置する加納遺跡（壺）、黒北川左岸の台地上の椎屋形第1遺跡（壺、高坏）、大淀川右岸の微高地上的学頭遺跡（高坏）、本庄川と深年川に挟まれた台地上の上ノ原遺跡（高坏）、南部内陸部では紙屋盆地に位置する紙屋城址遺跡（高坏）、都城盆地の西側に位置する牧の原遺跡（壺）などで出土している。後期後葉～終末期になると固体数が次第に減少していく。この時期のものとして54、155、198、302などがあ

げられる。古墳時代初頭～前期のものも少なく、初頭としては55～58など前期のものでは230、305などがあげられる。中期になると更に少くなり、172、307など数点を数えるのみである。後期には4、44、45などの埋臺が出現してくる。石器では有肩打製石斧の数が多いことが特徴としてあげられる。その他の遺物のほとんどは陶磁器で、その中でも18世紀末～19世紀前半の肥前系染付碗が多数を占める。

検出遺構について

・竪穴住居跡 平面プランはほとんどが隅丸方形を呈し、主柱穴は方形配置の4本柱構造を探るものが多い。規模は床面積36.9m²の大型のものから5.4m²の小型のものまで大きな差があるが、時期差に起因するものかどうかは共伴する遺物が少ないため明確にできない。その中でも時期の特定が比較的容易な9軒について比較してみると時期が下るほど小規模化していく傾向が窺える。その内訳を以下に示す。

弥生中期末～後期前葉；9号（10.7m²）、23号（24.1m²） 弥生後期前葉；15号（24.5m²）

弥生後期後葉～終末；24号（17.2m²） 弥生終末～古墳初頭；8号（13.7m²）

古墳後期；2号（12.9m²）、7号（14.9m²）、10号（11.8m²）、5号（18.8m²）

・掘立柱建物跡 今回確認した13棟のうち9号、10号の2棟は耕作土を埋土としており近代のものと思われる。他の11棟については1号竈及び2号竈と埋土が類似しているため18世紀～19世紀に比定される。棟方位はN65°W前後のもの（6棟）とN20°W前後のもの（5棟）に大別できる。このうち、12号と13号は建物の規模及び配置状況から一方の建替えが考えられる。また、3号については石積土坑の上屋、5号と6号については竈小屋の可能性について第2章第4節で記した。

・石積土坑 出土遺物から19世紀前後の遺構と考えられる。これに類似した遺構は県内では確認されておらず、遺物も染付碗が1点確認されたのみであるため性格については不明である。県外では佐賀県山浦新田遺跡や西山田二本松遺跡などで類例が報告されているが、後者は中世に位置付けられており本遺跡のものとの関連は薄い。

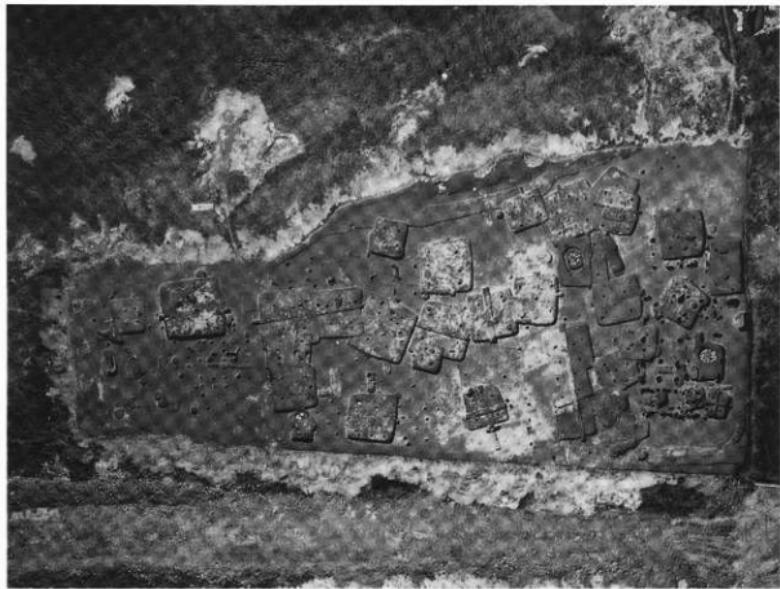
註

- (1) 石川恒太郎『延岡市史』第1巻 延岡市郷土研究会 1949
- (2) 「桶田遺跡」 東郷町教育委員会 1991
- (3) 「水谷原遺跡」 宮崎県教育委員会 1988
- (4) 「新田原遺跡」 新富町教育委員会 1986
- (5) 「佐土原中溝遺跡調査報告書」 宮崎県道路公社 1976
- (6) 「平畠遺跡の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985
- (7) 「堂地東遺跡の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985
- (8) 「熊野原遺跡A・B地区の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第4集 1988
- (9) 「加納の遺跡」『宮崎県史蹟調査報告』第10集 宮崎県教育委員会 1965
- (10) 「椎屋形第1遺跡・椎屋形第2遺跡・上の原遺跡」 宮崎市教育委員会 1996
- (11) 「学頭遺跡・八児遺跡」 宮崎県教育委員会 1995
- (12) 「上ノ原遺跡」『国富町文化財調査資料』第4集 1986
- (13) 「紙屋城址遺跡」『野尻町文化財調査報告書』第3集 1988
- (14) 「都谷遺跡」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(14)』佐賀県教育委員会 1991

参考文献

- 石川悦雄 「宮崎平野における弥生土器編年試案－素描－（Mk.Ⅱ）」『宮崎考古』9 1984
- 石川悦雄 「弥生時代後期後半から古墳時代の土器編年にむけて－予察Ⅰ高坏」『宮崎県総合博物館研究紀要』第15輯 1990
- 吉本正典 「宮崎平野出土の土師器に関する編年的考察－須恵器出現以前の資料を中心として－」『宮崎考古』14 1995
- 『上菌地区F地区・溜水第2遺跡』 新富町教育委員会 1995

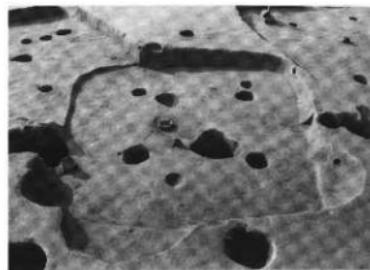
図 版



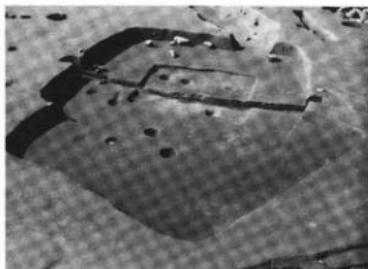
錦野内中水流遺跡全景



S A 1



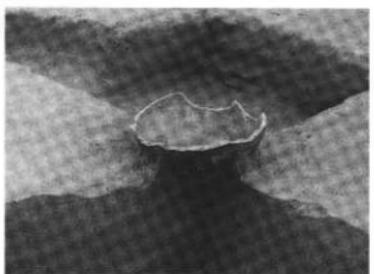
S A 2



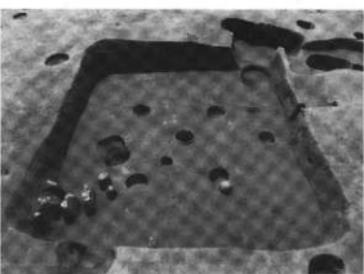
S A 5 · 6



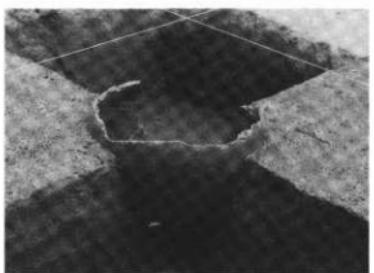
S A 7



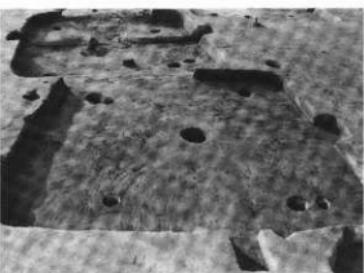
SA 7 埋 窓



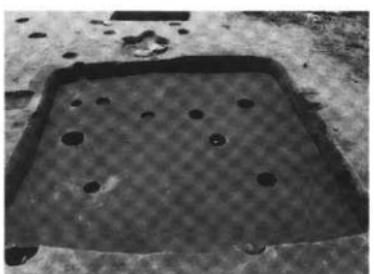
SA 10



SA 10 埋 窓



SA 14



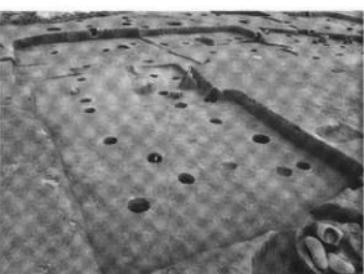
SA 16



SA 17



SA 19 • 20 • 21



SA 16 • 24 • 25